

国立国語研究所学術情報リポジトリ

全国方言談話データベース 日本のふるさとことば
集成：第15巻 広島・山口

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Institute for Japanese Language メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002255

全国方言談話データベース

日本のふるさとことば集成

第15巻 広島・山口

国立国語研究所資料集 13-15

国立国語研究所

2003

国書刊行会

刊行のことは

昭和52年度から昭和60年度にかけて、「各地方言収集緊急調査」という全国規模での方言談話の収録事業が、文化庁によって実施されました。調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、各地の方言研究者が全面的に協力して行われました。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていました。その後、時を経て、この調査によって収録された膨大な録音テープと文字化原稿は、文化庁から国立国語研究所に移管されました。

これらの資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものです。そこで、国立国語研究所では、受け継いだ資料を有効に利用するために、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始しました。平成8～12年度には「方言録音文字化資料に関する研究」で、平成13年度からは「日本語情報資源の形成と共有のための基盤形成」の一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んできました。また、データベース化にあたっては、平成9年度から科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。従来にはあまりなかった、音声と文字化の電子化データを備えていますので、研究や教育に活用いただけることと思います。なお、本資料集の作成については、情報資料部門第一領域の井上文子が担当しました。

「各地方言収集緊急調査」の録音・文字化にあたっては、全国の研究者の方々が献身的に御尽力くださいました。話者として、多くのみなさまから御協力を得ました。また、各都道府県教育委員会の関係者、および、有志の御助力がありました。刊行にあたって、記して深く感謝の意を表します。

平成15年12月

国立国語研究所長 甲斐睦朗

利用にあたって

1. 内容

この書籍（冊子，CD-ROM，CD）には，以下のものを収録しています。

	冊子	CD-ROM	CD
刊行のことば	○	○	
利用にあたって	○	○	
目次	○	○	

広島県広島市1977

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	
【神楽】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

山口県豊浦郡豊北町1978

地図	○	○	
話者・担当者	○	○	
解説	○	○	
凡例	○	○	
談話	○	○	

【井戸掘り，箱苗，農業の今昔】			
文字化・共通語訳	○		
文字化・共通語訳 pdf+方言音声 wave（ページ単位）		○	
文字化・共通語訳検索 FileMaker		○	
文字化 text（談話全体）		○	
共通語訳 text（談話全体）		○	
方言音声（談話全体）			○
注記	○	○	

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について	○		
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	○		
「各地方言収集緊急調査」地点地図	○		
各地方言収集緊急調査補助全体計画	○		
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	○		
各地方言収集緊急調査実施要領	○		
各地方言収集緊急調査の実施について	○		
調査実施上の留意事項について	○		
「全国方言談話データベース」について	○		

Adobe Acrobat Reader		○	
----------------------	--	---	--

音声データ仕様：サンプリング周波数22.050kHz，量子化ビット数16bit，
waveファイル，ステレオ

CD-ROM は，CD プレイヤーで再生しないでください。CD プレイヤーが壊れることがあります。

本データベース編集にあたっては，個人のプライバシー等に配慮しました。

談話データの中には，現在では，その使用が好ましくないとされるような表現が含まれている場合もあり得ますが，学術的・歴史的資料の保存という観点から，そのまま収録しました。この点にご配慮のうえ，お使いください。

2. 著作権

この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータの著作権は、国立国語研究所にあります。

3. 利用条件

利用にあたっては、以下の利用条件をすべて守ってください。

- (1) 国立国語研究所の著作権を侵害するような行為はしないでください。
- (2) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータは、どのような目的においても、また、どのような媒体（紙、電子メディア、インターネットを含む）によっても、他人に再配布しないでください。
- (3) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータは、非営利の教育・研究目的に限り、自由に利用できます。ただし、上記（2）は守ってください。
- (4) この冊子、CD-ROM、CD に収録されているデータを利用した成果物を公表する場合は、
「国立国語研究所が作成した『全国方言談話データベース』を利用した。」
などのように、明記してください。
あわせて、成果物を国立国語研究所にご寄贈いただければさいわいです。
- (5) 以上の利用条件に合致しない場合、あるいは、利用について不明な点がある場合は、国立国語研究所に問い合わせてください。

連絡先：〒115-8620

東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所 情報資料部門

「全国方言談話データベース」係

FAX：03-3906-3530

4. 付記

データの電子化、CD-ROM、CD の作成については、平成9(1997)～15(2003)年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受けています。

国立国語研究所資料集 13-15

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成
第15巻 広島・山口

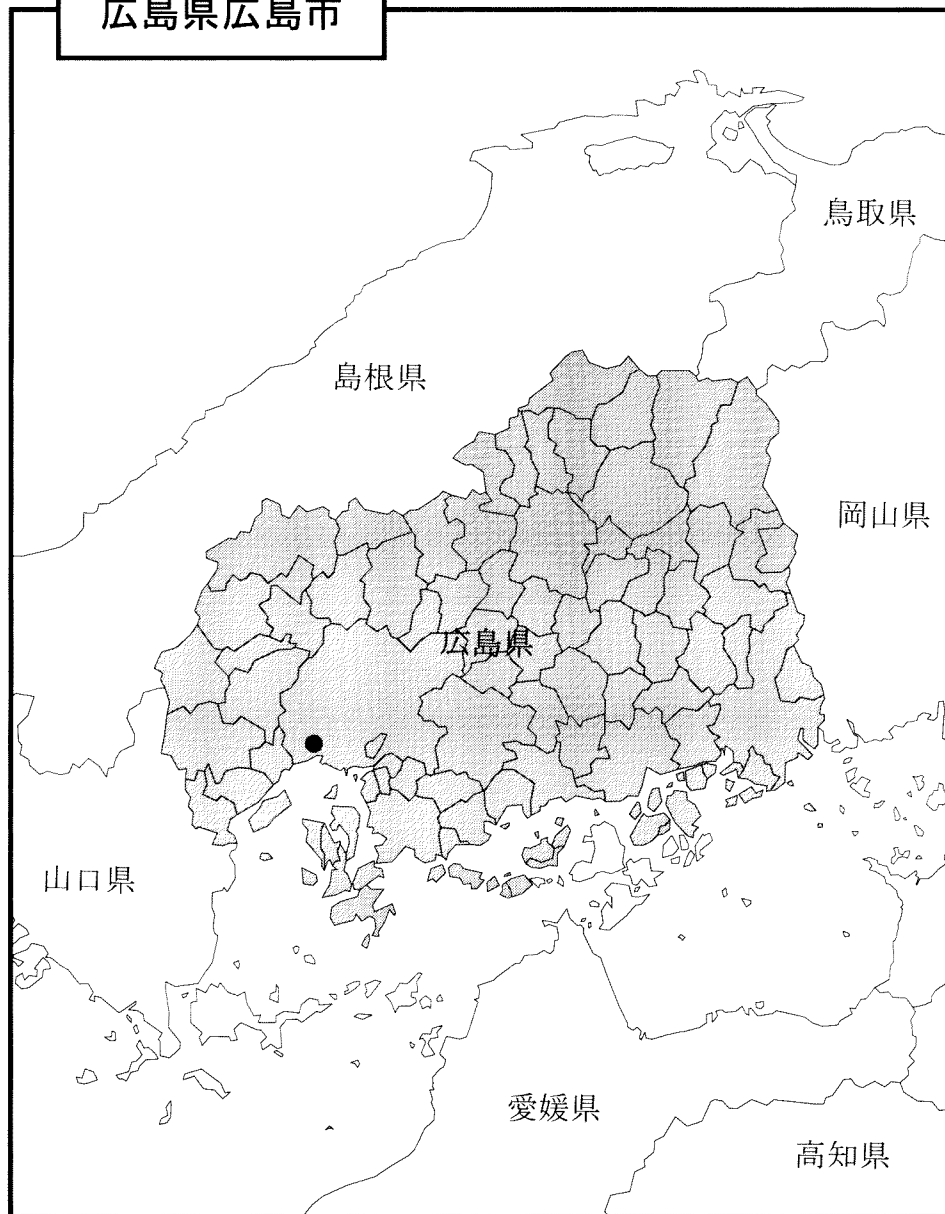
目次

刊行のことば	3
利用にあたって	5
 I. 広島県広島市1977	 11
地図	12
話者・担当者	13
解説	14
凡例	18
談話	23
【神楽】	24
注記	115
 II. 山口県豊浦郡豊北町1978	 121
地図	122
話者・担当者	123
解説	124
凡例	133
談話	138
【井戸掘り，箱苗，農業の今昔】	139
注記	255
 作成・公開の経緯	 265
「各地方言収集緊急調査」について	267
「各地方言収集緊急調査」地点一覧	271

「各地方言収集緊急調査」地点地図	276
各地方言収集緊急調査補助全体計画	277
各地方言収集緊急調査費国庫補助要項	278
各地方言収集緊急調査実施要領	279
各地方言収集緊急調査の実施について	282
調査実施上の留意事項について	284
「全国方言談話データベース」について	290

I. 広島県広島市 1977

広島県広島市



広島県広島市1977話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	川崎 モトコ
	湯尻 伊得
	渡辺 ユリ
収録担当者	神鳥 武彦
文字化担当者	神鳥 武彦
共通語訳担当者	神鳥 武彦
解説担当者	神鳥 武彦

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	花岡 健吾
	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

広島県広島市1977解説

収録地点名

広島県広島市古江東町^{ふるえひがしまち}（現・広島県広島市西区古江東町）

収録地点の概観

位置

広島市は広島県の西南部、古江東町は広島市の西部に位置する。

交通

山陽本線広島駅より西に約10分の西広島駅で下車。隣接する広島電鉄宮島線己斐駅^{こい}（現・西広島駅）より約6分の古江駅で下車。駅北部の山すその集落が古江東町である。山陽本線・広島電鉄線と並行して旧山陽道が通っている。

地勢

広島市は、太田川デルタによって形成された土地であり、古江東町を含む地域は、三角洲の底辺部の西端に位置する。北側は、海拔約200mの山地である。集落の大半は山麓部の傾斜地に広がっている。1870(明治3)年に、旧山陽道の南の海面が埋め立てられ、庚午新開^{こうぐしんがい}（現・庚午新開^{こうぐしんかい}）と呼ばれる干拓地が作られた。

行政区画

古江東町は、もとは広島市古田町古江の一部。古江は、古くは安芸国佐伯郡古江村。1871(明治4)年、古江村は広島県に所属。1889(明治22)年、古田村大字古江となる。1929(昭和4)年4月1日、古田村は、東隣の己斐村、西隣の草津村とともに、広島市に編入され、広島市古田町古江となる。1970(昭和45)年に、広島市古江東町となった。

戸数・人口

1929(昭和4)年4月1日に広島市に編入された当時、古江の世帯数約130戸、人口約800人とされている。

なお、古江は、古くから南北アメリカへ多くの移民を出した土地でもある。移民経験者、あるいは、親戚を南北アメリカに持つ家族も多い。

産業

かつては農業を主体とする地域であった。古江が宅地化される以前は、山麓

地域は、地中海に相似するといわれる気候を利用して、イチジク・ビワなどの果物、野菜の産地として有名であった。現在では、農産物の生産はわずかであり、都市型の勤労者が増加している。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

広島県の方言は、大きく、東部の備後方言と、西部の安芸方言に分けられる。たとえば、「アイ」連母音は、備後方言では [æ:] , 安芸方言では [a:] となる。また、「盆」は、備後方言では「ポー」、安芸方言では「ボン」というなどの対立がある。

広島市古江東町は、安芸方言のほぼ中心地に位置している。

音韻

(1) 「ウ」母音は、円唇の [u] である。

(2) 「アイ」連母音は、[æ:] となる。

アカー (赤い)

(3) 「エイ」連母音は、[e:] となる。

ケーダイ (境内)

(4) [ɔ], [g] の区別はなく、[g] で発音される。

(5) [s] が [h] に、[ʃ] が [ç] に変化する傾向が強い。

アリマヘン (ありません)

シマヒョー (しましよう)

(6) [tsa] の音が認められる。

オツツァン (おじさん)

アクセント

(1) アクセントの体系は、東京語に類似している。

(2) 具体的なアクセントの型は、東京語と違っているものも多い。

イノチ (命) (東京語 イノチ)

アラシ (嵐) (東京語 アラシ)

(3) いわゆる平板型の語は、単語や文節の単位で発音される場合は、単語末、文節末の音節が高く発音されるが、文中では全体が低く発音される。

ウシ (牛)

ウシガ (牛が)

ウシガ オル (牛がいる)

文法

- (1) 意志形の「起きよう」は「オキュー」、「しよう」は「ショー」、「来よう」は「コー」となる。

- (2) 進行態には「ヨル」、結果態には「トル」が用いられる。

マワシヨル (回している)

タツトル (立っている)

- (3) 打消には「ン」を用いる。打消の過去形には、「ザッタ」が稀に用いられるが、ほとんどは「ナンダ」である。打消の仮定形には「ンニャー」が用いられる。

セン (しない)

セナンダ (しなかった)

デキンニャー (できなければ)

- (4) 可能・不可能には、副詞「ヨー」が用いられる。

ヨー セン (できない)

- (5) 格助詞の「を」は、前接する語の末尾音と融合する。

ハナー (花を)

ウシュー (牛を)

- (6) 格助詞「ト」が現れない。「ト抜け」といわれる。

カミユータラ (紙 [と] いったら)

- (7) 間投詞「カー」が用いられる。この現象は「安芸ガラス」と言いならわされてきたものである。

ホイデカー (それでね)

- (8) 文末詞は、ふつう「ノー」を用いる。中年層以下の人々は「ネー」を用いる。老年層でも女性は「ネー」を多用している。「ニョー」のような発音になることもある。

ダメジャノー (だめだね)

ミルンジャケーネー (見るのだからね)

ソージャローニョー (そうだろうね)

- (9) 男女ともに、文末詞「ワイ」を用いる。

オリマスワイ (おりますよ)

- (10) 丁寧表現の「ガンス」、「アリマス」が用いられる。

キレーニ ガンス (きれいでございます, きれいです)

キレーニ アリマス (きれいでございます, きれいです)

- (11) 「テジャ」敬語, 「ンサル」敬語が用いられる。

イッテジャ (行かれる)

イキンサル (行かれる)

イキンサイ (行きなさい)

- (12) 接続詞の形は多彩である。

ホイテ (そして)

ホテ (そして)

ホイジャガ (そうだが)

ホジャガ (そうだが)

ホイジャケー (そうだから)

ホジャケー (そうだから)

ホヤケ (そうだから)

- (13) 動詞終止形を重ねて, 「～しながら」という意味を表現することがある。

ユーユー (言いながら)

アルクアルク (歩きながら)

(以上の解説は, 基本的に, 「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿, および, 『広島県方言緊急調査報告書』(広島県教育委員会, 1981年) によるものである。)

広島県広島市1977凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROM には、ページ単位で切った方言談話音声を、CD には、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケトイテ？

預けておいて？

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

/// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんですネ。

[] (全角)

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ
みかん [を] 乗せて

= (全角)

[] 内の＝は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー
今 いう [=今話題にあがった]

| | (全角)

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[] (全角)

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキササンノオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をクリックさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「広島01-1」は CD トラック番号が01で、その1ページ目ということである。「広島01-1」「広島01-2」……「広島01-6/02-1」……「広島19-4」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑01, **01↑02**, …… **18↑19**, **19↑** のように表示される。

第15巻のCD（75分36秒）には、広島県広島市の談話，【神楽】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
01	p.24・0.1	p.29・0.1	0:02:03
02	p.29・0.3	p.34・0.11	0:02:01
03	p.34・0.13	p.38・0.7	0:02:03
04	p.38・0.9	p.42・0.19	0:02:04
05	p.42・0.19	p.47・0.15	0:02:01
06	p.47・0.17	p.51・0.15	0:01:59
07	p.51・0.15	p.56・0.15	0:02:05
08	p.56・0.15	p.61・0.3	0:02:03
09	p.61・0.5	p.66・0.17	0:02:02
10	p.66・0.19	p.72・0.13	0:02:02
11	p.72・0.15	p.76・0.19	0:02:02
12	p.77・0.1	p.81・0.15	0:02:02
13	p.81・0.17	p.86・0.9	0:02:02
14	p.86・0.11	p.91・0.7	0:02:02
15	p.91・0.7	p.95・0.15	0:02:07
16	p.95・0.15	p.101・0.5	0:02:00
17	p.101・0.5	p.105・0.9	0:02:02
18	p.105・0.11	p.110・0.19	0:02:03
19	p.111・0.1	p.114・0.19	0:01:25
計			0:38:08

広島県広島市1977談話

収録地点 広島県広島市^{あるまじきまち}古江東町（現・広島県広島市西区古江東町）

収録日時 1977(昭和52)年 9 月13日

収録場所 広島県広島市古江東町 西部農協

話題 神楽

話者

A	男	1907(明治40)年	(収録時70歳)	農業
B	女	1899(明治32)年	(収録時77歳)	無職
C	女	1912(大正1)年	(収録時65歳)	無職

調査者

D	男	1929(昭和4)年	(収録時48歳)	大学教員
			(収録談話中に発話なし)	広島県教育委員会職員
			(収録談話中に発話なし)	広島市教育委員会職員

収録時間 (CD) 38分08秒

【神楽】

話し手

- A 男 明治40年生 (収録時70歳)
B 女 明治32年生 (収録時77歳)
C 女 大正1年生 (収録時65歳)
D 男 昭和4年生 調査者

1 D : マイダナ[1] ッテ ドコデスカ。

舞棚 って どこですか。

↑01

2 C : アノー ソノ カグラ[2]オ マウネ。(D アー)

あの その 神楽を 舞うね。(D ああ)

ホイジャカラ チョード イマゴロ ボンオドリノ トキニ
だから ちょうど 近頃 盆踊りの 時に

ヤグラガ シテ アルデショ。

櫓が して あるでしょう。

アッチ コッチー マチカドデ アーユー フーナネ。

あちら こちら 街角で ああいう ふうなね。

アリョー アノー オーキナ キデ

あれを あの 大きな 木で

モー マイダナ ユーテ マイオ マウ。

もう 舞棚 [と]いって 舞を 舞う。

広島 01-2

アリヤー ナンゲン[3] アルンデスカ。
あれは 何間 . あるのですか。

サンゲンニ サンゲングライ。
3間に 3間ぐらい。

3 A : アー サンゲングライデショ。
ああ 3間ぐらいでしょう。

4 C : ネット。サンゲン サンゲンデヒヨ。 ノッ。
ね。 3間 3間でしょう。 ね。

5 A : ウン。 ソ ソンナ モンジャロ。 シ
うん。 × そんな ものだらう。 うん

6 C : ホイデ ワリニ セガ タカイデスヨノ アレガ。
そうして 割に 背が 高いですよ ね あれが。

7 A : ウン ウン ウン。 ムカシャー アノ ミナ
うん うん うん。 昔は あの みんな

キデ ツクッタノオ (C ウン) クミヨットンジャガ。
木で 作ったのを (C うん) 組んでいたのだが。

8 C : クミヨットンジャガ。
組んでいたのだが。

9 A : イマワ マー アーシテ カネデ。
今は まあ ああして 金属で。

広島 01-3

10C : エー イマワ カネデネー。 (A エー)

ええ 今は 金属でね。 (A ええ)

アー コシラエテ アルケド。

ああ[いうふうに] 作って あるけれど。

11A : アレデ ナンデ ネジリヤー エーンジャ (C エー)

あれで 何で ねじれば いいのだ。 (C ええ)

アリヤー マエヨリ ヨー ナッタ。

あれは 前より よく なった。

12C : ムカシャー ミナ アリョー ナワー ノーテカラー[4]。

昔は みんな あれを 縄を なって。

ミナー。 マイダナー アー。

みんな。 舞棚 ああ。

13A : ソーヨ ソーヨ。 ユワエヨッタンジャケーネー。 アリヤー

そうよ そうよ。 結んでいたのだからね。 あれは

14C : ソーヨ。 ミナー (A ソー ソー)

そうよ。 みんな (A そう そう)

アノー ヨルヨル アノー ナワー ノーテカラ

あの 毎夜 あの 縄を なって

マイダナ ククラニヤー ナランケー

舞棚[を] くくらなければ ならないから

広島 01-4

ナワー ノートカニャー イケンケー
縄を なっておかなければ いけないから

ナワー ソイドケヨー[5] ユーチャー
縄[=わら]を そいでおけよ [と]言っでは

コンダケ キョーワ ソイドケー
これだけ 今日は そいでおけ

コン キョーワ コンダケ ソイドケー ユーテ
×× 今日は これだけ そいでおけ [と]言っでは

ワラノ タバー ホーリダシトイテ イカレルノー
わらの 束[を] 放り出しておいて 行かれるのを

コドモノ ゴロニ アー ソレコソ テ イッパイグライニ
子供の 頃に ああ それこそ 手 いっぱいくらいに

ワラー モッテ ウヨー コー ネジテ ホノ ホーオ ネジテ
わらを 持って 上を こう ねじって 穂の ほうを ねじって

ホイテ シタエ モッテットッテ タタクンデス。
そして 下へ 持っていっておいて たたくのです。

ソースルト イネノ ネノ ホー ガワノ
そうすると 稲の 根の 方[の] 側の

ハカマ[6]デスヨネ。アレガ コー トレルンデスヨ。
茎の皮ですよ。あれが こう 取れるのですよ。

広島 01-5

ソノ マタ トレタノー テデ コーシテ アノ コイデ
その また 取れたのを 手で こうして あの しごいて

ワラノ ナカノ ミダキョーミタイナ オモナ トコロダケ
わらの 中の 身だけみたいな 主な ところだけ

コー トルンデス。 デ ソリョ コンド シメラシテ
こう 取るのです。 で それを 今度 湿らせて

アノ ミズー ウッテ ホシテ コンド ツチデ タタクンデス。
あの 水を うって そして 今度 槌で たたくのです。

デ ヤオー シトイテ ソリョー アノ
で 柔らかに しておいて それを あの

サンボンナリ ゴホンナリ アノー ナウンデスヨ。
3本なり 5本なり あの なのですよ。

ソリョー マイニチ マイニチ。 {咳払い}
それを 毎日 毎日。 {咳払い}

15D : デ ソノ マエダナオ ツクラレル トキニ アノ
で その 舞棚を 作られる 時に あの

オタクノ ツリヤ〔7〕ン トコロデ レンシューサレタトカ
お宅の 釣屋の 所で 練習されたとか

ナ ツリヤ ッテ ナンデスカ。
× 釣屋 って 何ですか。

16C : {笑} (B {笑}) (A ンー) ツリヤ ユータラ
{笑} (B {笑}) (A うん) 釣屋 [と]いったら

01↑02

イマー ナニュー ユーテ エーデスカネ。(B アノ)
今 何を 言って いいですかね。(B あの)

17A : ホイジャカラ (C チョード)
だから (C ちょうど)

コッチノ オーキー アノ イエガ アリマショー。
こちらの 大きい あの 家が あるでしょう。

アタリマエノ イエガ。ホイデ コッチー ナヤ ユーンガ
普通の 家が。そして こちらに 納屋 [と]いうのが

ムカシャー ミナ アリヨッタ (C エー) (B ン)
昔は みんな あったの。(C ええ) (B うん)

ソノ アイダエ アノ コー ツリヤ ユーンガ
その 間へ あの こう 釣屋 [と]いうのが

アリヨッタ。(D ハー ***) ン。
あった。(D はあ ***) うん。

18C : ハー ソノ ツリヤ ユーノガ
はあ その 釣屋 [と]いうのが

オモテカラ ウラエ ムケテ (A ウン ウン)
表から 裏へ 向けて (A うん うん)

広島 02-2

ホトンドノ イエガ スケルンデスヨノ。
ほとんどの 家が 抜けるんですよね。

(A ソー ソー ソー ウン)

(A そう そう そう うん)

ウン ソレコソ ウラグチ ユーノガ
うん それこそ 裏口 [と]いうのが

ムカシャー セドグチ[8] セドグチ
昔は 背戸口 背戸口

イーヨリマシタケド (A ンー)
[と]っていましたけれど (A うん)

アノ オーキー イエデ ユータラ
あの 大きい 家で いったら

ウチゲンカント ソトゲンカンミタイナ モンデヒョーナ。
内玄関と 外玄関みたいな ものでしょうね。

19A : マー マー ソーユー コトヨネ。イマ
まあ まあ そういう ことよね。今

イマデ イヤー ソーユー コトヨ。
今で いえば そういう ことよ。

20C : エー。イマデ ユータラネ。(A ハー ハー)
ええ。今で いったらね。(A はあ はあ)

広島 02-3

ウチゲンカンデ オキヤクサンノ トコロガ ウチゲンカン
内玄関で お客さんの 所が 内玄関

(A ウン) ホイデ アノ ツリヤノ イリグチワ

(A うん) そして あの 釣屋の 入口は

ソトゲンカンミタイナ モンデスヨノ。
外玄関みたいな ものですよね。

(A ソー ソー ウン) ホイデ。

(A そう そう うん) それで。

21A : フダン デイハ デハイリオ スルトコロ。
ふだん ××× 出入りを するところ。

22C : ホトンド フダン ソコカラ デハイリユースルン。 ***
ほとんど ふだん そこから 出入りを するの。 ***

(A ウン ウン)

(A うん うん)

23D : デ ソノ トコロニ ダイガラウス[9] ッテ ナニオ スル。
で その 所に 台唐臼 って 何を する。

24C : ダイガラウス ユータラ (D ン)
台唐臼 [と]いったら (D うん)

オコメオ ツイタリ (D ン)
お米を ついたり (D うん)

広島 02-4

ホイカラ オモチオ ツイタリ スル ウスデス。
それから お餅を ついたり する 白です。

25D : ハハー ウス。
ははあ 白。

26C : ソレガ ツチノ モトエ モッテッテ
それが 土の ところへ 持って行って

ウスガ イシウスガ イケコンデ アルンデス。
白が 石白が 埋め込んで あるのです。

27D : ハー コー ヤルノニネ。
はあ こう やるのにね。

28C : ハー (B フン フン) ホイデ ソレオ アシデ
はあ (B ふん ふん) それで それを 足で

フムンデス。 ヨク アノ テレビヤナンカデ
踏むのです。 よく あの テレビなどで

アリマショー。
あるでしょう。

29D : エー エー シッテマス シッテマス。
ええ ええ 知ってます 知ってます。

30C : ハー ハー。 アレガ ソノ イエノ ソノ ソノ
はあ はあ。 あれが その 家の その その

広島 02-5

ツリヤノ スミッコノ ホーエ (A フン フン)
釣屋の 隅っこの ほうへ (A ふん ふん)

ドッコノ イエデモ ツクッテ アルンデスヨ。
どこか 家でも 作って あるのですよ。

31A : ウン ウン。 マー ナイ イエワ ナカッタヨノー。
うん うん。 まあ ない 家は なかったよね。

ホリヤー エー
それは ええ

32C : ホヤカラ コドモノ トキーニデモ
だから 子供の 時にでも

ソレオ モー ドーデモ コーデモ
それを もう どうでも こうでも

アノ マイニチ コメオ ツカサレルノガ (A ウン)
あの 毎日 米を つかされるのが (A うん)

アノ タケノ ナーガイノー モッテ
あの 竹の 長いのを 持って

ソノ ダイガラウスノ ウエエ アガッテ
その 台唐臼の 上へ 上がって

ホイデ ジョーズニ ツイテ ハヨー ツコ オモヤー
そして 上手に ついて 早く つこう [と]思えば

イチバーン ウシロオ フンデ (A ホー)
一番 後ろを 踏んで (A ほう)

ホイデ コンド ソノ フンデ ウエー アガッタ イキオイデ
そして 今度 その 踏んで 上に 上がった 勢いで

ソノ ハンタイガワノ アシデ マヨー ポント ツクンデス。
その 反対側の 足で 前を ぽんと つくのです。

ソー スルト ムコーエ モッテッテ
そう すると 向こうへ もってって

ハンドーデ (D {笑}) ポント オリルデショ。
反動で (D {笑}) ぽんと 下りるでしょう。

ソー スルト オコメガ ハヨー ソノ ツケルンデスヨ。
そう すると お米が 早く その つけるのですよ。

02↑03

ホイジャカラ ソリョー ス シテ ホイカラ
だから それを × して それから

ソノ ナカノ オコメガ エー ガニ
その 中の お米が よい ぐあいに

ヒックリカエレルヨーニ コッチカラ タケデ
ひっくり返れるように こちらから 竹で

ツツクンデス。 ソー スルト ナカノ オコメガ ソトエ コー
つつくのです。 そう すると 中の お米が 外へ こう

広島 03-2

デルノガ コンダ ナカガワエ コー マワルンデスヨネ。
出るのが 今度は 中側へ こう 回りますよね。

ソノ マワルノガ コー タケデ マタ
その 回るのが こう 竹で また

ホキューシテ ヤルンデス。(A ンー)
補給して やるのです。(A うん)

ソー スト ハヨー オコメガ ツケルン。
そう すると 早く お米が つけるの。

デ イシバイオ ハヨー イレルト ヨケー イレルト
で 石灰を 早く 入れると よけいに 入れると

ハヨー シロー ナルンジャガ (A ウン) アリョー
早く 白く なるのだが (A うん) あれを

イレルト フロー ハイルトキニ ヌカガ ツカワレンケー
入れると 風呂に 入る時に 糠が 使えないから

(A アー) (B {笑})

(A ああ) (B {笑})

イレチャー エット イレチャー イケン ユーテ
入れては 多く 入れては いけない [と]いって

(A ハー ハー) セッケン ユー モノガ

(A はあ はあ) 石鯰 [と]いう ものが

広島 03-3

ムカシャー ソー ナカッタンデスケン
昔は そう なかったのですから

ホトンド ヌカデ オフロー (B {笑})
ほとんど 糠で お風呂を (B {笑})

ツカイヨッタンデスケー。 ヌカブクロー コシラエテ。
使っていたのですから。 糠袋を こしらえて。

ホイデ ソノ ヌカオ スルノニ
それで その 糠を するのに

ソノ イシコー ヨケー イレテ ツクト
その 石粉を よけいに 入れて つくと

カオガ アレタリスルケー ソノー コメノオ ツクトキニ
顔が 荒れたりするから その 米×を つくときに

イシコー ヨケー イレナ ユー コトデ。
石粉を よけいに 入れるな [と]いう ことで。

スコーシ イレルト ハヨー シロー ナランノデスヨ。
少し 入れる[のだ]と 早く 白く ならないのですよ。

ケド ナイショージャー チュー。
けれど 内緒では という。

33D : デ ソ ソノ ツリヤデ レンシュウ シタワケデスカ。
それで × その 釣屋で 練習 したわけですか。

広島 03-4

34C : ハイ。(D ハー) {B 笑} ホイジャカラ オウチラノガ
はい。(D はあ) {B 笑} だから お宅らのが

ヤッパリ ニケン ニケンハンニ ニケンハングライ
やはり 2間 2間半に 2間半ぐらい

(A ウン ウン) アッタローノ。アソコガ。

(A うん うん) あったろうね。あそこが。

(A ウン ウン)

(A うん うん)

ホヤケー チート セマイナノワ セメインジャケド。
だから 少し 狭い×のは 狭いのだけれど。

ホイジャガ ナントカ アスコデ アー ミナ ア マー
だが 何とか あそこで ああ みんな あ まあ

クラノ マエノ アレガ アッタケーデモ アルンジャローケド。
倉の 前の あれが あったからでも あるのだろうけれど。

(A ン) ホントニ マイバン マイバン

(A うん) ほんとうに 毎晩 毎晩

ヨー レンシュウ ショラレマシタ。
よく 練習 しておられました。

35A : タケヤ[10]ノ オジーサンガノー。
竹屋の おじいさんがね。

アレ アレガ ドンクライノ トシジャッタローカノー。
あれ あれが どのくらいの 歳だったろうかね。

アレデモ ナガーイ コト オセーラレタガ。 アー
あれでも 長い こと 教えられたが。 ああ

36C : アー ズイブン ナゴー オシエラレタヨ。 {咳払い}
ああ ずいぶん 長く 教えられたよ。 {咳払い}

37A : エー ナゴー オシエラレタヨ。
ええ 長く 教えられたよ。

03↑04

オッツァンノ コシモトー ミーヨ ユーテ アノ
おじさんの 腰元を 見ろよ [と]いって あの

キモノノ コレオ コー カラゲテ。 (C エー エー エー)
着物の これを こう はしょって。 (C ええ ええ ええ)

オッツァンノ コシモト アノ アシモトー ミーヨ
おじさんの 腰元 あの 足元を 見ろよ

ユーテ。 ヨー。 *** {笑}
[と]いって。 よく。 *** {笑}

38C : シリカラゲオ シテネー。
尻はしりを してね。

イツデモ アノ マイノ トキニャーネー。 (A アー ソー)
いつでも あの 舞の 時にはね。 (A ああ そう)

広島 04-2

エー。ホイデ コシオ オトシテ マワラニャー
ええ。それで 腰を 落として 回らねば

ワカラン[11]デー (A {笑})
だめだよ (A {笑})

コシオ オトセヨ コシオ オトセヨ ユーテ (A ンー)
腰を 落とせよ 腰を 落とせよ [と]いって (A うん)

シッカリ アシー アゲテ ユーチャー。 ヨー。
しっかり 足を 上げて [と]いっては。 よく。

(A ウン)
(A うん)

39B : マエ ユーテモ
舞 [と]いっても

ジューニジンギー[12] イーマスカラ アレデスガ
十二神祇 [と]いいますから あれですが

ソートー カズガ アッタンデショー。
相当 数が あったのでしょよう。

40A : エー エー。 (B ネ)
ええ ええ。 (B ね)

ジューニジンギ イヨツタカラ。 (B ハー)
十二神祇 [と]いていたから。 (B はあ)

広島 04-3

ジューニグライ アッタンジャロ。 ア アリマヒョーヨ。
12ぐらい あったのだろう。 × あるでしょうよ。

ジューニグライ ジューニクライ。 (B ネー アー)
12×くらい 12くらい。 (B ね ああ)

41C : イチバン ハジメガ ススハキ[13]デヒョ。
一番 初めが すすはきでしょう。

42A : エー エー。
ええ ええ。

43C : ホイカラ コンドー。 ニー
それから 今度。 ××

44A : ゴジンギ ゴジンギガ アル。
御神祇 御神祇が ある。

45C : マ ゴジンギャー アノ ナカデ (A アー アー)
ま 御神祇は あの 中で (A ああ ああ)

ハイデンノ ナカデ マウンジャケド
拝殿の 中で 舞うのだけれど

ホイジャケ マ ゴジンギト ホイカラ ススハキト
だから ま 御神祇と それから すすはきと

ホイカラ ニートー[14]ガ サキデヒョ。
それから 仁当が 先でしょう。

広島 04-4

(A ホー ニートーカ) ニートート (A ウン)

(A ほう 仁当か) 仁当と (A うん)

ホイカラ コンド サンテン[15]オ。 (A ソー ソー)

それから 今度 三天を。 (A そう そう)

サンテンオ ヤッテ (A ンー)

三天を やって (A うん)

ホイカラ コンド アンドー[16] ヤルンデスカ。

それから 今度 安道を やるのですか。

46A : アー アングライジャッターローナ。 ン。

ああ あのくらいだっただろうな。 うん。

47C : ナッ。 ホイカラ アンドノ アトガ アンドノ アトガナ。

ね。 それから 安道の 後が 安道の 後がね。

エート アンドノ アト イショー ツケルノニ ユーテ

ええと 安道の 後 衣装を つけるのに [と]いって

ヨー ハナショー ショラレタノニ ナギナター[17]

よく 話を しておられたのに 長刀を

アンドノ アトグライニ (B アー) イレタリショラレタ。

安道の 後ぐらいに (B ああ) 入れたりしておられた。

(A アー アー。 ソーカモ ワカランノ。 ンー)

(A ああ ああ。 そうかも しれないね。 うん)

ソー セント コドモニ ショモワケ[18]オ スルノニ。
そう しないと 子供に ショモワケを するのに。

(A ンー) コドモニ イショー ツケルノニ

(A うん) 子供に 衣装を つけるのに

(A ソー ソー) ウン。アレジャケー ユーテ

(A そう そう) うん。あれだから [と]って

ナギナター アイダー イレテ (A ソー ソー)
長刀を 間に 入れて (A そう そう)

デ ソノ アトー ショモワケオ シテ (A ウン)
で その 後[に] ショモワケを して (A うん)

ホイカラ コンドー ウラシマ[19]ワ ダイブン アトデシタ。
それから 今度 浦島は だいぶん 後でした。

48A: シン アリヤー ダイブン アトジャッタ。
うん あれは だいぶん 後だった。

49C: ナー。(A エー) ソー スルト
ね。(A ええ) そう すると

ウラシマガ アトジャッタラ ホヤケー ショモワケノ トキニ
浦島が 後だったら だから ショモワケの ときに

ヒキツズキニ アレガ デマショー。 アノー リュー[20]ガ。
引き続きに あれが 出るでしょう。 あの 竜が。

04↑05

50A：アー カッセン[21]ガ。

ああ 合戦が。

51C：カッセンガ アッテ (A ンー)

合戦が あって (A うん)

ホイカラ アノー リューガ デマサーナー。

それから あの 竜が 出ますよね。

52B：タマトリ[22]ガ ***

玉とりが ***

53C：タマトリガ。 タマー アルカ。 タマー アルカ。

玉とりが。 玉は あるか。 玉は あるか。

54A：アリヤー ナンジャケー アノー アマ[23]ジャー。

あれは 何だから あの 天だ。

アリヤー アマジャ。 ンー。

あれは 天だ。 うん。

55C：アー アリヤー アマ。 ホイジャケー エート

ああ あれは 天。 だから ええと

カッセンオ シテ スンデー ア ソーカ

合戦を して すんで あ そうか

ソレト コンドー イマノ ナギナタオ シテ

それと 今度 今の 長刀を して

広島 05-3

ホイカラ アマオ[24]ガ アッテ ンーカラ ホイジャケー
それから 天生が あって それから だから

ウーント イマノ ウラシマガ アル。(A ウン)
ううんと 今の 浦島が ある。(A うん)

マ ジュンジョワ アトサキニ ナルニ シテモ
ま 順序は 後先に なるに しても

ウラシマガ アルント
浦島が あるのと

エベスダイコク[25]ガ アルント (A オー) シテン[26]
夷大黒が あるのと (A おお) 四天

オーエヤマ[27]ガ アルント (A シ シテンガ アル)
大江山が あるのと (A × 四天が ある)

エー オッ ホイカラ シテンガ アル。
ええ おお それから 四天が ある。

56A : ンー ハタ ハタマエ[28]ガ。
うん ×× 旗前が。

57C : オッ ハタ ハタマエガ アル。(A ウン)
おお ×× 旗前が ある。(A うん)

ホイカラ コンド。
それから 今度。

広島 05-4

58A : マー アラヒラ[29]ガ ドーシタトカ ナー。

まあ 荒平が どうしたとか な。

59C : マー アラヒラー サイゴジャガ ナンカ アルカイナ？

まあ 荒平は 最後だが 何か あるかな

60A : アノグライジャ ナイカ。

そのくらいでは ないか。

61C : ナンカ ソー スルト ヤッパリ ジューサンシグライニ ナル。

何か そう すると やはり 13、4ぐらいに なる。

62A : アー アー。(B ン)

ああ ああ。(B うん)

ミナ ヤリヤー ソーナ コトジャ。

みんな やれば そんな ことだ。

63C : アー ミナ ヤリヨッタケー。

ああ みんな やっていたから。

64A : ンー ムカシャー ヒチハチ ユーンガ アリヨッタヨ。

うん 昔は 7、8 [と]いうのが あったよ。

65C : ヒチハチ ユータラ ドントナンデスカ。

7、8 [と]いったら どんなのですか。

66A : アノ フタリガ アノ タイコー トリオータリ

あの 二人が あの 太鼓を 取り合ったり

広島 05-5

アノ ナンヤラ カーセノ ミズグルマジャ ユーテ
あの 何やら 川瀬の 水車だ [と]って

コーテ カタエ カツイデ コー ヒックリカエツタリ
こうして 肩へ かついで こう ひっくりかえったり

ナンカ スルンガ アリヨッタ。
何か するのが あった。

67C : ソー イワレリヤー ウチラー コーマイトキョー。
そう いわれれば 私などは 小さい時よ。

68A : ソー ホージャロ。 ヤッタコター ナイケー。
うん そうだろ。 やったことは ないから。

69C : ハー チート オーキュー ナッテカラワ ナカッタヨー。
もう 少し 大きく なってからは なかったよ。

70A : ウン。 ハー アリヤー ナンラー ヤリヨッタロー。
うん。 はあ あれは 何かは やっていたろう。

アノ X1ノ アノ X2ツァン ユーンガ オリヨッタ。
あの X1の あの X2さん [と]いうのが いた。

アレラガ ヤリヨッタ。
あの人などが やっていた。

アレガ サイゴダッタローヨ。
あれが 最後だったろうよ。

71C : アノ X1ノ ジッツァン ジッツァン イーヨッテ
あの X1の おじいさん おじいさん [と]って

ワシラガ イヨッタ ブンカノ。
私らが 言っていた 人かね。

72A : イーヤ ソレジャー ナイジャロ？
いいや それでは ないだろう

73C : アノ オーケー ジッツァンヨ？
あの 大きい おじいさんよ

74A : アー。 ヤー ヤー ソージャー ナイ。
ああ いや いや そうでは ない。

75B : ソレノ マゴカ コドモカ。
そのの 孫か 子供か。

76A : ハー ハー。 マゴグライジャ。
はあ はあ。 孫ぐらいだ。

77B : シン マゴ マゴドモデショー。
うん 孫 孫達でしょう。

05↑06

78A : X1ニ デタンガ オッタ。(C アー ホーカノ)
X1に 出たのが いた。(C ああ そうかね)

シー。 マコト アンタン トコニャー トナリジャケー
うん。 まったく あなたの 所には 隣だから

広島 06-2

アロガ ワカッタンジャロー。

／／が わかったのだろう。

79B：ン ハー X3 X3 ユーンガ オッチャッタデス。
うん はあ X3 X3 [と]いうのが いらっしゃったです。

X3 X3 タラ ユーンジャケー。

X3 X3 とか いうのだから。

80A：ハー ハー ハー ハー。アレノ オトートガ (B ハー)
はあ は はあ はあ。あれの 弟が (B はあ)

X2 ツァン ユーンガ オリヨッタン。エー。

X2 さん [と]いうのが いたの。 ええ。

81C：ホイデ ミナ センヨーニ ナッテカラ
それで みんな しないように なって

アノー アイダデ ニワカシバヨウ[30]ミタイナ コトー
あの 間で 俄芝居みたいな ことを

(A アー アー) ネー。

(A ああ ああ) ね。

82A：ソー ソー。エー エー。(C エー) {笑}
そう そう。ええ ええ。(C ええ) {笑}

X4ノ ババサンガ。

X4の おばあさんが。

広島 06-3

83C : エー。ソー ソー。アレラガネ。 (A ウン)
ええ。そう そう。あの人などがね。 (A うん)

アノ ニワカシバヨーミトーナ コトー (A ウン)
あの 俄芝居みたいな ことを (A うん)

チョコチョコ アイダー イレテ。 (A ソー ソー)
ちょこちょこ 間に 入れて。 (A そう そう)

ウン ショラレタケド。 ンー。
うん しておられたけれど。 うん。

84A : マコト マコト。
まったく まったく。

85C : ホイジャガ アノ ゼーンブワ ナゴー サレマシタデー。
だが あの 全部は 長く されましたよ。

86A : エッ。
えっ。

87C : アノ ゼンブノ イマノ ナニ
あの 全部の 今の 何

オーヤマ[31]カラ ナニカラ ミナ。
大山から 何から みんな。

88A : ハー ハー。 エー エー。
はあ はあ。 ええ ええ。

広島 06-4

ソリャー オソーマデ ヤリ ヤリヨットンジャケー (C エー)
それは 遅くまで ×× やっていたのだから (C ええ)

アノゴロワ。
あの頃は。

89C : イヤ ホイジャガ ネンガ ナゴーニノ。(A ウン)
いや だが 年が 長くな。(A うん)

ワシラガ オボエトルンガ ナガイヨーニ (A ウーン ウン)
私などが 覚えているのが 長いように (A うん うん)

オモウヨ。
思うよ。

ホイジャケー センソーガ ボツボツ ハジマッタ ゴログライカラ
だから 戦争が ぼつぼつ 始まった 頃くらいから

アレガ アノー ダンダン スクノー ナッテ (A ーン)
あれが あの だんだん 少なく なって (A うん)

イットキ セナンダ コトガ アル。
一時期 しなかった ことが ある。

90A : セナンダ コトガ アル。(C ウン) エー
しなかった ことが ある。(C うん) ええ

91C : エ マー エンショー[32]ガ デキン コトニ ナッタケネー。
え まあ 煙硝が できない ことになったからね。

(A ソー ソー) ホヤケー ヒドー (A ウン)

(A そう そう) だから ひどく (A うん)

マー マツリモ デキンヨーニ ナッテ。(A ン)

まあ 祭りも できないように なって。(A うん)

92A: ソリヤー ムカシャー アノ エンショーオ

それは 昔は あの 煙硝を

イッキン[33] ヤロー オモータラ

1斤 やろう [と]思ったら

アノ ハンギンオ ドーシテモ アノ ヤゲン[34]デ

あの 半斤を どうしても あの 薬研で

ニジカンハングライ メギ[35]ヨッタケーノー。

2時間半ぐらい 砕いていたからね。

アリヤー。 エー。

あれは。 ええ。

ソレガ イマゴロデコソ アー シテ キカイデ ヤルケー。

それが 近頃では ああ して 機械で やるから。

06↑07

(C ンー)

(C うん)

アントナイナー ソリヤー キチョーナ モノジャッタノヨ。

あのようなものは それは 貴重な ものだったのよ。

広島 07-2

(C ウン)

(C うん)

アノ イッキンノ エンショー ユータラ。
あの 1斤の 煙硝 [と]いったら。

93C：ソリャ ソージャローニョー。 {咳払い}
それは そうだろうね。 {咳払い}

94A：アノ イレル カネデモ (C ウン)
あの 入れる 金属でも (C うん)

イマゴロナー ツイ アノグライ ***
近頃のは ちょっと あのくらい ***

コー ツイ モンデ ヤルグライジャガ
こう ちょっと もんで やるぐらいだが

アノゴロニャー アノ イモノノ アリョー
あの頃には あの 鋳物の あれを

カチンカチン メギヨットンジャケー。(C ウーン)
かちんかちん[と] 砕いていたのだから。(C うん)

エー カナズチ。 アリャ ナンデ。 ゲンノー[36]デ。
ええ 金槌。 あれは 何で。 げんのうで。

95C：ホイカラ アノ カジヤサンエ イッテカラ
それから あの 鍛冶屋さんへ 行って

広島 07-3

アノ アー アノ カネノ コー モローテ キョラレタヨ?
あの ああ あの 金の 粉を もらって 来ておられたよ

(A ウン ウン ウン) ウン。

(A うん うん うん) うん。

96A : トーバン ユーガ オッテノー。 ソリヤー マコト。
当番 [と]いうのが いてね。 それは まったく。

アノ マイクニ ドーシテモ ニキングライ イルンジャ。
あの ///に どうしても 2斤ぐらい いるのだ

マイクガ ツカウンガ。(C ウーン)
///が 使うのが。(C うん)

ソレオ セーネンカイノ モンガ トーバンデ
それを 青年会の 者が 当番で

(C ソー ソー) ミナ メギヨッタ。

(C そう そう) みんな 碎いていた。

97D : メグ ユーテ ドースルンデスカ。 コワスノ。
「メグ」 って どうするのですか。 こわすの。

98C : アノ イマデ ユー ソノ マ イマゴラワ
あの 今で いう その まあ 今頃は

アレー サレマセンケド ヨー テレビヤナンカニ
あれを されませんけれど よく テレビなどに

広島 07-4

ムカシノ オイシャサンガ アノ クスリーオ (D アー)
昔の お医者さんが あの 薬を (D ああ)

アノー メグノニ アノ コーユー フーニ ナッタ アノ
あの 砕くのに あの こういう ふうに なった あの

モノ。(A ヤ ヤゲン ユー ヤゲン)
もの。(A × 薬研 [と]いう 薬研)

99C : ヤゲン ユーテ コーユー フーニ ナッテ
薬研 [と]いって こういう ふうに なって

マンマルイノデ マンナカイ シンボガ アルノ
まん丸いので まん中に 心棒が あるの[を]

コーシテ コーシテ アノ クスリユーヤラ
こうして こうして あの 薬をやら

ムカシノ ホイジャカラ (A ンー)
昔の だから (A うん)

キノミトカ アノー キノ ネットカ ユーヨーナ モノー
木の実とか あの 木の 根っことか いうような ものを

コーシテ アノー メギヨラレル テレビガ アリマスネ。
こうして あの 砕いておられる テレビが ありますね。

(A ウン) チョード アーユー モノデ
(A うん) ちょうど ああいう ものを

広島 07-5

アノー エンショー メグンデス。(A アー) ミンナ。
あの 煙硝を 砕くのです。(A ああ) みんな。

100B : アリョー オーキュー シタヨーナ モンデネ。(C エー)
あれを 大きく したような ものでね。(C ええ)

101A : シー。 アレオ オーキュー
うん。 あれを 大きく

アーナ チーサイ モンジャー ナイ。
あんな 小さい ものでは ない。

102C : エー アーナ チーサイ モンジャー ナイデス。
ええ あんな 小さい ものでは ないです。

(A コ コ コ コ コノグライ コノグライ アルモノナ
(A × × × × このくらい このくらい あるものね

ン) ミンナ オーキーデスガネ。(A ン) シー。
うん) みんな 大きいです。(A うん) うん。

103A : アノ ヤゲンガ スクナインジャケー
あの 薬研が 少ないのだから

マー ミ ミンナガ ジカンワリデ (C ソー ソー ソー)
まあ × みんなが 時間割りで (C そう そう そう)

ナンジカラ ナンジマデ アンタ ツ ツカエ (C ウン)
何時から 何時まで あなた × 使え (C うん)

ナンジマデ アンター ツカエー ユーヨーナ コトデ
何時まで あなたが 使え [と]というような ことで

ヨルモ ズーット (C ウン) アノ ヨルモ ネズトカ
夜も ずっと (C うん) あの 夜も 寝ないでとか

ジャケー (C ソー ソー) ツカイヨッタ ワケヨ。
だから (C そう そう) 使っていた わけよ。

104C : ホヤケー イマゴロノ ヨーニ ソノー コーマイ
だから 近頃の ように その 小さい

ソレコソ ヒャクグラムジャー ナイガ
それこそ 100グラムでは ないが

ジューグラムグライ ハカレルヨーナ ハカリヤー
10グラムぐらい 量れるような 秤は

アリヤー センノジャケー (A ウン)
ありは しないのだから (A うん)

サラバカリノ アノー ナニー
皿秤の あの 何に

07↑08

テンビンノ サラバカリー モッテッテ (A ウン)
天秤の 皿秤を 持って行って (A うん)

アノ ソレコソ チャワンヤラ サラヤラ イレテ (A ウン)
あの それこそ 茶碗やら 皿やら 入れて (A うん)

広島 08-2

ソリョー ハカッタイテ
それを 量っておいて

ソレー エンショー コー イレチャー (A アー アー)
それへ 煙硝を こう 入れては (A ああ ああ)

アノー ハカリヨラレタケー。
あの 量っておられたから。

(A ウーン ウー ソリャ ソーヤ) ハイ。
(A うん うん それは そうだ) はい。

105A : ソー。 イマゴロ ホイジャケー
そう。 近頃[は] だから

グラムデ ヤルンジャケー ワカランヨ。 ワシラーノ。
グラムで やるのだから わからないよ。 私などはね。

ムカシャー アノ イッキン イッキン
昔は あの 1斤 1斤

(C エー。 ソー ソー) ナンデモ ヤリヨッタ。
(C ええ。 そう そう) 何でも やっていた。

エー。 アレデ ユーテ モラワニャー ケントーガ ツカン。
ええ。 あれで 言って もらわなければ 見当が つかない。

106B : アンジャガ ワ セーネンダンヤラ ワカイ ヒトガ
あれだが × 青年団やら 若い 人が

広島 08-3

ミナ イッショーケンメー ナンデシタイネー。
みんな 一生懸命 何でしたね。

フルエンニャー ポンクラガ オラン ユーテ。
古江には ぼんやりしている人が いない [と]いって。

マツリョー ス ショー オモウンデ。 ミナネ。
祭りを × しよう [と]思うので。 みんなね。

コズカイ タメニャー ナランデショ。
小遣い[を] 貯めなければ ならないでしょう。

エンショー スルノニ。 ホイジャカラ
煙硝[を] するのに。 だから

ミナ マジメナ ヒトバツカリジャ ユーテネ。 {笑}
みんな まじめな 人ばかりだ [と]いってね。 {笑}

(A・C・D {笑}) イーヨラレマシタデスヨー。
(A・C・D {笑}) 言っておられましたですよ。

ソートー オカネモ カカルンデス。 エンショーニ。
相当 お金も かかるのです。 煙硝に。

ナニシテネ。 アノ ホイカラ カサビー[37] ユーテ
何してね。 あの それから 笠火 [と]いって

コー グルグル グルグル マワッテネ。 オ ナンデスヨ。
こう ぐるぐる ぐるぐる 回ってね。 × 何ですよ。

広島 08-4

オーキナ ハ ハチジョーノグライノワ アリマヒョーナ？
大きな × 8畳のくらいのは あるでしょうね

107A：エー エー
ええ ええ

108B：イワンアルデヒョーナ。
言わないくらいあるでしょうな。

(A ウーン ーン)

(A うん うん)

109C：アレガ マワッテ (A ウン) ヒロカッター
あれが 回って (A うん) 広がったら

イマノ (A ウン) サンゲン ニサンゲンヨリカ マダ
今の (A うん) 3間 2、3間よりも まだ

ソトエ (A ン ン マ デル) ハナビガ
外へ (A うん うん まあ 出る) 花火が

(A エー) アノ マワッテ トビマスカラ (A ーン)
(A ええ) あの 回って 飛びますから (A うん)

アノー ソートー ヒロー オーキューニ マワリマス。
あの 相当 広く 大きく 回ります。

ソリョー タケー モッテッテ
それを 竹を もって行って

広島 08-5

アノ マンナカニ シンボーガ アッテ
あの まん中に 心棒が あって

ソレガ ジューニ ウゴイテ
それが 自由に 動いて

ソノ ウエト シタトニ アノ ヨコニ イッボン
その 上と 下とに あの 横に 1本

マタ アノー キガ アリマス。
また あの 木が あります。

ソレー コーユー フーニ ハンタイニ
それに こういう ふうに 反対に

イッボンワ ミギ イッボンワ ヒダリ ユーヨーニ シテ
1本は 右 1本は 左 [と]いうように して

マタ シタノモ ソーユー フーニ シテ
また 下のも そういう ふうに して

デー アノ ソレエ ヒオ ツケテ
[それ]で あの それに 火を つけて

ウエノガ マワッタラ コンダー シタノガ マワルトカ
上のが 回ったら 今度は 下のが 回るとか

シタガ マワッタラ ウエノガ マワルトカ ユーヨーニ
下が 回ったら 上のが 回るとか いうように

アリヤー スルンデヒョ? オジサン。(A ウン ウン)
あれは するのでしょうか おじさん。(A うん うん)

ネー。(A ン)
ね。(A うん)

08↑09

ホイデ マワリカエシジャ ユーテ (A {笑})
それで 回り返した [と]いって (A {笑})

ソレガ キレーニ マワツタラ
それが きれいに 回ったら

ウエノガ スンダラ シタノガ マワルカイ (A ウン)
上のが すんだら 下のが 回るか (A うん)

シタノガ スンダラ ウエノガ マワルカイ ユーテ
下のが すんだら 上のが 回るか [と]いって

ソレガ ハジケズニ キレーニ ヒダリマワリカラ
それが はじけずに きれいに 左回りから

コンド ウエガ ミギマワリニ ナッテ キレーニ ナツタラ
今度 上が 右回りに なって きれいに なったら

ミンナガ エーナー エーナー (A・B・D {笑})
みんなが いいな いいな (A・B・D {笑})

エーナー エーナー ユーテカラ
いいな いいな [と]いって

広島 09-2

テオ タタクンデスヨ。 ウーン。 (A・B {笑})
手を たたくのですよ うん。 (A・B {笑})

ホヤカラ ムカシャー キレーナ キレーナ ユーテ
だから 昔は きれいだ きれいだ [と]いって

タタクモナー オラン (A ーン)
たたくものは いない (A うん)

アリャ ナンデ エーノー エーノー ユーテ
あれは 何で いいね いいね [と]いって

(A・B {笑}) タタキヨットンデスカノ。
(A・B {笑}) たたいていたのですかね。

{笑} (A ーン)
{笑} (A うん)

110D : デ マイワ ソノー ナラシヨッタ ト
それで 舞は その 「ナラシヨッタ」 と

オッシャイマシタネー。 マイオ。
おっしゃいましたね。 舞を。

111C : ハー レンシュエデス。
はあ 練習です。

112D : レンシュースル コトオ ナラス ト ユーンデスカ。
練習する ことを 「ナラス」 と いうのですか。

(A ハー ハー ハー)

(A はあ はあ はあ)

113C : ハー レンシュースル コトオ マイオ ナラス
はあ 練習する ことを 舞を 「ナラス」

ユーンデス。 (A・B ウーン)

[と]いうのです。 (A・B うん)

ホヤカラ ソレガ マー ココノ トコロノ
だから それが まあ ここの 所の

ホーゲンミタイナ モンカネー。 (A {笑})
方言みたいな ものかね。 (A {笑})

114A : シー シー マー ホージャローヨ。 (C ウーン)
うん うん まあ そうだろうよ。 (C うん)

ヨソエ イッテ ヨソジャ ツーヨーセンカモ ワカラン。
よそへ 行って よそでは 通用しないかも しれない。

115C : ヨソエ イッテ アーヨーナ コトジャー
よそへ 行って ああいうような ことでは

ツーヨーシャー セン。 (B {笑}) (A アー ソー)
通用しは しない。 (B {笑}) (A ああ そう)

シー。 (A シー)

うん。 (A うん)

広島 09-4

116B : マー Aサンラー アレ アノー ナンヨ。

まあ Aさんなどは あれ あの 何よ。

アラヒラ イツモ センモンニ ヤリヨラレマシタガ
荒平[を] いつも 専門に やっておられましたか

(A ウン) ウエト シタデ ハナビガ マワルデシヨ。

(A うん) 上と 下で 花火が 回るでしょう。

(A ウン ウン) アノ トキ オソロシーデシヨ。

(A うん うん) あの 時 恐ろしいでしょう。

117A : イーエ オソロシー コター ナイデスヨ。

いいえ 恐ろしい ことは ないですよ。

118B : ホーデスカ。

そうですか。

119A : エー ホイジャガ アノ

ええ そうだが あの

120B : アノ キンラン[38]ノ イショー キテネ。

あの 金欄の 衣装を 着てね。

ホイテ アラヒララノ ナッテ ナンデスヨ。(A ンー)

そして 荒平など×[に] なって 何ですよ。(A うん)

アノ オニノ オーキナ ボー モツテカラ デ サイゴニ

あの 鬼の 大きな 棒を 持って それで 最後に

広島 09-5

ハナビガ アタマト アシノ シタトデ マワルンデスヨ。
花火が 頭と 足の 下とで 回るのですよ。

ソノ カサビガネ。 ソリョー イッツモ。
その 笠火がね。 それを いつも。

121A : ダイガ グラグラスルンデ (B ハー)
台が ぐらぐらするので (B はあ)

アレガ オソロシカッタ。
あれが 恐ろしかった。

(C アッ) (B ハー ハー) エー。
(C あ) (B はあ はあ) ええ。

122B : ソーデスカ。
そうですか。

123A : アレ ナオサニャー ナオサニャー ユーユー
あれ[を] 直さねば 直さねば [と]言いながら

ドーシテモ アノ (B ア)
どうしても あの (B あ)

ライネンワ エー ガニ ショーデー ユーンジャガ
来年は よい ぐあいに しょうよ [と]いうのだが

ヤッパリ ナオラン。
やはり 直らない。

124C : イマモッテ アリヤー。

今でも あれは。

125A : アー コー ダイガ コー ナル モンジャケー (B ー)

ああ こう 台が こう なる ものだから (B うん)

ソノ タッテ ウエガ コーシテ モットル (B ー)

その 立って 上が こうして 持っている (B うん)

コレガ アタマー クルン。

これが 頭[に] 近づくの。

シター ガラガラ マワシヨルノニ マワリヨルン。

下は がらがら 回しているのに 回っているの。

ソノ ダイガ イゴクンジャケー (B ー)

その 台が 動くのだから (B うん)

ソリヤー オソロシー。 ン。

それは 恐ろしい。 うん。

126B : マー コノ ジューニジンギワ アノ

まあ この 十二神祇は あの

ムケーブンカザイン ナットルンデスヨ。 (D ハー)

無形文化財に なっているのですよ。 (D はあ)

09↑10

フン。 ナッ シ アノ シガンチューカー。 {笑}

ふん。 ×× × あの 志願 [=申請] 中か。 {笑}

広島 10-2

モー ナッタンデスカ。(A イーヤ) X5サンガ。

もう なったのですか。(A いや) X5さんが。

127A : イーヤ アレ アーユンジャガ トテモ マダ。

いや あれ ああいうのだが とても まだ。

ナッチャー オランガ。{笑}

なっては いないが。{笑}

128B : アッ アッ マダ。 ウン。

あ あ まだ。 うん。

129A : ナッチャ オラン

なっては いない

130C : アー トテモ マダ ココノワ (B フン フン)

ああ とても まだ ここのは (B ふん ふん)

ソーユー トコロガ イキマセンガ。(A ーン ーン)

そういう ところへは いきませんが。(A うん うん)

ウン。

うん。

131B : X5サンガ イッショーケンメー ヤリヨラレタ。

X5さんが 一生懸命 やっておられた。

(A エー エー エー ソーヤ) ノー

(A ええ ええ ええ そうだ) ね

広島 10-3

ウンドー ショラレタ。 (A シー)

運動 しておられた。 (A うん)

132D : ソイジャー ソノ イマノ (B ハイ) カサビ ッテ
それでは その 今の (B はい) 笠火 と

ユーノモ マイノ ヒトツノ ナカニ ハイルワケ。

いうのも 舞の 一つの 中に 入るわけ。

ソージャー ナクテ (C イエ) (A シー)

そうでは なくて (C いえ) (A うん)

ソリヤ カサビワ エンショーノ ア アソビダケデスカ。

それは 笠火は 煙硝の × 遊びだけですか。

133B : ハー。

はい。

134A : シー ソー ソー。 イ イマノ

うん そう そう。 × 今の

135C : イエ。

いえ。

ソレト マー マイノ ナカニモ ハイルナー ハイリマスケド。

それと まあ 舞の 中にも 入ることは 入りますけれど。

136A : エー エー。 ***

ええ ええ。 ***

広島 10-4

イマノ サイゴノ (C サイゴノ) アラヒラ ユーノガ
今の 最後の (C 最後の) 荒平 [と]というのが

アノ アー アラヒラノ イショー キテ
あの ああ 荒平の 衣装[を] 着て

コレエ アノ アタ アタマエ ツケテ ヤッテ。
これへ あの ×× 頭に つけて やって。

シタト リョーホーデ。 ホイジャケー ヒン ナカエネ。
下と 両方で。 だから 火の 中へね。

(D ホー ホー) アノ シタニ ヒガ アル。
(D ほう ほう) あの 下に 火が ある。

ウエガ マワッテ ヒガ アル。
上が 回って 火が ある。

ソン ナカニ アノ タットル ワケ。 {笑}
その 中に あの 立っている わけ。 {笑}

137B : キレーニ ゴザイマスヨ。 トッテモ。
きれいで ございますよ。 とても。

138A : ソーレガネー アンター アレ (B ア)
それがね あなた あれ (B あ)

シタノ ケムリガ コー シテ
下の 煙が こう して

広島 10-5

アノ メノ ナカー ハイッテ クルンジャケー
あの 目の 中に 入って くるのだから

ヨイヨ[39] ヤネコイ[40]ンゾ アリヤー。 ンー。
まあ つらいのよ。 あれは。 うん。

139B : マウ ヒトワネー。 (A ウン) ヤネコインデス。
舞う 人はね。 (A うん) つらいのです。

140A : イチド アノ アノ ハナノ アナカラ
一度 あの あの 鼻の 穴から

ミル[41]ンジャケーネー。 (C {笑}) {笑}
見るのだからね。 (C {笑}) {笑}

アノ コー ミルータラ。 (C ンー)
あの こう 見るといったら。 (C うん)

ハナノ アナカラシカ ミラレンノジャケー ソレガ アナタ。
鼻の 穴からしか 見られないのだから それが あなた。

ヘタ ヘタナ キャクワ イレトキャ マー エー
下手 下手な 客は 入れておけば まあ いい

テ イヤー ナニ ユーカ コリヤー
と 言えば 何[を] 言うか これは

テ ユーテカラ。 {笑} (B・C {笑})
と 言って。 {笑} (B・C {笑})

広島 10-6

141C : マウ モナー エー ドコロジャー ナイ (A・B {笑})
舞う 者は いい どころでは ない (A・B {笑})

142B : アラヒラワ ヒロシマノ ホーカラデモネ。
荒平は 広島の ほうからでもね。

アノー ヨーケ ミニ キヨラレマシタヨ。
あの 大勢 見に 来ておられましたよ。

ココノ アレデネ。 アラヒラー モーテモ ハ
ここの あれでね。 荒平[を] 舞っても ×

ハナビュー ツケテ マウノガ メッタ ナインデスヨ。
花火を つけて 舞うのが めった[に] ないのですよ。

ホイダカラネ。 ユーメーニ。
だからね。 有名に。

クサツホーメン ヒロシマホーメンカラネ。
草津方面 広島方面からね。

ミニ オイデヨッタデスヨ。 {笑}
見に 来られていたですよ。 {笑}

143D : オシーデスネ。 ソンナ (A ハー?) (B ウン)
惜しいですね。 そんな (A はあ) (B うん)

タノシー マイオ ナクシテシマッタラ。
楽しい 舞を なくしてしまったら。

(A イエ アリマスヨ?)

(A いえ ありますよ)

144C : イヤ ナイヨーニャー シチャー オリマセン。

いや ないように は しては おりません。

(A アルンデスヨ?) アリマスヨ。(A ンー) ン。

(A あるんですよ) ありますよ。(A うん) うん。

タダ イマワネ ソノー ヒトリノ ヒトガ ソノ
ただ 今はね その ひとりの 人が その

ハナビモ ツケタリ モータリ ユー コトオ
花火も つけたり 舞ったり [と]いう ことを

センノデス。

しないのです。

ソリャー アノ イショーオ ソノ ゴーカバンニ シタンデス。

それは あの 衣装を その 豪華版に したのです。

10↑11

イマゴロノ ソノ テレビヤナンカニ デルヨーナ
近頃の その テレビなどに 出るような

ゴーカバンノ イショーニ シタンデス。

豪華版の 衣装に したのです。

シター ソノ ハナビュー

そうしたら その 花火を

広島 11-2

ソノ イショーエ ハナビガ ツイテ ヤケタラ
その 衣装へ 花火が ついて 焼けたら

ソレコソ オーゴトジャカラ
それこそ たいへんだから

ソノ アトノ マイワ マー ソノ リッパナ イショード
その 後の 舞は まあ その 立派な 衣装で

マウ。 ホイカラー ハナビオ ウエト シタエ ツケテ ヤル
舞う。 それから 花火を 上と 下へ つけて やる

ブンワ モー ムカシノ フルーイ イショード
分は もう 昔の 古い 衣装で

ソノー ハナビダケオ ヤッテ ソレガ ナカー ハイッタラ
その 花火だけを やって それが 中へ 入ったら

スグ アタラシー ソノ リッパナ イショー キタノガ デテ
すぐ 新しい その 立派な 衣装を 着たのが 出て

マイダケオ スルンデス。(B ン) ンカラ
舞だけを するのです。(B うん) それから

ソレワ モー ズーット ノコシトリマス。 ココエネ。
それは もう ずっと 残しています。 ここにね。

145D : ソーデスカ。
そうですか。

広島 11-3

ワタシャー ココニ マイガ アルトワ シラナカッタデス。
私は ここに 舞が あるとは 知らなかったです。

146C : ハー ソーデスカ。 アノー ソレコソ
はあ そうですか。 あの それこそ

ジューガツノ ダイーサン ニチ (A ダイサン ド ドヨー)
10月の 第3 日 (A 第3 土 土曜)

ドヨービノ パンニ (A ンー) エ ヤリマスカラ
土曜日の 晩に (A うん) え やりますから

ドーゾ オイデテ ミテクダサイー。 {笑} (A・B {笑})
どうぞ いらして 見てください。 {笑} (A・B {笑})

147A : マコト アノクライノ ホイジャガ ハナビュー ヤッテ
まったく あのくらいの そうだが 花火を やって

アノ マイガ アル トコロワ コノ チカクニャー
あの 舞が ある 所は この 近くには

ナイジャロ。
ないだろう。

148C : エー。 チカクニャー ナインデスヨ。 (A エー エー)
ええ。 近くには ないのですよ。 (A ええ ええ)

ンー ンー。
うん うん。

広島 11-4

マイダケワ スル トコロワ アルンデスガネ。
舞だけは する ところは あるのですね。

(A ソー ソー) ドッコンデモ。

(A そう そう) どこにでも。

149A : ウン。 ソリャ ハナビワ ミモノデスヨ エー。
うん。 それは 花火は 見物ですよ ええ。

150C : ソレニ コノゴロワ シカケハナビモ シマスカラ。
それに この頃は 仕掛花火も しますから。

(A ウン) エー ソノ トキトキニ オータヨーナ

(A うん) ええ その 時々 合ったような

シカケハナビオ ミナー ヤルンデス。
仕掛花火を みんな やるのです。

151D : ソーデスカ
そうですか

152C : ハイ。(D ホー) (B ンー) ジャカラ ソノ アー
はい。(D ほう) (B うん) だから その ああ

キボワ ソノ イマノ オータガワノ ナンノヨーニャー ナイ
規模は その 今の 太田川の 何のようでは ない

チサイデスケド バショガ チサインジャカラ。
小さいですけど 場所が 小さいのだから。

広島 11-5

ホイカラ キボワ チサイケド
それから 規模は 小さいけれど

ソレコソ ショーパイニンガ スルンジャー ナシ
それこそ 商売人が するのでは なし

エー シロートデ アー ワカイ モンヤラ トシヨリガ
ええ 素人で ああ 若い 者やら 年寄りが

イッショニ ヨッテー ムカシャー コーニ ショッタ
一緒に 集まって 昔は こんなに していた

アー ホイガ イマゴラー コヨナ エー モンガ アル。
ああ それが 近頃は このような よい ものが ある。

ソリヤー エーケー ホイジャー ソレデ
それは よいから だったら それで

コトシャー ヤッテミューカ ユーンデ
今年は やってみようか [と]いうので

リョーホーガ ハナシオーテ イロンナ コトー ヤッテ
両方が 話し合って いろんな ことを やって

キョネンワ アージャッタケー
去年は ああだったから

コトシワ コーニ シテミョー トカ ユーテ ミンナデネ。
今年は こんなふう に してみよう とか いって みんなでね。

広島 12-1

ハナシオーテ イロンナ アノー モノオ スルンデスヨ。
話し合って いろいろな あの ものを するのですよ。

↑12

ホイジャカラ コトシワ ナニガ デルジャローカ
だから 今年は何が 出るだろうか

ナンノ シカケハナビガ (B {笑}) デルジャローカ
何の 仕掛花火が (B {笑}) 出るだろうか

ユーテ ミンナ タノシミニシテ オルンデス。
[と]いって みんな 楽しみにして いるのです。

(A ン) ンー。
(A うん) うん。

153A : ヤッパリ ムカシノ ヨーニ
やはり 昔の ように

ソノ テマ カケテ ヤランノジャケー (C エー)
その 手間[を] かけて やらないのだから (C ええ)

オーニ ソクセーデ ヤルンジャケー (C ソー)
まったく 短期間に やるのだから (C そう)

エー モノニャー イカンガ ソリャ。(C ンー) ウーン。
よい ものには いかないが それは。(C うん) うん。

コトシャー ナンデモ アノ ブドーダナー ヤル ユーテ
今年は 何でも あの 葡萄棚を やる [と]いって

広島 12-2

イーヨッタヨ。

いっていたよ。

154C : ブドーダナ？

葡萄棚

155A : ウン。 タナニ シテ

うん。 棚に シテ

アノ ブドーガ コー アノ サガツトル トコロオ。

あの 葡萄が こう あの 下がっている 所を。

156C : ハー アノ オクノ。 (A ウン)

はあ あの 奥の。 (A うん)

ハー ハー アレー ムケテ (A ウン) ンー。

はあ はあ あれに 向けて (A うん) うん。

ソレカラ ムカシワ マ イマワ ナンノ カミデ

それから 昔は × 今は 何の 紙で

ツツマレルンカ シランケド ウチラノ オトーサンラガ

包まれるのか 知らないけれど 私の家の おとうさんなどが

ムカシノ アノ ワシノ (A ウン)

昔の あの 和紙の (A うん)

アノー ダイフクチョー[42]ミタヨナ (A アー)

あの 大福帳みたいな (A ああ)

広島 12-3

チョーメンノ アリョー ゼンブ トットクント
帳面の あれを 全部 とっておくの

ホイカラ イマゴロノヨーニャー ナイ
それから 近頃のようにでは ない

ムカシャー ソレコソ アー ジュンノ ワシノ
昔は それこそ ああ 純の 和紙の

ショージガミジャッター (A ソー ソー)
障子紙だったから (A そう そう)

マツリマエニャー ドーデモ コーデモ
祭り前には どうでも こうでも

ショージー ハリカエルンデス。(A ウン)
障子を 張りかえるのです。(A うん)

ソレオ キレーニ エー ガニ トットケ イワレル。
それを きれいに よい ぐあいに 取っておけ [と]いわれる。

(A ウン) ホイデ ソレデ ミンナ エンショー ツツンダリ
(A うん) それで それで みんな 煙硝を 包んだり

エンショーオ コム トキニ
煙硝を 込める ときに

ソレオ アノ マルメテ イレラレルンデス。(A ウン)
それを あの 丸めて 入れられるのです。(A うん)

広島 12-4

ホイカラ ソレオ コー キレーニ ワタシラ
それから それを こう きれいに 私など[に]

コーモーニ シカクニ コー キュー コンダケノ スンポーニ
小さく 四角に こう ××× これだけの 寸法に

キレ ユーテ イワレル。
切れ [と]いって いわれる。

オトーサン ナニー スルン
おとうさん 何に するの

シカケハナビノ カミ ユータラ オーヨ ホイジャケーノー
仕掛花火の 紙 [と]いったら そうよ だからね

チャーント エー ガイニ キットケヨー。
ちゃんと よい ぐあいに 切っておけよ。

ソリョー ヒトツ ヒトツ チャート メカター ハカッテ
それを 一つ 一つ ちゃんと 重さを 計って

ヒトツズツ ツツムンジャケー ユーテ (A ウン)
一つずつ 包むのだから [と]いって (A うん)

ホヤケー ソレオ ズーット ソレコソ
だから それを ずっと それこそ

ヤッキョク イッタノミタイニ ズーット ナラベトイテ
薬局へ 行ったのみたいに ずっと 並べておいて

広島 12-5/13-1

ホイデ ナンボカノ メカター カケタ モノオ
それで いくらかの 重さを かけた ものを

ソリョー トーナラ トーエ モッテッテ
それを 10なら 10へ もってって

ソノ メカタノ モノオ コー ワケテ オンナジヨーニ ワケテ
その 重さの ものを こう 分けて 同じように 分けて

ソリョ コー ウヨ コー ネジテ
それを こう 上を こう ねじって

ウヨ チョット ノリオ ツケチャー
上を ちょっと 糊を つけては

コー シテ ソレオ カゴノ ナカヤ ハコン ナカエ
こう して それを 籠の 中や 箱の 中に

コー ナラベテ ソノ ノリノ ツイタ トコロオ
こう 並べて その 糊の ついた ところを

シゼーンニ カワカスンデス。
自然に 乾かすのです。

12↑13

ソレオ コンド タケノ コーユー フーナ
それを 今度 竹の こういう ふうな

ヤライ[43]ミタイナノー コシラエタノエ モッテッテ
矢来みたいなのを 作ったのへ もっていって

広島 13-2

ソレー モッテッテ イチイチ ゼンブ ツケテ (A ンー)
それを もっていって いちいち 全部 つけて (A うん)

ソシテ ソレオ ガ イロイロナ イロノ モノトカ
そして それを × いろいろな 色の ものとか

ナントカガ デ ソノ (A ンー) カタチガ カワルンデス。
何とか× で その (A うん) 形が 変わるのです。

ソリョー ヤー ヒトリデ ヤリヨリマシタ。 ンー。
それを ×× ひとりで やっていました。 うん。

157D : ソーデスカ。 イマモ アルトワ シリマセンデシタネー
そうですか。 今も あるとは 知りませんでしたね

{笑} (B・C {笑})
{笑} (B・C {笑})

158A : ンー ソリャー ムカシノ シトワ ズイブン
うん それは 昔の 人は ずいぶん

ケンキューモ シトッタシ ヨー ナニモカモ シットッタガ
研究も していたし よく 何もかも 知っていたが

(C ウン) アレ ミナ オボエトキャー
(C うん) あれ みんな 覚えておけば

アノ トットリャー エーンジャガ (C ウン)
あの とっていれば いいのだが (C うん)

広島 13-3

イマジャ アツマランヨ (C ノー) ソリャ。
今では 集まらないよ (C ね) それは。

アノ ゴロノ ヒトナー。(C ンー) ンー。
あの 頃の 人の。 (C うん) うん。

159B : ヨー X 6 ノ オジサンヨネ。(A エー)
よく X 6 の おじさんよね。(A ええ)

タケオ アノ シンガー[44]サンデ コー
竹を あの 神宮さんで こう

ユゼヨラレタデステーノ。(A ウン ウン アー)
茹でておられたですよ。(A うん うん ああ)

イツデモ。
いつでも。

160A : アリャー マー マイネン。ア マイネン ヤルンデス。
あれは まあ 毎年。 あ 毎年 やるのです。

161B : マイネンナ。ウン ウン。
毎年ね。 うん うん。

162C : エー アリャー ドーデモ コーデモ (A エー)
ええ あれは どうでも こうでも (A ええ)

(B ハー) タカニャー イケンノデスケーネ。
(B はあ) 炊かなければ いけないのですからね。

(B ハー ハー)

(B はい はい)

163 B : マイバン マイバン アー ヤッテ タカレルンデスカ。
毎晩 毎晩 ああ やって 炊かれるのですか。

164 A : イヤイヤ ソージャー ナイ。
いやいや そうでは ない。

165 B : アー アー ホーデスカ。
ああ ああ そうですか。

166 A : アノ イッペン タイタラ エーンデス。
あの 一度 炊いたら いいのです。

(B アー ホーデスカ)

(B ああ そうですか)

エー マ ヒトバンデ スマニャー フタババンメニ
ええ ま 一晩で すまなければ 二晩目に

(B ハー ハー) ナルグライデ (B ハー ハー)

(B はあ はあ) なるぐらいで (B はあ はあ)

ソー マイバン ヤルンジャー ナイ。
そう 毎晩 やるのでは ない。

167 B : ハー ホーデスカ。 (A エー)
はあ そうですか。 (A ええ)

168C : キャー アリヤー (B ン) タケオ キル ジキガ アッテ
木は あれは (B うん) 竹を 切る 時期が あって

(A ウン) ソノ トキニ キッテ チャーント シテ
(A うん) その 時に 切って ちゃんと して

ノケトイテ ホイテ アレオ マタ タイテ。
しまっておいて そして あれを また 炊いて。

169A : アー シテ アブラー スクンデスヨ。
ああ して 油を 抜くのですよ。

(B ハー ハー) (C ***) タケノ アブラオ。
(B はあ はあ) (C ***) 竹の 油を。

(B ハー ハー) エー。(C エー)
(B はあ はあ) ええ。(C ええ)

170B : イマー ハジケマセンガ モターネ。
今は はじけませんが もとはね。

ソノ エン エンショーガネ ハジケルンデスヨ。ホイタラ
その ×× 煙硝がね はじけるのですよ。そしたら

シタイ ヒガ ゴッゴッ ゴッゴッ ハイアルクンデスヨネ。
下へ 火が ゴッゴッ ゴッゴッ 這い回るのですよね。

ヤケゾー スル ヒトガ アッタリシテネ。{笑}
火傷を する 人が あったりしてね。{笑}

(A {笑} ー)

(A {笑} うん)

オソロシー コトガ アリヨリマシタデスヨ。

恐ろしい ことが ありましたですよ。

ジャガ ナンボー ケガー シテモ アレガ スキデカラ
だが いくら 怪我を しても あれが 好きで

ヤメラレンカッタラシーデスネ。(A ア ***)

やめられなかったらしいですね。(A あ ***)

エンショーガ スキデネ。 ミナ。

煙硝が 好きでね。 みんな。

13↑14

171C : ウチラノ チチワ ニカイ メガ ミエンヨーニ
うちなどの 父は 2回 目が 見えないように

ナッタンデス。(A・B {笑}) {笑}

なったのです。(A・B {笑}) {笑}

172D : ヤケドデ。

火傷で。

173C : ハイ。 ヤケド ユー ウチ

はい。 火傷 [と]いう うち

ソノ エンショーオ ソノ イマノ ヨーニ メーデ

その 煙硝を その 今の ように 砕いて

広島 14-2

ソシテ コンド マー ハカッテネ
そして 今度 まあ 量ってね

ドノクライグライ [45] ノ カリョクガ アルカ
どのくらいの 火力が あるか

ソレカラ ドンナ ヒガ デルカオ タメスノニネ。
それから どんな 火が 出るかを 試すのにね。

スコーシズツ ソノ ニワエ ソノー スクーテ キテ
少しずつ その 庭へ その すくって 来て

ホイデ ソレー モッテッテ ソノ マー マッチデ ナシニ
それで それへ もってきて その まあ マッチで なくて

ムカシノ キセルデ タバコー スイヨットンジャカラ
昔の 煙管で たばこを 吸っていたので

ソノ キセルノ タバコノ ヒオ ポント オトスンデス。
その 煙管の たばこの 火を ぽんと 落とすのです。

ソースルト ソノ ポント ウエエ コウ ヒガ
そうすると その ぽんと 上へ こう 火が

アノー エンショーガ パット モエルンデス。
あの 煙硝が ぱっと 燃えるのです。

デ ソノ ケムリガ ドノクライグライ
で その 煙が どのくらい

広島 14-3

ソカラ アノ アカイ ヒガ ドノクライグライ デル
それから あの 赤い 火が どのくらい 出る

ソースット ソノ ア ケムリガ エット デタラ
そうすると その あ 煙が 多く 出たら

ナニガ オイートカ
何が 多いとか

アカイ ヒガ ンー スクナカッタラ ナ ナニートカ
赤い 火が うん 少なかったら × 何とか

アオイノガ スクナカッタラ ナニガ スクナイトカ ユー
青いのが 少なかったら 何が 少ないとか [と]いう

ナニオ オー ジブンデ ヒオ ツケテミテワ
何を おお 自分で 火を つけてみては

タマ タメシテミルラシインデス。 ンデ ソレオ タメスノニ
×× 試してみるらしいのです。 それで それを 試すのに

エ シクジッテ マダ ジブンノ カオガ
× しくじって まだ 自分の 顔が

ソノ ヒガ ツイタカ ツカンカ ワカランカラ
その 火が ついたか つかないか わからないから

ヒョット ノズイタラ バット ウエー ヤッターモンジャカラ
ひょいと のぞいたら ばっと 上へ やったものだから

広島 14-4

コッカラ ソノー ハナカラ ウエオ アタマノ カミモ ゼンブ
ここから その 鼻から 上を 頭の 髪も 全部

アレ シテ メオ ヤラレテ
あれ して 目を やられて

ケンビョーインエ ニューインシタ コトガ アリマス。
県[の]病院へ 入院した ことが あります。

ホイカラー イチドワ ソレカラ ノチーワ カオ ゼンブ
それから 一度は それから 後は 顔 全部

コノ クビカラ ウエー ミナ ヤラレタ。(A ウン)
この 首から 上を みんな やられた。(A うん)

ソレニ ヤッパリ コリモセズト ヤリマス。(A {笑})
それに やはり 懲りもせずに やります。(A {笑})

{笑}

{笑}

174D : {笑} イマモ ヤッテオラレル。

{笑} 今も やっておられる。

175C : イヤ モー ナクナッテ

いや もう 亡くなって

(A ソリャー ハー ムカシノ コト)

(A それは もう 昔の こと)

広島 14-5

ハー サンジューナンネンニ ハー サンジューゴロクネンニ
もう 30何年に もう 35、6年に

ナリマスカラ アレデスケド。 (B ン)
なりますから あれですけど。 (B うん)

ホイカラ ワタシモ ホイジャカラ {笑}
それから 私も だから {笑}

ヤッパリ オヤノ チオ ヒートルカ シリマヘンガ
やはり 親の 血を 引いているのか 知りませんが

オマツリヤー スキデス。 {笑} (B {笑})
お祭りは 好きです。 {笑} (B {笑})

176A : ムカシャー アー シテ マー コ コッチデ ジブンデ
昔は ああ して まあ × こちらで 自分で

コーシテ ガシガシ ガシガシ コノー ヤリ
こうして ガシガシ ガシガシ この ××

ヤリヨッタンジャガ イマー ハー。 (C イマー)
やっていたのだから 今は もう。 (C 今は)

*** ドーニモ デキヤー セン。
*** どうにも できは しない。

コッチジャー デキヤー セン。
こちらでは できは しない。

177C : シー ホイカラ イエデ スルー ユータラ
うん それから 家で する [と]いったら

(A ウーン ウン) スグ ヒッパラレマスヨ イマゴラー。
(A うん うん) すぐ 捕まりますよ 近頃は。

178A : ホーヨ。 マー イマー アノー
そうよ。 まあ 今は あの

コージョー エ カヤクコーバエ イッテ (C ウン)
工場 × 火薬工場へ 行って (C うん)

14↑15

エ マー テツダイ ユー コトデ イクンデス
え まあ 手伝い [と]いう ことで 行くのです

(C ウン) ホイデ チャーント アノ ナマエー カイテ
(C うん) それで ちゃんと あの 名前を 書いて

(C ウン ハンオ オシテネ)
(C うん 判を 押してね)

テツダイニンノ アレオ ハンオ ナニオ ダシテ (C エー)
手伝人の あれを 判を 何を 出して (C ええ)

ホイデ キョカ モローテ
それで 許可[を] もらって

ホイデ ソコデ アノ シー ムコーノ キカイオ ツコーテ
それで そこで あの うん 向こうの 機械を 使って

広島 15-2

ソコデ アノ キカイデ ヤルンジャケー
そこで あの 機械で やるのだから

マー ソラ ツイトリヤー エー。 ミトリヤー エー。
まあ それは ついておれば よい。 見ていれば よい。

ホイデ コメ コメルノモ ヤッパリ ソコエ イッテ
それで ×× 込めるのも やはり そこへ 行って

(C {咳払い})

(C {咳払い})

アノ マ タケヤナンカ コッチカラ モッテイクンジャガ
あの ま 竹など[は] こちらから 持っていくのだが

ソコエ イッテ ロームシャニ ナッテ イッテ
そこへ 行って 労働者に なって 行って

アソコデ コメテ (C ーン) ホイデ モッテ カエルン。
あそこで 込めて (C うん) それで 持って 帰るの。

ソレオ ムコーノ アノ ナンガ タケエモー
それを 向こうの あの 何が 竹にも

イチイチ アノ (C ーン) ナンガ オシテ アル。
いちいち あの (C うん) 何が 押して ある。

179C : ヤキバンミタイナンガ。 ハンガ オ
焼き印みたいなのが。 判が ×

広島 15-3

180A : イ ナニ アノ イ イ キッテミタイナモノガ ***
× 何 あの × × 切手みたいなものが。 ***

181C : キッテカ。 ネ アリャ。
切手か。 ね あれは。

182A : シー アーナ モノー (C シー) ハッテモラワニャーニャ
うん あんな ものを (C うん) 貼ってもらわないならね

(B シー) モ モドラレン。 キビシーヨ ソリャー。

(B うん) × 戻れない。 厳しいよ それは。

183B : イマー キビシーデスヨノー。 (A シー)
今は 厳しいですよ。 (A うん)

184C : ムカシャー アーユー コター ナカッター
昔は ああいう ことは なかったから。

(A ソー ソー) ワカタデ アータ (A ウン ウン)

(A そう そう) わが家で あなた (A うん うん)

ナンボー ショート カンケーナインジャカラ (B {笑})

いくら しようと 関係ないのだから (B {笑})

ア コトシャー オーケナノー ショー オモヤー

あ 今年は 大きなのを しよう [と]思えば

ヨケー ソノ エ エンショーノ モノオ ニ

よけいに その × 煙硝の ものを ×

広島 15-4

イル モノオ コーテキテ アノー ウチラデモ ミナ
要る ものを 買ってきて あの うちなどでも みんな

クラエ イレテカラ エ マ アンマリ シメランヨーニ
倉へ 入れて ええ まあ あまり 湿らないように

カンソー シスギテモ イケンシ スルケー
乾燥 しすぎても いけないし するから

ハコン ナカー イレテ カミー ツツンデ
箱の 中に 入れて 紙に 包んで

マタ フロシキー ツツンデ ユーヨーナ コトー
また 風呂敷へ 包んで [と]というような ことを

ショッテデシタ。(A ウーン ン)
しておられました。(A うん うん)

ホイカラ ソー ナッタラ クラエ モッテッテ
それから そう なったら 倉へ 持って行って

ローソクー ツケテ ハイリドモ[46] シタラ
ろうそくを つけて 入ったりなど したら

オーメダマジヤッタンデスケー。(A {笑}) エー。
大目玉だったのですから。(A {笑}) ええ。

ホイカラ クラエ モノオ トリニ ハイル ユータラ
それから 倉へ ものを 取りに はいる [と]いったら

広島 15-5/16-1

モー オヒルデ ナケラニャ ハイランシ。

もう お昼で なくては 入らないし。

ヒルデモ マックラナ ナカー クラインナー クラインデスガ

昼でも まっ暗な 中は 暗いのは 暗いのですが

ホイジャガ ヒヤナンカー ツケテ ハイラリャー シマセン。

だが 火などは つけて 入られは しません。

マー イマゴロミトーニ カイチューデンキガ ナイケー

まあ 近頃みたいに 懐中電燈が ないから

ムカシャー。{笑} (B {笑}) (A ウーン ウー)

昔は。 {笑} (B {笑}) (A うん うん)

マ マツリワ ソレ ヨゴロ [47]ガ

× 祭りは それ[で] 前夜が

ソーヨーナ アノ ジューニジンギノ オー カグラー ヤル。

そのような あの 十二神祇の ×× 神楽を やる。

アクルヒワ ターラモミョー オートナノ ヒトガ

翌日は 俵もみを 大人の 人が

15↑16

サレル トキモ アル サレン トキモ アル。

される 時も ある されない 時も ある。

185A : ココワ アノ セーネン セーネンカイガ デキテカラワ。

ここは あの 青年 青年会が できてからは。

広島 16-2

186C : セー セーネンカイガ デキテ。

×× 青年会が できて

187A : アー ズーット ヤリマスヨ。

ああ ずっと やりますよ。

188C : ヤルンジャガ (A シー)

やるのだが (A うん)

ソレーヨリ マエワ アンマリ シヨラレナンダネ。

それより 前は あまり しておられなかったね。

189A : ソリヤ ナカッタ。 ソリヤ ナカッタ ソレマデワ。

それは なかった。 それは なかった それまでは。

190C : オトナノ ブンワ (A オトナワ ナカッタ)

大人の ものは (A 大人は なかった)

モー (A エー) コドモノ ブンモ

もう (A ええ) 子供の ものも

アンマリ ナカッタヨーナ キガ スル。

あまり なかったような 気が する。

191A : イーヤー。 コドモワ マイネン アッタ。

いいえ。 子供は 毎年 あった。

192C : オッ コドマー アッタ。

おお 子供は あった。

広島 16-3

193A : ホーヨ。 マイネン ヤリヨッタ。(B ンー) ンー。
そうよ。 毎年 やっていた。(B うん) うん。

X 6 ノ オジーサンガ アノ タワラー アンデ (C ウン)
X 6 の おじいさんが あの 俵を 編んで (C うん)

コトシャー ヤラレ アマレンガ
今年は ××× 編まれないが

キョネンマデ (C ン) ヤラレタンジャッタカイノ。
去年まで (C うん) やられたのだったかな。

キョネンモ ヤラナンダカイノ。
去年も やらなかったかな

194C : イヤ キョネンモ ヤラナンダ。
いや 去年も やらなかった。

195A : キョネンモ ヤラナンダ。 ア ソージャッタノー。
去年も やらなかった。 あ そうだったね。

196C : オートドシマデ。
おととしまで。

197A : ウン ウン。(C ンー)
うん うん。(C うん)

アレ アマレンヨー ナッタラ コマルヨ。
あれ 編めないように なったら 困るよ。

広島 16-4

ホイジャガ コンダー。

そうだが 今度は。

198C : アノ X7ノ X8サンガ オル。

あの X7の X8さんが いる。

199A : マー マー。 アレンデモ (C エー)

まあ まあ。 あの人にでも (C ええ)

ヤッテ モラワンニャー ショーガナイ。

やって もらわねば しかたがない。

ジャガ ココ コトシヤグライワ セワーナイガ (C ウン)

だが ここ 今年×ぐらいは 大丈夫だが (C うん)

ハー ライネン ナッタラ

もう 来年[に] なったら

マタ ハー フルインガ デン ツカエンノ*** (C ウン)

また もう 古いのが ×× 使えないの*** (C うん)

ン

うん

200C : ホヤケー キョネンモ アノ コドモカイノ ヒトニ

だから 去年も あの 子供会の 人に

アントニ タワラガ ナインジャッタラ

あんなに 俵が ないのだったら

広島 16-5

イーナサリヤー ヨカッタノニ
おっしゃれば よかったのに

ウチニヤー ミクミモ アルノニ ユーテカラ ユータラ
うちには 3組も あるのに [と]言って 言ったら

(A ンー) ホイジャー コトシャー カシテクダサイ
(A うん) それでは 今年は 貸してください

ユーテイヨラレタ。
[と]言っていらっしゃった。

201A : アー アー。
ああ ああ。

202B : ニシマチニモネ。(A エー) アレデスヨ。
西町にもね。(A ええ) あれですよ。

アノ X9サンガ (A アー)
あの X9さんが (A ああ)

アノー オーバーサンガ シナレテカラネ (A・C ハー)
あの おばあさんが 死なれてからね (A・C はあ)

イッサイ セラレンデスケンネ。(A ウン)
いっさい されないですからね。(A うん)

(C ハー ハー) アレデスヨ。(A フン フン)
(C はあ はあ) あれですよ。(A ふん ふん)

広島 16-6

ターラヤナンカモ ゼンブ ウチエ オイテ アルンデスヨ。
俵なども 全部 うちへ 置いて あるのですよ。

(A フーン ン) ナニシテネ。(A ウン)

(A ふうん うん) 何してね。(A うん)

ン アノ イロンナ カザリモンモ オイテアリマスガネ。
× あの いろんな 飾り物も 置いてありますがね。

(A ウン) (C フーン) ンデ ハー

(A うん) (C ふうん) それで もう

アレモ トシー トラレタシネ。(A ソー ソー)
あの人も 歳を とられたしね。(A そう そう)

ホイカラ モー キリョクガ ナイヨー ナッタンデショネー。
それから もう 気力が ないように なったのでしょうかね。

(C ンー) (A ウン)

(C うん) (A うん)

アイダケ ニギヤカナノガ スキナ ヒトジャニネ (A アー)
あれだけ 賑やかなことが 好きな 人なのにな (A ああ)

ナインデスヨ。
ないのですよ。

203C : ホイカラー ワッシー コノゴロ (B ン)
それから 私 このごろ (B うん)

広島 16-7/17-1

テレビー ミタリ スルト (A ン) アノ コツカラ
テレビを 見たり すると (A うん) あの ここから

アノー オクノ ホーノ トシヨリノ ヒトガ (B ウン)
あの 奥の 方の 年寄りの 人が (B うん)

アノー イマノ アリヤー ドコーノ ミンゲーデスカ。
あの 今の あれは どの 民芸ですか。

16↑17

コノ ミノ コシラエヨラレタガ。
この 蓑[を] 作っておられたが。

204A : エー。 ネ。
ええ。 ね。

205C : アノネー ミノヤラ ワラグツー コサエヨラレルノー
あのね 蓑やら 藁靴を 作っておられるのを

(A ハー ハー) アリョー ミタンジャガ テレビデ。
(A はあ はあ) あれを 見たのだが テレビで

(A フーン?) ホイデ アノ ミノ コサエル トキノ
(A ふうん) それで あの 蓑[を] 作る 時の

アノー コーシテ アムノガ (A アー)
あの こうして 編むのが (A ああ)

アリヤ チョード ターラモミノ ターラー アムント
あれは ちょうど 俵もみの 俵を 編むのと

広島 17-2

オンナジョーニ (A ウン) コーユー フーニ シチャー
同じように (A うん) こういう ふうに すれば

ムコート コッチー。(A ホージャロ) エー。(A エー)
向こうと こちら。(A そうだろう) ええ。(A ええ)

アノ イトー カケヨラレタケー (A ウン)
あの 糸を かけておられたから (A うん)

ハー アーヨナナノー ナロートキャー エーンジャガ
もう あんなのは 習っておけば よいのだが

ソー スルト アレグライワ ナントカ ナラワレルカ シランガ
そう すると あれくらいは 何とか 習えるか しれないが

リョーホーノ ヨセテ (B ン) サンダーラー[48]
両方の[を] 寄せて (B うん) 栈俵を

ヤッテ アノ クムノガ ドーモ ナラン。
やって あの 組むのが どうも ならない。

(A ソー ソー アレ) アリョー ナロートカニャー
(A そう そう あれ) あれを 習っておかなければ

ダメジャノー。(A ウン ソー ソー) ウン。
だめだね。(A うん そう そう) うん。

206A : マー マー アノ ナンガ
まあ まあ あの 何が。

広島 17-3

キカイサエ アリヤー アノ アノ ドーグサエ アリヤー
機械さえ あれば あの あの 道具さえ あれば

クムノワ ダレデモ クメル。(C エー エー)
組むのは 誰でも 組める。(C ええ ええ)

テマー イッテモ。(C エー) エー。
手間は 要っても。(C ええ) ええ。

207C : アノ リョーホーノ カザリノネ。(A ーン)
あの 両方の 飾りのね。(A うん)

アミノ メヨーミタイニ (A ソー ソー)
網の 目みたいに (A そう そう)

ツナガ クンデアリマショー。(A ソー ソー)
綱が 組んであるでしょう。(A そう そう)

アレガ ドーモ ナランヨネ (A アー アー) チョット。
あれが どうも ならないよね (A ああ ああ) 少し。

208A : マー アリヤー ヤッパリ コー クンデ イカニヤー
まあ あれは やはり こう 組んで いかねば

ショーガ ナインジャロ。(C ーン ーン) エー。
しかたが ないのだろう。(C うん うん) ええ。

キカイデ ヤル ワケニヤー イカンノジャケー。
機械で やる わけには いかないのだから。

広島 17-4

209C : エー アリヤー キカイジャネ。(A ウン)

ええ あれは 機械ではね。(A うん)

ジャケー オンナジョーナ スンポーニ コー アノ
だから 同じような 寸法に こう あの

タケノ アナノ アイタノデ オジーサン アノ
竹の 穴の あいたので おじいさん あの

ヘラミテーナノエ アナ アケタンデ (A ウン)
へらみたいなのへ 穴[を] あけたので (A うん)

アノ シ シ シロノ クロイ (A ソー ソー ソー ソー)
あの × × 白の 黒い (A そう そう そう そう)

シロノ ヒモ ユータラ オカシーンジャガ (A エー)
白の 紐 [と]いったら おかしいのだが (A ええ)

クロイヨーナ アノ ヒモデ (A ー) コー ヤッチャー
黒いような あの 紐で (A うん) こう やっては

アノ (A ー) トーシテイッテ ソレー モト アノー
あの (A うん) 通して行って それを ×× あの

マタ ヒモー カケテ コー ヤッチャー クミヨラレタガ。
また 紐を かけて こう やっては 組んでおられたが。

(A ー ー) アヨーナノモ ナロートカニヤー
(A うん うん) あんなのも 習っておかなければ

(A ホーヨ ナロートカニャー)

(A そうよ 習っておかなければ)

コリャー イケン モンジャノー (A ホーヨ)

これは いけない ものだね (A そうよ)

(B ン) ソノ オトコムスビグライワ デキテモ

(B うん) その 男結びぐらいは できてモ

アトノ オモナ トコガ (B ンー ン)

後の 主な ところが (B うん うん)

デキンニャー ドモ ナラン。 (A ン)

できなければ どうにも ならない。 (A うん)

17↑18

210A : フタツヤ ミツツナラノ ソリャ エーンジャガ (C ウン)

二つや 三つならね それは よいのだが (C うん)

ナンジュー ユー アルケー ソリャー。

何10 [と]いう[ほど] あるから それは。

211B : イマゴラー ミナデ ターラモミガ

近頃は みんなで 俵もみが

ドンクライグライ デルンデショー。

どのくらい 出るのでしょうか。

212A : サンジュー イジョー ヨンジュー ジカインジャ ナイカイノ。

30 以上 40 近いのでは ないかね。

広島 18-2

サンジュー ナンボグライ アルデー ドッチー シテモ。

30 いくつぐらい あるよ どちらに しても。

213C : ハー ウチランデモ ウチニ マゴガ オーキュー ナッタケー

もう うちなどのでも うちに 孫が 大きく なったから

オミヤエ ターラモミー {笑} ツイテイカンヨーニ

お宮へ 俵もみに {笑} ついていけないように

ナッタケー (A {笑})

なったから (A {笑})

イク コトガ ナイヨー ナッタケージャガ。

行く ことが ないように なったからだが。

(B シン) (A ソー ソー)

(B うん うん) (A そう そう)

アイラガ コマイ アイダー ヤー ホイカラ ソトノ マゴガ

あれらが 小さい 間は ×× それから 外の 孫が

ミナ ターラモミニ クル アイダー (A エー)

みんな 俵もみに 来る 間は (A ええ)

ドーデモ コーデモ ツイテ イキヨッタケー。

どうでも こうでも ついて 行っていたから。

(A ソー ソー) ウー。

(A そう そう) うん。

広島 18-3

214A : アイダケ トシュー トッタノヨ。
あれだけ 歳を とったのよ。

215B : {笑}
{笑}

216C : エー。
ええ。

217A : {笑} ジュンオクリニ ***
{笑} 順送りに ***

218C : ターラモミオ ターラー コシラエテ
俵もみを 俵を 作って

モタシテ アルカスアルカス
持たせて 歩かせながら

カタ IPPON テデ ウバグルマ モッテ
片一方の 手で 乳母車[を] 持って

アルクンジャケー。 {笑} (A ン)
歩くのだから。 {笑} (A うん)

タイギュー ナッタラ マゴワ ウバグルマエ ノッテ
つらく なったら 孫は 乳母車に 乗って

タワラー ダレカニ {笑} モッテ モラワニャー
俵を 誰かに {笑} 持って もらわねば

広島 18-4

ユーヨーナ。 (A・B {笑})

[と]というような。 (A・B {笑})

マー カタデデ モタレルグライノ コーマイ ターラモミュー
まあ 片手で 持てるくらいの 小さい 俵もみを

コシラエテ (A ン) ホイデ マゴニ モタスデスヨ。
作って (A うん) それで 孫に 持たせるのですよ。

219A : コトシャー アノ ヒロシマノ アノ
今年は あの 広島の あの

マツリガ アッタデヒョーガ。 ゴガツジャツタカイノ アリヤ。
祭りが あったでしょうよ。 5月だったかね あれは。

ナントカ ユーンジャガ ワシャー ワカランノジャガ。
何とか いうのだが 私は わからないのだが。

220C : ドコデ。
どこで。

221A : エー。 ヒロシマデー。
ええ。 広島で。

エー ヒャクメータードーロデ アッタジャナイ。
ええ 100メートル道路で あったではない[か]。

マツリガ。
祭りが。

222B : フラワーデスカ。

フラワーですか。

223A : ウン ウン。 ア アノコト アノコト。

うん うん。 × あのこゝと あのこゝと。

224C : アー (A ウン) アノ フラワー (A ンー) ンー

ああ (A うん) あの フラワー (A うん) うん

フェ フェシバル[49]トカ ナントカ ユーテ

×× フェシバルとか 何とか [と]いって

ヤーコーシー シター カミソーナヨーナ ナマエデ。

ややこしい 舌を かみそうな 名前で。

ミンナ エット エット アルイタ ブンデショー。

みんな たくさん たくさん 歩いた ものでしょう。

225A : ウン。 アレー アノ コドモノ ミコシヨ

うん。 あれ あの 子供の 御輿を

コリヤ (C エー エー) タワラモミジャーナイ (A エー)

これは (C ええ ええ) 俵もみではない (A ええ)

ミコシガ モー ゼンブジャ ミ ミコシバツカリ アレワ。

御輿が もう 全部だ × 御輿ばかり あれは。

アーヨーナノー ツクッタリヤー エー。

あんなのを 作ってやれば いい。

広島 18-6

ツクットキャー エーガナー。

作っておけば いいよね。

226 C : ンー ココデモネー。 アノ ミコシオ

うん ここでもね。 あの 御輿を

227 A : ウン。 ソースリャー ターラオ ホンナ ツ克蘭デ スム。

うん。 そうすれば 俵を そんなに 作らなくて すむ。

(C ンー) アレデ スム。

(C うん) あれで すむ。

228 C : ホイジャケー ニシマチナラ ヒトツツ (A ウン)

だから 西町なら 一つ (A うん)

ヒガシマチ。 ホイジャガ ヒトツジャー モメマスデ
東町。 だが 一つでは もめますよ

ヤッパリ。 (B ンー)

やはり。 (B うん)

229 A : ウン。 ヒトツヤ フタツジャ マダ イケン。

うん。 一つや 二つでは まだ いけない。

ヒトツヤ フタツジャ イケンガ。

一つや 二つでは いけないが。

230 C : エー。 (A アレナラ ハー)

ええ。 (A あれなら もう)

18↑

広島 19-1

ホイジャガ ヤスー ナインジャケー アリヤー
だが 安く ないのだから あれは

↑19

アータ。ソー ターラ コサエルヨーニヤー
あなた。そう 俵[を] 作るようには

イカンジャケー。
いかないのだから。

231A : ソリヤー マー ソージャガ。{笑} (B・C {笑})
それは まあ そうだが。{笑} (B・C {笑})

イッペンニヤー デキンケー
一度には できないから

マー マー ジュンジュンニ ツクッテイクンヨ。
まあ まあ 順々に 作っていくのよ。

232C : ウン。ソリヤー マー
うん。それは まあ

ミーコシュエ コーシラエリヤー ユー コター ナイ。
御輿を 作れば いう ことは ない。

233A : コーマインヨ。コン コンクライジャケー。(C ンー)
小さいのよ。×× このくらいだから。(C うん)

ンー (B ンー) ソー タカイ モンジャ ナイ。
うん (B うん) そう 高い ものではない。

広島 19-2

234C : タコー アリマヘンカ?

高くは ありませんか

235A : ハー。(B {笑}) キー キーテミニャー ワカランガ

はあ。(B {笑}) ×× 聞いてみなければ わからないが

ソー タカイ モンジャー ナイ。

そう 高い ものでは ない。

236C : アノー ナニー ブツダンドーリデ ミタノニ ヤー

あの 何に 仏壇通りで 見たのに や

マー ナント タカイ モンジャノー オモータ

まあ 何と 高い ものだね [と]思っ

ワタシャー ミタンデスヨ。(B {笑})

私は 見たのですよ。(B {笑})

237A : シ ソ ソリャー アノ アシコノ ミワジンジャノナラ

うん × それは あの あそこの 三輪神社のなら

ヒャクマンエングライ シトルンジャロー。アリャー。

100万円ぐらい しているのだろう。あれは。

238C : ホーデヒョー?

そうでしょう

239A : アー アヨナナー デキチャーセンヨ アリャー。

ああ あんなのは できはしないよ あれは。

広島 19-3

ジャガ コノグラインジャケー アン マー イチマンカ
だが このくらいのだから ああ まあ 1万[円]か

ニマンカグライデ デキルンジャ ナイカーノ。
2万[円]くらいで できるのでは ないかね。

240C : ソンクライグライデ デキマヒョーカ。
それくらいで できるでしょうか。

241A : アー。(B ーン)
ああ。(B うん)

242C : マー ソンクライグライデ デキルンナラネー。(A ーン)
まあ そのくらいで できるのならね。(A うん)

カクチョーナイデ。
各町内で。

243B : タワラモネ フルー ナリヤー アレジャシ。(A ーン)
俵もね 古く なれば あれだし。(A うん)

ズンズンネ。ダメニ ナルシネ。(A ホーヨ) ン。
ずんずんね。だめに なるしね。(A そうよ) ん。

244C : ホイジャガ イマゴロ タワラモ ヤスー ナインデスデ。
だが 近頃 俵も 安く ないのですよ。

(A ホー ホー)
(A ほう ほう)

広島 19-4

アノ コドモガ モツ ソントニ オーキー コター ナイガ
あの 子供が 持つ そんなに 大きい ことは ないが

(A ウン) コシラエテモロータラ

(A うん) 作ってもらったら

ナナセンエンモ ハッセンエンモ トラレル。
7,000円も 8,000円も とられる。

245A : ソーヨ ソーヨ ソー ソー ソー ソー
そうよ そうよ そう そう そう そう

246C : ホイデ ソノ タノミニ イク トキニ
それで その 頼みに 行く 時に

サケー (A ン) モッテッテ (A ソー ソー)
酒を (A うん) 持って行って (A そう そう)

スンデ オカネオ ハローテ
すんで お金を 払って

マタ サケー モッテッテ イヨッタラ (A ウン)
また 酒を 持って行って [と]いっていたら (A うん)

イチマンエングライニャー スグ ナル。(B {笑})
1万円ぐらいには すぐ[に] なる。(B {笑})

247A : ウン ウン ジャロー。
うん うん だろう。

19↑

広島県広島市1977注記

〔1〕 マイダナ

舞棚。舞台。ただし、「マイデン（舞殿）」「マイドノ（舞殿）」「コウドノ（神殿）」「カグラデン（神楽殿）」が常用されるようである。

〔2〕 カグラ

神楽。民間神事芸能のひとつ。各地の神社で祭礼の時などに行われる舞・囃子。

〔3〕 ナンゲン

間^{ケン}は、長さの単位。普通、1間は、約1.82m。

〔4〕 ノーテカラー

助詞「テ」・「デ」のあとに「カラニ」あるいは「カラ」をつけて用いられることが多い。意味上は無用ともいえる「カラニ」・「カラ」である。

〔5〕 ナワー ソイドケヨー

わらの「ハカマ」に相当する部分を取り去り、芯の部分だけにすることを、ここでは「ソグ」といっている。なお、「ナワー」と言っているのは、「ワラー」と言おうとして、誤っている。

〔6〕 ハカマ

ここでは、植物の茎をまといおおう皮。

〔7〕 ツリヤ

釣屋。家屋と倉との間の部屋。

〔8〕 セドグチ

背戸口。家の裏口。

〔9〕 ダイガラウス

台唐臼。大唐臼。米麦を精白するのに使用する搗臼（つきうす）。台に上がって片足で踏板を踏むと、軸を中心にして杵が上下し、臼を搗く仕組み。

〔10〕 タケヤ

屋号。竹屋。

〔11〕 ワカラン

「だめだ」・「いけない」・「つまらない」などの意味で用いられる。広島市

周辺の、安芸南部地域で、時々、老人層に聞かれるものである。中年層以下では、「イケン」・「ツマラン」の形になっている。

[12] ジューニジンギー

十二神祇。広島県で行われている9種類の神楽の系譜のひとつ。石見神楽系に分類される。広島県の西南部に行われている神楽。多くの演目のうち、12の演目を選んで神楽を構成する。

[13] ススハキ

煤はき。神楽の演目のひとつ。「煤払い」とも。

「煤はき」は、すすやほこりなどをはらってきれいにすること。特に、正月の準備に、ふだんは手の届かないようなところまで大掃除すること。すすはらい。

[14] ニートー

仁当。ニトー（二刀）とも。神楽の演目のひとつ。

[15] サンテン

三天。神楽の演目のひとつだと思われる。

「三天」は、摩利支天・大黒天・弁才天の総称。

[16] アンドー

安道。アンドンとも。神楽の演目のひとつ。

[17] ナギナター

長刀。薙刀舞。神楽の演目のひとつ。

「長刀」は、長い柄の先に、広く長くそり返った刃をつけた武器。

[18] ショモワケ

所望分け。所務分け。神楽の演目のひとつ。王子舞で、大王が死に際して、4人の王子に春夏秋冬、東南西北、青赤白黒、木火金水、などを分配する。財産分与の意味と考えられている。

[19] ウラシマ

浦島。神楽の演目のひとつだと思われる。

「浦島」は、浦島伝説。丹後国の漁師、浦島太郎は、亀に連れて行かれた海中の竜宮で乙姫に歓待され、3年の月日を過ごし、玉手箱をもらって故郷に帰るが、乙姫の禁を破って玉手箱を開けると白煙がたちのぼり、老人

になったというもの。

[20] リュー

竜。おそらく、オロチ（大蛇）のこと。神楽の演目のひとつ。

[21] カッセン

合戦。神楽の演目のひとつ。

[22] タマトリ

玉とり。神楽の演目のひとつ。

「玉とり」は、いくつかの玉を空中に投げ上げては受け止めてみせる芸。

[23] アマ

天。神楽の演目のひとつだと思われる。

[24] アマオ

天生。神楽の演目のひとつだと思われる。

[25] エベスダイコク

夷大黒。神楽の演目のひとつ。

「夷大黒」は、比叡山の大黒天と西宮の夷が長者の家の福の神となるいささつを描く。なお、えびす神と大黒神は、財福の神として、民家で普通2体並べてまつられる。

[26] シテン

四天。神楽の演目のひとつ。

「四天」は、四天王の略。四天王は、仏教を守護する四神。東方の持国天・南方の増長天・西方の広目天・北方の多聞天をいう。帝釈天に仕え、それぞれ四方を分担し守る。像は須弥壇の四隅にそれぞれ配され、甲冑をつけ武器を持ち邪鬼を踏む。護世四天王。四大天王。

[27] オーエヤマ

大江山。神楽の演目のひとつ。

「大江山」は、鬼退治伝説。源頼光らが山伏姿で大江山に入り、酒に酔いつぶれた酒呑童子を討ったというもの。

[28] ハタマエ

旗前。ハタマイ（幡舞）のことか。神楽の演目のひとつ。

[29] アラヒラ

荒平。世鬼ともいう。神楽の演目のひとつ。

[30] ニワカシバヨー

俄芝居。俄狂言。仁輪加。即興的に演じる滑稽な寸劇。江戸時代、京都で、祭礼などに素人が演じたものが始まりで、江戸・大坂から地方に広まった。

[31] オーヤマ

大山。神楽の演目のひとつだと思われる。

[32] エンショー

煙硝。発射すると煙が出る火薬の俗称。

[33] イッキン

^{キン}斤は、重さの単位。時代により、また、品目により差があったが、普通、1斤は、約600g。

[34] ヤゲン

薬研。薬の材料を砕いて粉末にするための器具。舟形で、底がV字形にくぼんでいる。上から軸のついた車輪のようなものを押し付けて砕く。

[35] メギ

メグ。壊す。砕く。

[36] ゲンノー

玄翁。頭の両端にとがりのない大きな金づち。大工や石工がのみを叩いたり、石を割るときなどに用いる。

[37] カサビー

笠火。十二神祇神楽では、演目の間に花火をたいて雰囲気盛り上げる。その一が吹き火、その二が笠火。吹き火は、円筒形の竹筒から上に花火を吹き上げるもの。笠火は、垂直に立てた心棒の上に回転するようにつけた横棒の両端に花火を仕掛けたもので、その花火が勢いよく回転して、笠のように見える。

[38] キンラン

金襴。絹に金糸を織り込んで模様を織り出した豪華な織物。

[39] ヨイヨ

まあ。驚いたり、あきれたりする時に言う語。

[40] ヤネコイ

苦しい。つらい。難しい。

[41] ハナノ アナカラ ミル

神楽の面ごしに見るという意味か。

[42] ダイフクチョー

大福帳。商家で、日々の売買の金額を書き入れる元帳。半紙を細長く二つ折りにして横にとじた分厚い帳面。

[43] ヤライ

矢来。竹や丸太を縦横に粗く組んで作った臨時の囲い。

[44] シンゲー

神宮。神殿。社。

[45] ドノクライグライ

どのくらい。「くらい」が重用されている。

[46] ハイリドモ

ドモは、そのことに関するものごとのうちのひとつにすぎないという意味を添える。など。でも。

[47] ヨゴロ

祭りの前夜。

[48] サンダーラー

サンダーラは、棧俵。米俵の両端にあてる、わらで編んだ円いふた。

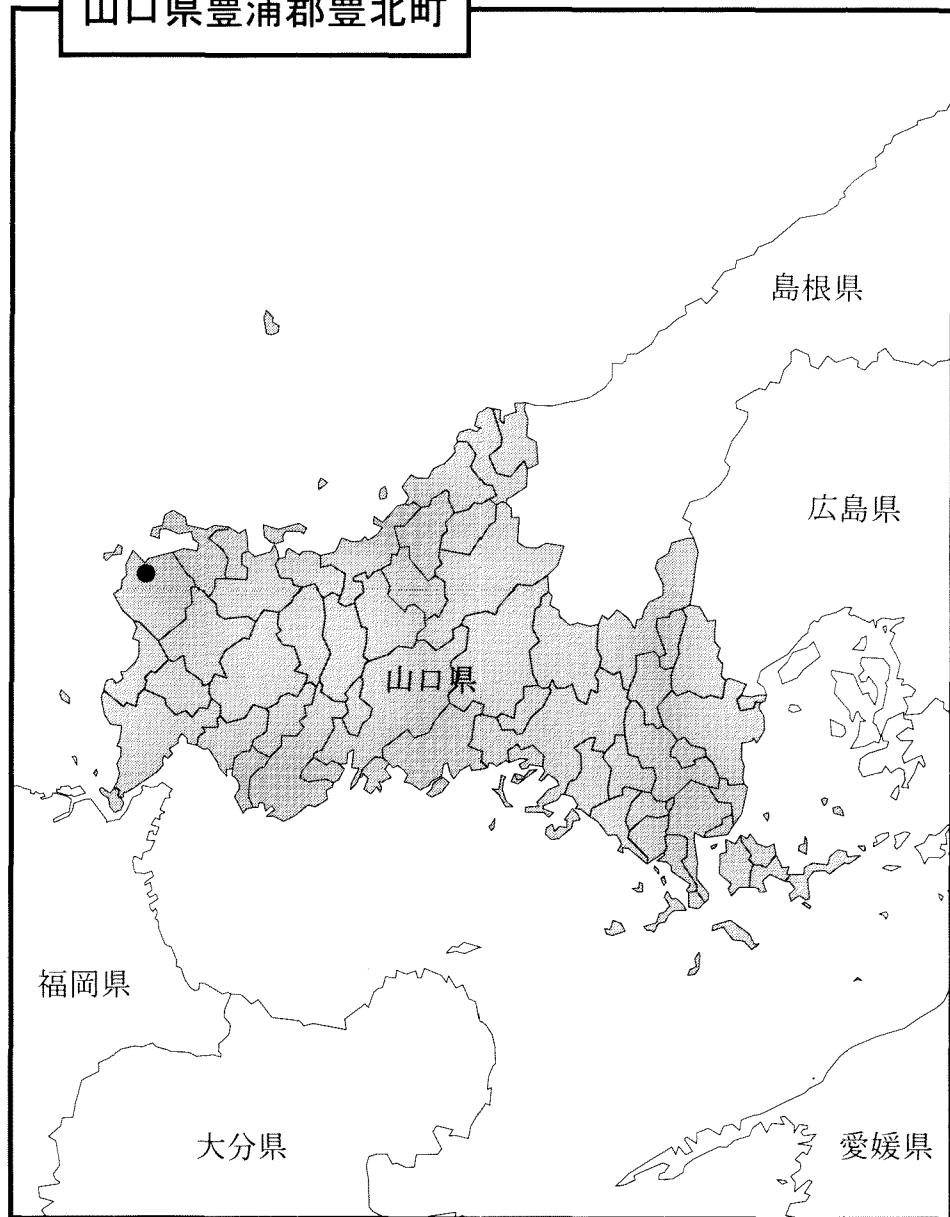
[49] フェシバル

「フェスティバル」と言おうとした。

「ひろしまフラワーフェスティバル」は、広島と世界を結ぶ平和の花の祭典として、毎年5月3～5日の3日間、広島県広島市中区の平和大通りをメイン会場に行われるイベント。

Ⅱ. 山口県豊浦郡豊北町 1978

山口県豊浦郡豊北町



山口県豊浦郡豊北町1978話者・担当者

「各地方言収集緊急調査」

話者	木下 チヨノ
	豊田 義人
	松富 六市
収録担当者	住田 幾子
文字化担当者	住田 幾子
共通語訳担当者	住田 幾子
解説担当者	住田 幾子

(敬称略 項目別50音順)

「全国方言談話データベース」

編集担当者	佐藤 亮一
	江川 清
	田原 広史
	井上 文子
編集協力者	鳥谷 善史
	熊谷 康雄

山口県豊浦郡豊北町1978解説

収録地点名

とようらぐんほうほくちよう あがわ
山口県豊浦郡豊北町 大字阿川

収録地点の概観

位置

豊浦郡は山口県の西北部にあり、豊北町は豊浦郡の北部に位置する。

交通

山陰本線が中央を南北に走り、海岸沿いを国道191号線が通っている。山陰本線阿川駅から滝部・神田地区へ豊北交通バスが走り、山陽電軌バスが神田・栗野地区へ通じている。飯塚・平畑地区は、山陰本線特牛駅が最寄である。

地勢

阿川は、東は雲屏山（287m）が栗野地区との境となり、南は大庫山（169m）・石峠で滝部地区に接し、西は100m前後の馬の鞍・坂西山などで神田地区と分水する。北は油谷湾に面して向津具半島を望む。

阿川地区はほぼ4km四方で、地区の中央を沖田川が流れて沖田平野が開け、東と西に赤崎川・立目川が流れていずれも小平野を形成する。気候は温暖であるが、山陰側であるため雨は比較的多い。

行政区画

1955(昭和30)年4月1日、豊浦郡北部の、神玉村、角島村、神田村、阿川村、栗野村、滝部村、田耕村と宇賀村の一部が合併して豊北町となった。

戸数・人口

1978(昭和53)年12月1日現在、世帯数5,197戸、人口18,507人。人口は減少の傾向にある。

産業

農林水産業が中心である。水産面においては、釣漁業がもっとも多く、さし網、まき網、はえなわがこれに続いている。ウニ・ワカメなどの採貝・採草漁業も盛んである。

また、農業の占める割合も高く、その主なものは米作である。果樹の栽培も行われ、明治時代末頃から温州みかんが作られている。

収録地点の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

豊北町阿川地域の方言は、^{ながと}長門方言の一分派である。豊北町のある長門西南部は九州との関連が深いため、九州方言の特徴がいくつか観察される。しかし、音韻、文法、語彙面のおおむねは、山口県方言、つまり中国地方山陽道方言の一分派と認められる。

音韻

- (1) 音韻体系は、共通語とほぼ同じである。ただし、ガ行鼻濁音はない。
(2) 次のような音変化が見られる。

①母音の交替

ヤッポー (やっぱり)
カモワン (かまわない)
ヤリヌクイ (やりにくい)
フンート (ほんとう)
アシコ (あそこ)
カイル (帰る)
エレテ (入れて)

②母音の融合

[ai] → [a:]	ア <u>カ</u> ー (赤い)
	チ <u>カ</u> ー (近い)
	ナ <u>ガ</u> ー (長い)
	ナ <u>ー</u> (ない)
	ツカイ <u>タ</u> ー (使いたい)
	ワカル <u>マ</u> ー (わかるまい)
[ai] → [a ^ə e]	ジ <u>ダ</u> エエ (時代)
	ハ <u>エ</u> エテ (入って)
	<u>ダ</u> エエブン (だいぶん)
[ai] → [ae]	キ <u>カ</u> エ (機械)
	ア <u>エ</u> ダ (間)
[au] → [u:]	ア <u>ル</u> ー (洗う)

[oi] → [e:]

フテー (太い)

[oi] → [o^ee]

シロエエ (白い)

③子音の交替

「ザ」 → 「ダ」

キダキダ (ぎざぎざ)

「ゼ」 → 「デ」

ヘーデー (平生)

「ラ」 → 「ダ」

ダンプ (ランプ)

「セ」 → 「ヘ」

ヘン [←セン] (しない)

「ソ」 → 「ホ」

ホレジャカラ (それだから)

④[r] の脱落

ケードモ (けれども)

アエー (あれ)

ソエデ (それで)

⑤[w] の脱落

アタシタ (わたした)

⑥「ノ」 → 「ン」

ドロン ナカエ (泥の中へ)

エーンジャ (いいのだ)

ワズカナモン (わずかなもの)

⑦融合・縮約

トロートモーテ (取ろうと思って)

モノアー (ものは)

ヒルアー (昼は)

アリアー (あれは)

コッチャー (こっちは)

ワタシャー (私は)

アリアー (あれば)

ワケジャー (わけでは)

タメニャー (ためには)

トシュー (年を)

ムギュー (麦を)

アリョー (あれを)

ヤメチャロー (やめてやろう)

ハイル チュー (入るという)

エー チュータ (よいと言った)

オトカー（男は）
ウヤー（上は）
ミラー（見れば）
ワカラナー（わかるわね）
タウエ タテ（田植えといったって）
タベモノ タッテ（食物といったって）

文法

- (1) シヌル（死ぬる）、イヌル（往ぬる）はナ行変格活用である。
- (2) サ行五段動詞連用形は、イ音便形となり、さらに連母音が融合する。
ゴマカシ Chol → ゴマカイ Chol → ゴマカー Chol（ごまかしている）
- (3) ハ行五段動詞連用形はウ音便形をとる。
コータ（買った）
モローテ（もらって）
- (4) 「いる」は「オル」である。「～ている」は「～ヨル」「～ Chol」となる。
その過去形は「～ヨッタ」「～ Chol」である。
シヨル（している）
シヨッタ（していた）
オモー Chol（思っている）
- (5) 形容詞の語末の連母音が融合現象をおこすことが多い。
アカー（赤い）
フテー（太い）
シロエエ（白い）
- (6) 形容詞の連用形はウ音便形をとることが多い。その際、連用形のあとの「て」は「デ」になる。
ヨー（よく）
オイシュー（おいしく）
ヤカマシュー（やかましく）
ノーデ（なくて）
クソーデ（くさくて）

(7) 形容動詞の終止形はナ止めのものが多い。

マメナ (達者だ)

ラクナ (楽だ)

シズカナ (静かだ)

(8) 可能の表現に、「エル」「キル」(～できる)がある。不可能は「エン」「キラン」(～できない)で表す。

ヤリヤーエン (やれはしない)

シキラン (できない)

(9) 指定の助動詞は、「ジャ」と「ヤ」である。

ワケジャッタケレドモ (わけだったけれども)

ユーコトヤッタ (いうことだった)

(10) 九州方言に見られるのと同じ、「ゴト」(ように),「ゴトアル」(ようだ)という様態の表現がある。

ウソノゴト (うそのように)

エーゴトアル (いいようだ)

(11) 推量の助動詞には「ロー」がある。

キタロー (来ただろう)

カタレルロー (勝てるだろう)

(12) 打消推量の「マー」が聞かれる。

イルマー (いないだろう)

イケマー (行けないだろう)

(13) 打消の助動詞は「ン」である。過去形は「ザッタ」「ダッタ」となる。

セン (しない)

イラン (いない)

オラン (いない)

イカザッタ (行かなかった)

シゴトー セザッタ (仕事をしなかった)

「なければ(ねば)」「なくても」は、「ンニヤー」「ーデモ」となる。

イカンニヤーイケン (行かなければならない)

ツカワンニヤーイケン (使わなければいけない)

セーデモ (しなくても)

ツカワーデモ (使わなくても)

- (14) 伝聞を表す「ゲナ」が聞かれる。

アルゲナ (あるらしい)

ナンジャゲナ (なんだそうだ)

- (15) 準体助詞「の」にあたるものは、「ソ」「ホ」である。

オリルソガ (下りるのが)

ミルソワ (見るのは)

アカーホガ (赤いのが)

ホッタホジャガ (掘ったのだが)

- (16) 格助詞「が」「に」は、省略されることがある。

オレ__マタ (おれ [が] また)

ミカンエン__トル ([水を] みかん園 [に] 引く)

- (17) 格助詞「が」「は」「の」「を」「に」の場合は、前接の母音が長音化して、その役割をはたすことがある。

オブツ__ハイル (汚物が入る)

ナガサ__ (長さは)

タウエ__ミッカマエエ (田植えの3日前)

フロミズ__トリ (風呂水を取り)

アテ__スル (あてにする)

- (18) 格助詞「で」にあたるものは「デカラ」「ニ」である。

ホースデカラ (ホースで)

キョードーデカラ (共同で)

ナッタバツカリ__ (なったばかりで)

ウチ__モ (家でも)

- (19) 格助詞「では」にあたるものは「ニワ」である。

ウチドモニワ (家どもでは)

オル イエニワ (いる家では)

ウチドモニャー (家どもでは)

オツテノ イエニャー (いらっしゃる家では)

- (20) 接続助詞「から」は「ケ」「ケー」とも言う。

イヤヤローケ (嫌だろうから)

タイセツジャケー (大切だから)

- (21) 接続助詞「のに」は「ニ」である。

メガ ワリーニ (目が悪いのに)

- (22) 敬語表現には、「～テ」「～テヤッタ」「～チャッタ」「～サール」「オ～」などがある。

オッテノ イエニヤ (いらっしゃる家では)

オッテナカッタ (いらっしゃらなかった)

キテヤッタラ (来られたら)

デテヤッタ (出られた)

タベツケチャッタ (食べ慣れられた)

カエッチャッタラ (帰られたら)

イーサール (おっしゃる)

オリサエエタ (いらっしゃった)

オミー (ごらん)

オヤリー (おやりなさい)

オシンナ (なさるな)

- (23) よく使われる文末表現には、「ナ」「ノ」「ソ」「ホ」がある。

このうち、「ナ」「ナー」がもっともよく使われる。また「ネ」「ネー」も使われている。ナ行文末詞には、このほか、「イナ」「ソイナ」「ホイナ」「ゾナ」「ドナ」「ホイネ」「ソイネ」などもある。

男性間の会話では、「ノ」「ノー」「イノ」もよく聞かれる。

「ソ」「ホ」は、この地域の特徴的な文末詞としてよく使われている。

- (24) 文中で文のリズムをととのえながら、相手への訴えを強めたり、相手の注意をうながすような表現がある。

イッソ ハー ネモトカラ ヒキタオセー。

(思い切って、もう、根元から引き倒せ。)

アレ チョコチョコーット ツイ カタヒマ ホッタホジャガ。

(あれは、チョコチョコと、つい、片手間に掘ったのだが。)

ヒジューザカエエマデ ヤッテ キタトコロガ

ソノー ナニー デンキガ ナーテ。

(肥中境までやって来たところが、そのう、なに、電気が通じていなくて。)

ソリャー アンター コッチャー ナンドナ。

(それは、あなた、こっちは、なんだよ。)

コンドー オナゴシーデモ ナンジャー ヘガセリャ エー。

(今度、女の人たちにでも、なんだ、はがせればいい。)

- (25) 応答表現には、「ハー」「ソレ」がある。

ハー ハー。(はい、はい。)

ウン。ソレー。(うん。そう。)

ハー。ソレ ソレ ソレ ソレ。(はい。そう、そう、そう、そう。)

ソレカナ。(そうかい。)

語彙

- (1) 「このように」に類する語には、次のようなものがある。

コネー (このように)

ソネー (そのように)

アネー (あのように)

ドネー (どのように)

- (2) 「だから」にあたるものには、次のようなものがある。

ソレジャカラ、ホレジャカラ

ソエジャカラ

ソジャカラ

ソヤカラ、ホヤカラ

ソレジャケー

ホヤケ

ジャカラ

- (3) 「そして」にあたるものには、次のようなものがある。

ホシテ

ホイテ

ヘテ

(4) 「ところが」にあたるものには、次のようなものがある。

ホイタトコロガ

ヘタトコロガ

(5) 「多少は」は「ダエエショー」(大小) という。

(6) 「～始める」は「～ハナエル」 という。

イーハナエル (言い始める)

デハナエル (出始める)

(7) 「～て回る」は「～テアルク」 という。

セメテアルイテ (せがんでまわって)

(8) 「この場から立ち去る」ことを「ニゲル」 という。

カッケラカシテ ニゲルソジャー (かけて行ってしまうのだ)

(以上の解説は、基本的に、「各地方言収集緊急調査」当時の報告原稿によるものである。)

山口県豊浦郡豊北町1978凡例

談話資料は、方言談話音声、方言談話音声の文字化、方言談話の共通語訳から成る。CD-ROM には、ページ単位で切った方言談話音声を、CD には、方言談話音声全体を収録した。

文字化と共通語訳

方言談話音声の文字化はカタカナで表記し、方言談話の共通語訳は、漢字かなまじりで表記した。方言談話音声の文字化と共通語訳とは、対照ができるように、上下2段を1組として示した。上段が文字化、下段がその共通語訳である。

文字化については、表音的カタカナ表記を用いている。つまり、長音は「ー」で示し、助詞「は」は「ワ」、助詞「を」は「オ」、助詞「へ」は「エ」と表記する。「カ°」「キ°」「ク°」「ケ°」「コ°」はガ行鼻濁音を表す。

また、分かち書き、句読点などは、便宜的なもので、厳密なものではない。

「各地方言収集緊急調査」における、方言談話音声の文字化の方法は、後に掲げる「調査実施上の留意事項について」などに詳しく記されている。ただし、今回、「全国方言談話データベース」として公開するにあたり、文字化・共通語訳を整備する際には、当時のマニュアルにはとらわれず、読みやすさ、意味のとりやすさを優先して処理をした部分がある。

また、この文字化は、時間の流れを忠実に反映することを意図していない。したがって、発話の重なりや、複線的な会話の進行の構造が、文字化からは読み取れない。データを使用する際には、文字化・共通語訳を見るだけでなく、実際に、音声を聞いて判断していただきたい。

発話単位

ひとりの話者が続けて話している、話者が交替するまでの連続した発言を1発話とする。途中にあいづちが入る場合もある。

発話番号 〈半角〉

発話の通し番号を、各発話の話者記号の前に付した。

例：1A

話者記号 〈全角〉

話者、調査者など、談話の場にいる人物について、A、B、C、D、E、F、……のように、アルファベットで示した。

例：1A

固有名詞

話者および一般の人名については、文字化・共通語訳の該当個所を、A、B、C、X1、X2、X3などのアルファベットに置き換えた。話者、調査者など、談話の場にいる人物については、A、B、C、D、E、F、……のように示し、話題の中の第三者については、X1、X2、X3、……のように示した。ただし、音声は、該当個所に加工をしなかった。

歴史上の人物や、有名人の人名については、記号に置き換えることはせず、個人名を出すことにした。また、会社名、店名、製品名などについても、発言されたとおりに記している。

地名については、そのまま扱うことにした。

記号

。(句点) 〈全角〉

ポーズがあって、意味的にひとつのまとまりを持つ文と考えられる個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して句点をつけた場合もある。

例：ソーデス ソーデス

そうです。 そうです。

、(読点) 〈全角〉

基本的に息をついた個所、または、ポーズのある個所。

共通語訳については、実際の発話でポーズが置かれていないところでも、意味の取りやすさを優先して読点をつけた場合もある。

また、文字化と対応しなくなっても、読みやすさを優先して、取り去った場合もある。

例：シ、ヤクシヨ

市役所

? 〈全角〉

上昇イントネーションと判断した個所。

例：アズケイトイテ？

預けておいて？

() 〈全角〉

あいづち。ひとりの人が連続して話している時にさえぎったり、口をはさんだりした個所。

(A ………) のように、開き括弧の次にあるアルファベットは、発言している話者を示す。() の閉じ括弧の直前の句読点は省略した。

なお、() 内のあいづちと、独立した発話扱いされているあいづち的発話との違いは必ずしも明確ではない。

例：(A アー ソーデスカ)

{ } 〈全角〉

笑，咳，咳払い，間，などの非言語音。

例：{笑}

{咳}

{手を叩く音}

××× 〈全角〉

言い間違いや言い淀みなど。

例：ム ム ムツカシー

× × 難しい

*** 〈全角〉

聞き取れない部分。

例：オチャズケノ*

お茶漬けの*

/// 〈全角〉

対応する共通語訳が不明な部分。

例：モーゼーノ モジナンデスナ、

//////// 「文字」 なんですネ。

[] 〈全角〉

方言音声には出てこないが、共通語訳の際に補った部分。

例：ミカン ノセテ

みかん [を] 乗せて

= 〈全角〉

[] 内の=は、意味の説明や、意識であることを示す。

例：イマ ユー

今 いう [=今話題にあがった]

| | 〈全角〉

注意書きなど。

例：| Aに対して|

[] 〈全角〉

注記。方言形の意味・用法、特徴的音声などについて説明し、文字化・共通語訳の後にまとめてある。[] 内の半角数字は、注記の番号を示す。

例：ホシツキサンのオモチ [1]

音声

CD-ROM には、冊子のページ単位で区切った方言音声の wave ファイルを収録している。冊子のページを pdf ファイルにしたものに、方言音声をクリックさせていて、各ページにある **再生** の部分をクリックすると、そのページの音声を聞くことができる。

CD には、談話全体の音声を収録している。以下にあげるように、適当な個所で、トラックに区切っている。

CD トラック番号

文字化・共通語訳のヘッダは、方言音声を収録した CD のトラック番号を示している。「山口20-1」は CD トラック番号が20で、その1ページ目ということである。「山口20-1」「山口20-2」……「山口20-6/21-1」……「山口38-4」のように表示される。

また、文字化・共通語訳部分には、CD のトラックの切れ目を表示した。矢印の部分がトラックの切れ目を表し、その両側の数字はトラック番号である。

↑20, **20↑21**, …… **37↑38**, **38↑** のように表示される。

第15巻のCD（75分36秒）には、山口県豊浦郡豊北町の談話，【井戸掘り，箱苗，農業の今昔】の全体の音声を収録している。各トラックの開始ページ・行，終了ページ・行，時間は下記のとおりである。行は，文字化の行を表示した。

トラックNo.	開始ページ・行	終了ページ・行	時間:分:秒
20	p.139・0.1	p.144・0.17	0:01:57
21	p.144・0.19	p.150・0.7	0:02:04
22	p.150・0.7	p.156・0.9	0:02:01
23	p.156・0.9	p.163・0.9	0:02:03
24	p.163・0.9	p.170・0.9	0:02:03
25	p.170・0.9	p.173・0.19	0:01:07
26	p.174・0.1	p.179・0.9	0:02:07
27	p.179・0.11	p.185・0.15	0:02:06
28	p.185・0.15	p.192・0.1	0:02:02
29	p.192・0.3	p.198・0.17	0:02:02
30	p.198・0.19	p.206・0.13	0:02:03
31	p.206・0.15	p.213・0.15	0:02:03
32	p.213・0.17	p.221・0.11	0:02:09
33	p.221・0.13	p.226・0.3	0:02:06
34	p.226・0.3	p.232・0.7	0:02:03
35	p.232・0.9	p.237・0.11	0:02:03
36	p.237・0.11	p.244・0.5	0:02:02
37	p.244・0.5	p.250・0.19	0:01:58
38	p.251・0.1	p.254・0.11	0:01:10
計			0:37:09

山口県豊浦郡豊北町1978談話

収録地点 とようらぐんほうほくちよう あ がわ
山口県豊浦郡豊北町 阿川

収録日時 1978(昭和53)年 8 月 3 日

収録場所 豊北町立阿川小学校

話題 井戸掘り, 箱苗, 農業の今昔

話者

A	男	1911(明治44)年	(収録時67歳)	農業
B	女	1896(明治29)年	(収録時82歳)	農業
C	男	1911(明治44)年	(収録時67歳)	農業

調査者

女	(収録談話中に発話なし)	
1 名	(収録談話中に発話なし)	山口県教育庁文化課職員
2 名	(収録談話中に発話なし)	豊北町教育委員会職員

収録時間 (CD) 37分09秒

【井戸掘り，箱苗，農業の今昔】

話し手

- A 男 明治44年生 (収録時67歳)
B 女 明治29年生 (収録時82歳)
C 男 明治44年生 (収録時67歳)

1 A：アリヤー[1] イツゴロジャッタカイナー。

あれは いつ頃だったかな。

↑20

2 B：ハー キョネンノ アノー ヨ シガツ。

はあ 去年の あのを × 4月。

3 A：ソエ[2]カナ。

そうなの。

4 B：ハー。

はあ。

5 A：イヤー ワタシン トコロエナー (B ーン)

いえ 私の ところへね (B うん)

X 1 チャン[3]ガ キタローガナ。

X 1 ちゃんが 来ただろうよ。

6 B：ハー ハー。

はあ はあ。

7 A : ナニゴトカヤ ッテ ユータラ
「なにごとかい」 って 言ったら、

チョエト アニサン〔4〕 ミテモラエター コトガ アル
「ちょっと 兄さん 見てもらいたい ことが ある」

チュオーガナ。
と言うんだよね。

8 B : ハー ハー。
はあ はあ。

9 A : ナニオヤテ。 ミテモライター ダッテ
「何をだい。 見てもらいたい といっても

オリヤー アンマリ オカシー トコワ ミルソワ イヤデヤ
俺は あまり おかしな ところは 見るのは いやだよ」

テ ユータ (B・C {笑}) トコロガ (B ンー)
と 言った (B・C {笑}) ところが (B うん)

イヤッ、 インヤ ソレジャ ナーケド
「いや いや そうでは ないけど

チョット テマー トリヤー〔5〕 エー ト オモーチョル
ちよっと〔だけ〕 時間を もらえれば いい と 思っている」

ッテ ユーカラ。
と 言うから。

10B : フニー。

ふん。

11A : マ ナンデモー オウチニ イカンニャー イケン[6]

「まあ なんにしても お宅に 行かないと だめだ。

イコーエー テ。 デ イッタソイナ。

行こうよ」 と。 それで 行ったんだよね。

12B : ハー ハー。

はあ はあ。

13A : ヘテ アンタガター アノー スイジバノ チカクガ

そしたら あなたがたは あのう 炊事場の 近くが

エー ッテ ユーテ。 ヘカラ (B ソー)

いい と 言って。 それから (B そう)

X 1 チャンワ アスコ[7]ノ カミ[8]ノ ホーガ

X 1 ちゃんは あそのの 上手の ほうが

エー ッテ ユー。

いい と 言う。

14B : ソー ソー。

そう そう。

15A : マー ドッチガ ミズガ デヨーカイナー ッテ ユーカラ

まあ どっちが 水が 出るだろうかな と 言うから、

(B ハー) ドッチモ デル ッテ ワシガー ユータホ。

(B はあ) どっちも 出る と 俺が 言ったの。

(B {笑}) ドッチ ホッテモ デル ッテ。

(B {笑}) どっち[を] 掘っても 出る と。

マ オレモ カミサマジヤ ナーカラ ワカランケドノー。

まあ 俺も 神様では ないから わからないけどね。

ドッチ ホッテモ デルイ コリヤー ッテ。

どっち[を] 掘っても 出るよ これは と。

16B : ウン。

うん。

17A : ヘテ マー ドーデモ マー アノ ホーガ
そして まあ どうしても まあ あの ほうが

ジブンデ キニ イッタカラナー。

自分[=X 1 自身]で 気に 入ったからね。

18B : ハー ハー。 ソレガ ワタシドモワナ。

はあ はあ。 それが 私などもね。

アンマリ アノー キョリガ トーイーカラネ。 (A ウン)

あまり あのう 距離が 遠いからね。 (A うん)

コンド ヒ ナツワ アノー ヌクイ ミズー

今度 × 夏は あのう 温かい 水を

ツカワンニャー イケン。
使わないと いけない。

フユワ ヒヤー ミズ ツカワンニャ イケンカラ。
冬は 冷たい 水[を] 使わないと いけないから。

アノー ナニー コンナー[9] オトーサン[10] アンター
あのう なに 「あなた お父さん あなた

シタノ ホーガ ヨーワ ナーカナ ッテ
下の ほうが よくは ないかな」 と

オンナドモワ ユータ ワケイナ。(A ウン)
女たちは 言った わけよね。(A うん)

トコロガ ア トーサンデ ミタ トキニャー
ところが × 父さん[のほう]で 見た ときには

ソリャー アンター コッチャー ナンドナ。
「それは あなた こっちは なんだよ。

イエノ シタノ ホーワ アノー コノー
家の 下の ほうは あのう このう

オブツー ハイル チュー ワケジャー ナエガ
汚物が 入る という わけでは ないが

アンマリ アノー ダエドコロノ シタノ ホージャカラ
あまり あのう 台所の 下の ほうだから

アノ ワタシャー ムコーノ ホーガ エー、
あの 私は むこうの ほうが いい

エー ト オモーチョル テ ユーテヤカラナ。 (A フーン)
いい と 思っている」 と おっしゃるからね。 (A ふうん)

ウン。 ソレー。 ソーナ。
「うん。 そう。 そうだよ。

フナラ ソノ マー ソノ テンオ カンガエリヤー
それなら その まあ その 点を 考えれば

ソリヤー マー ムコーノ ホーガ エーナー
それは まあ むこうの ほうが いいな」

チューヨナー ワケジャッタケードモ。
というような わけだったけれども。

ワタシドマー アー ヤッパリ アノ
私などは ああ やはり あの

ヒヤー ミズオ ツカイ ヌクイ ミズガ ツカイターカラ
冷たい 水を 使い 温かい 水が 使いたいから

イエノ シタガ エー チュータン。
家の 下手が いい と言ったの。

20↑21

ケド マー (A イマー) ケツキョクワ
けれども まあ (A 今) 結局は

山口 21-2

イマノ トイー ホーニ ナッタ ワケジャケーネ。
今の 遠い ほうに なった わけだからね。

19A : ムカシワナ。(B ンー)
昔はな。(B うん)

ムカシワ ラクサ[11]デナ。(B ンー)
昔は 落差でな。(B うん)

コンニャー ドーモ グアイガ ワルイ。
[水が流れて]来ないと どうも ぐあいが 悪い。

ミズワ ラクサデ コンニャー ドーモ グアイガ ワルイ チュー
水は 落差で 来ないと どうも ぐあいが 悪い という

イツモ カンネンデ オッタソイナ。
いつも 観念[=考え]で いたんだよね。

20B : ウーン。
うん。

21A : ガ サイキンー アー シテ マー
だが 最近 ああ して まあ

キカエエ[12]ガ ハッタツ シタカラナ。
機械が 発達 したからね。

22B : ウーン。
うん。

山口 21-3

23A : ハールカ シタジ[13]ノ ホーカラデモナ。
はるか 下手の ほうからでもね。

ドンドン ミズガ アゲラレルカラ。
どんだん 水が 上げられるから。

24B : ハー。
はあ。

25A : ドコデモ カシコデモ ミズノ デル トコロオ ホランニャーナー。
どこでも かしこでも 水の 出る ところを 掘らないとね。

(B ウーン) イケンソエエ。 (B ナー)
(B うん) いけないんだよ。 (B なあ)

ホエデ ナンジャローガナー。
それで なんだろうがな。

マー ソー、ソーシテカラ マー アソコエ チーット ハー[14]
まあ そう そうして まあ あそこへ ちょっと もう

ブルデ ホリカケ Chol チュオーガナ。
ブルドーザーで 掘りかけている と言うんだよね。

26B : ハー ハー。 ソレーナ。 ダエブンナ。 (A ウン)
はあ はあ。 そうよ。 だいぶんね。 (A うん)

サンゲン ヨンゲングライ ホッ ホッタソエナ。 (A ーン)
3間 4間ぐらい ×× 掘ったんだよね。 (A うん)

山口 21-4

ブルガ ホッタソエナ。
ブルドーザーが 掘ったんだよね。

27 A : ソレカラ コンドー イドー ホッテモ
それから 今度 井戸を 掘っても

コンド アト ドネー シタラエーカ。
今度 後 どのように したらいいか。

イワオ トメテ [15] ソシテ ロカ スルカ センカ チュー
岩を 埋めて そして 濾過 するか しないか という

モンダェ ナッ ナッタデナ。 (B ウン ウン)
問題[に] ×× なったからな。 (B うん うん)

ヘテ マター ヤッテ キタカラナー。 (B アー)
そして また やって 来たからね。 (B ああ)

オウチノ X1 チャンガ。 ア ロカ スリヤー シュ、
お宅の X1 ちゃんが。 × 濾過 すれば ××、

アノー シュロノ カワ [16] ガ イルカラ。 (B ハー)
あのう シュロの 皮が いるから。 (B はあ)

シュロノ カワー ウチー アノー アル ッテ ユーカラ。
シュロの 皮は 家に あのう ある と 言うから。

マー ヤロー ッテ ユー コトデナ。 (B ウーン)
まあ やろう と いう ことだな。 (B うん)

トリー キタカラ。 ウチノ ムスコエナ。
取りに 来たから。 うちの 息子へね。

ウチノ ムスカー ミガ カルイカラ。
うちの 息子は 身が 軽いから。

オマエ ノボツテカラ ヘージャゲー ッテ (B マー)
おまえ 登って はいであげろ と (B まあ)

イーヨッタソエナ。(B ホー)
言っていたんだよ。(B ほう)

トコロガ ヘグソワ メンドークサーカラナ。(B ーン)
ところが はぐのは めんどくさいからね。(B うん)

イッソ ハー ネモトカラ ヒキタオセー テ。{笑}
いっそのこと もう 根元から 引き倒せ と。{笑}

28B : {笑} マー ソレジャッタカナ。
{笑} まあ そうだったかな。

29A : ヒキタオセー ッテ ユーテ。
引き倒せ と 言って。

ソ ソノママ モツテ インデ[17] コンドー
× そのまま 持って 帰って 今度

オナゴシー[18]デモ ナンジャー。 ヘガセリヤー エーワイヤー
女の人たちにも なんだ。 はがさせれば いいだろう

チュヨナー (B ソー ソー) コトデナ。(B ウン)
というような (B そう そう) ことでね。(B うん)

ホンナラー マー ソネー スルカナ チューカラ。
それなら まあ そのように するかな と言うから。

オー ホイデ マー トニカク マー ホルダケ ホツテミー ト
おう それで まあ とにかく まあ 掘るだけ 掘ってみろ と

(B ンー) ユー コトヤト。(B ハー ハー)
(B うん) いう ことだった。(B はあ はあ)

ヘテー マー アンタガ シッチョッテノヨーニ
そして まあ あなたが 知っていっしやるように

X 2 チャン[19]ガ ホリアゲタホイナー。(B ウン)
X 2 ちゃんが 掘りあげたんだよね。(B うん)

ウーン。イマ ナンゲングライ ホッチョ、アリヤー
うん。今 何間ぐらい ×××× あれは。

アン トキ ナンゲングライ ホッチョッタローカイ。
あの 時 何間ぐらい 掘っていたらうか。

30B : アレ ホリガケガ モー サンゲン ヨンー ハー
ああ 掘りかけが もう 3間 ××× はあ

サンゲンアマリ ホッチョッタナ。(A ンー)
3間あまり 掘っていたね。(A うん)

ケド コレオ ホリツグカー。

だけど これを 掘り継ぐか。

アノー ワタシドモワ イエノ シタガ エー チューンジャカラ。

あのう 私などは 家の 下手が いい というのだから。

(A ウン ウン) ミンナシモ[20] ソノ アノ ナニーナー。

(A うん うん) みんなも そのう あのう なんだね。

アイカン[21]デ チョット

合間で ちょっと

21↑22

ダエエブン ニッスーガ カカッタ ワケイナ。

だいぶん 日数が かかった わけだよな。

31A : フーン。 ソレ ソレ ソレ ソレ。

ふうん。 そう そう そう そう。

32B : ヘデ マー ケッキョクワ マー アンタモー オー

それで まあ 結局は まあ あなたにも ××

ミテモローテ マー アノ ホンナラ デル ト ユー コトデ。

見てもらって まあ あのう それなら 出る と いう ことで。

ホンナラ ハー ホンナラ ショーガナー。

それなら もう それなら しかたがない。

ナツァー アノー ヌクイ ミズ。

夏は あのう 温かい 水。

山口 22-2

ヒヤーン フユワ ヒヤー ミズツテ。

××× 冬は 冷たい 水と[いうことで]。

トーロー ツテ ユー マー ハー ケッシン シタカラナ。

通ろう と いう まあ はあ 決心[を] したからね。

33A : ナツワ アノー ヌ ヒヤイ ミズ。

夏は あのう × 冷たい 水。

フユワ スクイ ミズー ナルソイ。 ンー

冬は 温かい 水に なるんだよ。 うん

34B : {笑} ソリヤー ソレジャケド。 ソレワ ワカッチョルケド

{笑} それは そうだけど。 それは わかっているけど

キョリガ トイーワーナ。 アレカラ アンター (A イヤ)

距離が 遠いよね。 あそこから あなた (A いや)

ウチノ ス ナニー ダエエドコロマデ ヒク ツチャー

家の × なに 台所まで 引く というと

アーター ナンメートル アルカナー。

あなた 何メートル あるかな。

35A : アッテモナー。 (B ハー) パエブ トッ ドロエ

あってもね。 (B はあ) パイプ[を] ×× 泥へ

トメテ ヤッチョローガナ。

埋めて やってあるだろうよ。

36B : ハー。 ケド (A セワー ナエアイナ)
はあ。 だけど (A 世話は ないよ[=大丈夫だよ])

パイプー トメ Chol ケドモナ。
パイプ[を] 埋めてあるけどね。

37A : スクナリヤーヘンイナ。
温かくなりはしないよ。

38B : ソレガ アノー イマニ ヤッポ ナニーナ。
それが あの 今に やはり なんだね。

ソノ パイプイ タマツ Chol アエダノ
その パイプに たまっている 間の

ミズガ スクイワケ ヒヤーワケ[22]。
水が 温かいわけ 冷たいわけ。

(A ウン。 チョットダケ ウン)
(A うん。 ちょっとだけ うん)

ソエジャカラ ソレオ アノー ミナ トリノケテ。
それだから それを あの みな とり除いて。

ヤー アノー センタクオ シー フルミズー トリー。
やあ あの 洗濯を したり 風呂水を とったり。

ソーユーフーニ スレバ コンダー アノー
そういうふうに すれば 今度は あの

ジュンスイノ ミズガ デテ クルカラ。 アノー コノゴロワ
純粹の 水が 出て くるから。 あの この頃は

マー ダエブシ ヒヤー ミズガ デルケドナー。
まあ だいぶん 冷たい 水が 出るけどね。

マダ マダ アンナ ヒヤー、 アノ イチバンノ
まだ まだ あんなに 冷たい、 あの いちばんの

コンボンノ トコロノ ミズワ マコトニ ヒヤイ ミズ。
根本の ところの 水は ほんとうに 冷たい 水。

39A : ソレカラー ナンジャーナー。 オーカタ ハー アノコロデ
それから なんだね。 だいたい もう あの頃で

コレグライ ホッタラ エー。
これぐらい 掘ったら いい。

ヨーワ*****ト オモータ モンジャロー。
*****と 思った ものだろう。

40B : ハー。
はあ。

41A : マタ X1 チャンガ ウチニナー。 (B ハー ハー)
また X1 ちゃんが 家にな。 (B はあ はあ)

チョット キテミテクレ チュー。 (B フーン)
ちょっと 来てみてくれ と言う。 (B ふうん)

ホレカラー ワシャー イッテミタホ。
それから 俺は 行ってみたんだ。

42B : フン。

ふん。

43A : ヘター サカンニー X2チャンガ ホリヨッタナ。
そうしたら さかんに X2ちゃんが 掘っていたね。

(B ハー ハー) ン。

(B はあ はあ) うん。

コレッ X2チャン モー ヤメーヤー ッテ (B {笑})
「これ X2ちゃん もう やめろよ」 と (B {笑})

ユーター。(B フーン)

言った。(B ふうん)

オイサン モー エカローカエエ。エーッチャー。
「おじさん もう いいだろうか」 「いいってば」

オレ マタ ナカ ハエエテミル ユーテ
「俺[が] ×× 中[に] 入ってみる」 [と]言って

ハエエテミタ トコロガ エー ヤキ[23]ガ デテナー。
入ってみた ところが いい 土の層が 出てね。

(B ンー ンー) ミズガ デョーガナ。

(B うん うん) 水が 出ているんだよ。

ドンドン ドンドン。(B ホー)

どんだん どんだん。(B ほう)

マー コレカラ ウヤー ナンボ ホッタッテノ。

まあ これから 上は いくら 掘ったってね。

イガワ[24]ガ ヨケー イルダケ ソンデヤ ッテ

井戸の内側の囲いが たくさん いるだけ 損だよ と

ユーソ。

言ったんだ。

ジューブン ミズガ アルカラ ヤメー ッテ ユーテ。

十分 水が あるから やめろ と 言って。

44B：アノー ソコワ ドネー ナッチョッタホカナー。

あのう 底は どのように なっていたのかな。

アン ギダギダ スルー アノ ツチジャッタホ。

あん ぎとぎと する あの 土だったの。

45A：イヤ アノー。 チョット

いや あの。 ちよっと

46B：イワジャッタカナ。

岩だったかな。

47A：イヤ イワジャーナ。

いや 岩ではない。

ヤケタナー (B ンー) ソーガ コー デチョッタホ。
焼けたような (B うん) 層が こう 出ていたんだ。

48B : ホー。
ほう。

49A : ソレカラ プップ プップ デルイ。 ミズガー。
そこから ピュッピュ ピュッピュ 出るんだよ。 水が。

50B : ホー。
ほう。

51A : ウーン。 アノ ソーガ デタラ モットモ エーソエナ。
うん。 あの 層が でたら いちばん いいんだよね。

22↑23

52B : アー。 ソレカナー。
ああ。 そうなの。

53A : ヘテ フノ エー コトニャー
そして 運の いい ことには

モー ツイ シロートガ ホッテモ
もう ちょっと 素人が 掘っても

ツイ クエルヨーナ ドロジャ ナーカラ。(B ハー)
ちょっと 崩れるような 泥では ないから。(B はあ)

アレ バサーリ バサーリ コー ホル ウチニー
あれ ばさり ばさり こう 掘る うちに

ヨコッチョノ ホーガ クエチャー[25]ナー。
横の ほうが 崩れてはね。

シロートワ オソロシューテ。(B ソリヤ)
素人は 恐ろしくて。(B それは)

ソリヤ ヤリヤー エンケド。
それは やれは しないけど。

54B : マー アレワ マー ユーガ (A アリヤー ナン)
まあ あれは まあ 言うが (A あれは ××)

ヨー ホッタコトイナ。
よく 掘ったものよね。

55A : ナンボー ホッテモ エーソ。 クヤー セン。
いくら 掘っても いいんだ。崩れは しない。

56B : ホンート ヒトリデ ホッタホゾナ。 アレオ。
ほんとうに ひとりで 掘ったのよね。あれを。

57A : ウン。 クヤー センイナ。
うん。崩れは しないよね。

58B : マー フンート。 タマゲタ マー。 ホンートー。(A {笑})
まあ ほんと。 驚いた まあ。ほんとうに。(A {笑})

ソコエ オリルソガ ワタシャー ミチオルソガ オソロシー。
底へ 下りるのが 私は 見ているのが 恐ろしい。

59A : ソヤカラ ホリヤー ホルホドナ。

だから 掘れば 掘るほどね。

マ スイイ [26] ガ サガッテ クルケド。

まあ 水位が 下がって くるけど。

イガワガ ヨケー イローガナ。

井戸の内側の囲いが たくさん いるだろうね。

60B : ハー。ソー ソー。シー

はあ。そう そう。うん

61A : ジャカラ ソンイナ。 アンマリ ヨケー ホッタッテ。

だから 損だよ。 あまり たくさん 掘ったって。

ミズガ アリヤー ハー オイタ [27] ホーガ エー。

水が あれば もう [掘るのを] やめる ほうが いい。

62B : ホヤカラ アノー イガワオ

だから あのう 井戸の内側の囲いを

ジューヨンボン トメテナ。(A ウン)

14本 埋めてね。(A うん)

ジューゴホン コーテ ジューヨンボン トメテ [28]。

15本 買って 14本 埋めて。

ジューゴホンメガ アノー コー アノー。

15本目が あのう こう あのう。

63A：ソトガワエ。
外側へ。

64B：ハー。ソテー。
はあ。外へ。

65A：ア ウエー ウエー デチョルイナ。
あ 上へ 上へ 出ているよね。

66B：ウエー。ウエー イチマイ。
上へ。 上へ 1枚。

67A：ウン。ソレー。
うん。そう。

68B：ホヤカラ ジューゴホン コータノ。
だから 15本 買ったの。

69A：フン フン。
ふん ふん。

70B：ホヤケ ヘーデーワ ナンドナ。
だから ふだんは なんだよ。

モー イツモ オー ナナホングライワ トマツチョルナ[29]。
もう いつも ×× 7本ぐらいは 埋まっているね。

71A：イガーガ フテーカラ。チョット。
井戸の内側の囲いが 太いから。 ちょっと。

72B：ハー。 オーキナカラネー。

はあ。 大きいからね。

73A：ド、ド ナンジャク、 ナンシャクジャローカイ アリヤー。

×、× 何尺、 何尺だろうか あれは。

ハー フデー。

はあ 太い。

74B：ハー。 フツーニ アノ タダ カテーヨーニ ツカウ。

はあ。 ふつうに あの ただ 家庭用に 使う。

アノー センタクニ フルミズニ ツコーテモネー。

あの 洗濯に 風呂水に 使ってもね。

モー アノ イッポンドモシカ イランカラネ。

もう あの 1本だけしか いらないからね。

75A：イガーガ フデーカラ。（B ハー）

井戸の内側の囲いが 太いから。（B はあ）

フツーノ イドワナー。 サシワタシガナー。（B ーン）

ふつうの 井戸はね。 [井戸の]直径がね。（B うん）

ニシャクヨンスンカ ゴスングラエエ。（B フーン）

2尺4寸か 5寸ぐらい。（B ふうん）

イマ アネナ コト ユータテ ワカルマーカエエナー。

今 あんな こと 言ったって わからないだろうかな。

イマ マー ワガワ トショリジャカラ (B シー)
今 まあ あなたは 年寄りだから (B うん)

ワカラナー。(B シー) ワカエシュワ ワカーモノワ
わかるよね。(B うん) 若い人たちは 若い者は

アエーナ コト ユータテ ワカルマー。
あのような こと 言ったって わかるまい。

ナンメータートカ ナンセンチトカ ユワンニャー。{笑}
何メートルとか 何センチとか 言わないと。{笑}

ジャカラ フテーカラ。
だから 太いから。

76B：フトイカラネ。
太いからね。

77A：ハー。
はあ。

78B：ホントワ。
ほんと。

ヘーデー イチジツ ツカウ リョーガ マー イッボンジャナ[30]。
ふだん 1日 使う 量が まあ 1本だな。

79A：ジャロー。
だろう。

80 B : ハー。

はあ。

81 A : ハー。 ソー ソー

はあ。 そう そう

82 B : ソレグライジャカラ コナイダー アンター

それぐらいだから この間 あなた

カンバツ[31] ジャローガナ。 コノー コトシワ。

干ばつだろう。 ×× 今年は。

83 A : ハー。

はあ。

84 B : ホヤカラ アノー ホース コーテナ。

だから あの ホース[を] 買ってね。

85 A : アレー ミカンエン トッテ ** アゲチャリヤー エー。

あれを みかん園[に] とって ** あげてやれば いい。

86 B : アー。 ミカンエンモー。 エ ミカンエンヨリ マダ アノー

ああ。 みかん園も。 × みかん園より まだ あのう

ナニガ。 イネガ タイセツジャケーナー。 (A {笑})

なにが。 稲が 大切だからね。 (A {笑})

ダエエオン[32] ノ タエ モッテイッテナ。

大音の 田へ 持って行ってね。

87A : オー。

おう。

88B : アノー シ マ ミト[33]エ モ アノ コノ

あのう うん まあ 水門へ × あの この

イデー[34] モッテイッテナ。(A ウン)

井手へ 持って行ってね。(A うん)

アノ ナガー ホースデカラ

あの 長い ホースで

ミチノ シタノ ヒワレチョル ソエ

道の 下の ひびが入っている ところへ

23↑24

ドンドン ドンドン アタシタホ。

どんだん どんだん 渡したの。

89A : オ オ オー。ソレカナ。

× × おう。そうかな。

90B : ハー。マー コリヤー ホントニ。

はあ。まあ これは ほんとうに。

91A : ポンプ ツカワーデモ ナンジャロー。

ポンプ[を] 使わなくても 何だろう。

ナカノ エーヤ ヌイタラ

中の 空気[を] 抜いたら

ジドーテキニ オチャー センカー[35]。 タエ。
自動的に 落ちは しないか。 田へ。

92 B : イーヤ イヤ。 ソ ソリヤー ソリヤー オチャーセン。
いや いや。 × それは それは 落ちはしない。

93 A : ポンプ ツカワンニヤー イケンカナ。
ポンプ[を] 使わないと いけないかな。

94 B : ハー。 ポンプ ツカワンニヤー ヤッポ オッ オチャーセン。
はあ。 ポンプ[を] 使わないと やはり ×× 落ちはしない。

95 A : ホントナー。 (B ウン) ウン。
ほんとな。 (B うん) うん。

96 B : オチャー センケド。 アー ホンート ミズニナー。
落ちは しないけど。 ああ ほんとうに 水にね。

モー ホンート イマ テオ アワシテ オガムゾナ。
もう ほんとうに 今 手を 合わせて 拝むよね。

97 A : ソレ。 アンタモ。
そう。 あんたも。

98 B : マー ホンード アノ マゴガ ヒー、マー。
まあ ほんとうに あの 孫が ×× ××。

ワタシノ タメニヤー ヒーマゴジャケド
私の ためには[=私にとっては] ひ孫だけど

山口 24-3

ヒーマゴガ ウマレルソニ モー オムツノ (A {笑})
ひ孫が 生まれるというのに もう おむつの (A {笑})

アラウ バガ ナイワーナ。
洗う 場所が ないわよね。

99A : ワタシャー アノ。
私は あの。

100B : モー ソレオ ヤカマシュー ヤカマシュー イーヨッタソイナ。
もう それを やかましく やかましく 言っていたんだよね。

101A : クシギ[36]ノ イドデモ アレ オミーナ。
串木の 井戸でも あれ[を] ご覧なさいな。

モー サンダイカラ ナンギュ シヨッタジャナ。(B ハー)
もう 3代にわたって 苦勞を していたよね。(B はあ)

アイ チョコチョコーット ツイ ヒーテ
あれ ちょこちょこっと ちょっと ///

カタヒマ ホーッタホジャガ。
片手間に 掘ったんだけど。

102B : マー ソレジャッタカナ。
まあ そうだったの。

103A : ヘテ アト イガーエ イレルソイ
そして その後 井戸の内側の囲いを 入れるのに

マー ヒンチガ カカッタケドナー。

まあ 日にちが かかったけどね。

104B：ホー。

ほう。

105A：イマ ヤッポ イガーエ

今 やはり 井戸の内側の囲いへ

ロップングライ イツモ タマルッテ。

6本ぐらい いつも 溜まるって。

106B：ホー。

ほう。

107A：マサミズ[37]ジャカラ キレーナエエナー。

「マサ水」だから きれいだよね。

108B：ソー ソー。 アス ナンニャー

そう そう。 ×× 何には

クシギニャー チカーカラ エーワーナ。

串木では 近いから いいよね。

109A：モー (B チカーカラ ハー)

もう (B 近いから はあ)

コレデ ハー ヤメチャロー トモーテ。

これで もう やめてやろう と思って。

ワシノ、 ワシノ サイゴノ シ、 シゴトシマエエヤツタ
俺の、 俺の 最後の ×、 仕事じまいだった

アリヤー。 イドノー。 (B ンー)

あれは。 井戸の。 (B うん)

アレカラ コッチー ヤランイ。
あれから 後は やってないよ。

アエー コドモガ ヤカマシ ユーカラ。 (B ハー)
あれ 子供が やかましく 言うから。 (B はあ)

メガ ワリーニ アネーナ コト ムリナ コトー オシンナ
「目が 悪いのに あんな こと 無理な ことを なさるな」

ッテ ユーカラ。
と 言うから。

110B : ホンート。

ほんと。

111A : ケド ヤッポ ナンドナ。 イドホリ チュー シゴトモナー。
だけど やはり なんだな。 井戸掘り という 仕事もね。

(B ハー ヤコー) ヤリツケルト ドネーモ ナーガナ。

(B はあ ×××) やりつけると どうも ないけどね。

112B : オソロシー シゴトジャーナ。

恐ろしい 仕事だね。

113A : ハー。 ヤッポー サカヤ[38]ノ イドドモヤッタラ
はあ。 やはり 栄屋の 井戸などなら

ヒーテー[39] フツカ チョット ソノ アメガ フッテナー。
1日か 2日か ちょっと その 雨が 降ってね。

シゴトー セダッタエー。
仕事を しなかったよ。

114B : フーン。
ふうん。

115A : ヘテ。 サー イガワ イレルデヨ ッテ
そして。「さあ 井戸の内側の囲い[を] 入れるよ」 と

ユータ トキニャー アンター
言った 時には あなた

バタバタ ヘリガ カベ ミナ クエルソジャ。
バタバタ[と] 縁が 壁[が] みんな 崩れるんだ。

116B : フーン。
ふうん。

117A : ヤッパ オソロシーイナー。(B フーン)
やはり 恐ろしいよね。(B ふうん)

マ ソー ユー トキニャー ワクオ イレル ッチューカ。
まあ そう いう 時には 杵を 入れる というか。

山口 24-7

イロイロ ホーホーガ アルケドナ。
いろいろ 方法が あるけどな。

モー イヤジャーエ。 トシュー トツテナー。
もう いやだよ。 年を とってね。

118B : ハー。 マー ホンーニ マー イマジャー (A {笑})
はあ。 まあ ほんとうに まあ 今では (A {笑})

ホント アンタノ オカゲ ト オモー ヤッポ。
ほんとう[に] あなたの おかげだ と 思う やはり。

(A {笑}) アー ヨカッタ ヨカッタ。
(A {笑}) ああ よかった よかった。

フントニ アンタガ キョーリョクシテクレテカラ。
ほんとうに あなたが 協力してくれて。

119A : ウンヤー。 ワタシノソアー ナニ。
いやいや。 私の[した]のは なに。

タダ イッテカラ コーシャク ユーテ。
ただ 行って 講釈[=理屈] [を] 言って。

バンニャー ゴツツオーニ ナル。
晩には ごちそうに なる。

120B : ホイデ ソノ トメルソガ マタ コーダエエニナー。
それで その 埋めるのが また たいそうにね。

121A：ハー。

はあ。

122B：トメルソノ コッ、 コトガ コーダエエニ タマゲタ[40]。

埋める時の ××、 ことが たいそう 驚いた。

123A：ソレイナ。

そうよね。

124B：マー ホント スミガ イルナー。(A ウン)

まあ ほんと 炭が いるね。(A うん)

バラスガ イル。 ホント マー イロイロナー。 アノ。
小石が いる。 ほんとうに まあ いろいろね。 あの。

24↑25

125A：マダ アタシガ オモートーリニ ヤッチョラン。

まだ 私が 思うとおりに やっていない。

126B：ハー。 ソリャー アンタガ オモートルヨーニャー。

はあ。 それは あなたが 思っているようには。

127A：ゴ ゴマカーチョル[41]。 X 1 チャン ゴマカーチョル。

× ごまかしている。 X 1 ちゃん[は] ごまかしている。

128B：ハー ハー。 ソリャー アノー ザエエリョーガナー。

はあ はあ。 それは あのう 材料がね。

129A：イドノ。 アノー イガーノ アイダー ツナガラサンナ

井戸の。 あの 井戸の内側の囲いの 間を 繋がないと

(B ハー) キニ イランホ。 ワシワー。

(B はあ) 気に いらないんだ。 俺は。

130B : ハー。 ソーカナー。

はあ。 そうなの。

131A : ハー。

はあ。

132B : ハー ハー。 ツイダ ツナエエデナー。

はあ はあ。 継いだ 繋いでね。

(A ウンー。 イケンイ)

(A うん。 だめだよ)

タダー アノ カサネテ ヌッタダケ。

ただ あの 重ねて 塗っただけ。

133A : イケンソー。 アレジャー。

だめなんだ。 あれでは。

134B : ハー アレジャー ヤッポ イケンジャロ。

はあ あれでは やはり だめだろう。

135A : イケンソ。 アリヤー タタキツチ[42]デナ。

だめなんだ。 あれは 「たたき土」でね。

(B ハー ハー) アノ アノ

(B はあ はあ) あの あの

アカドロト イシバエト セメントー マゼテナー。(B フーン)
赤泥と 石灰と セメントを 混ぜてな。(B ふうん)

コー ダンゴノヨーナ モノ コサエテカラ
こう だんごのような もの[を] 作って

アエ アエエダ ヤ コー[43] ヤッチョエテナ。(B ハー)
×× 間[を] × こう やっておいでね。(B はあ)

ピシャート ヤツテカラ。
ピタッと やってから。

ウエ、 アノー ナカモ ソトガワモ ミナ ヌリコムソ。 ***
上、 あの 中も 外側も みな 塗りこむんだ。 ***

ヘーカラ X3ノー ソコノ X3ノ ケーシャノ アノー
それから X3の そこの X3の 鶏舎の あの

ソトガワノ アノ オーキナ タンクガ アルイ。(B ンー)
外側の あの 大きな タンクが あるよ。(B うん)

ソレモ ワシガ ツイタ[44]ホイナ。
それも 俺が 築いたんだよね。

136B : ホー。
ほう。

137A : ヒトツツモ モリヤー セン。
まったく 漏りは しない。

138B：ハー。 ソレカナー。

はあ。 そうなの。

139A：ドロシ ナカエ ヤルソワ ミヤスイ [45] ケドナ。

泥の 中へ やるのは やさしいけどね。

ソトガーエ ヤル ソトエ ツク ヤツァー ムツカシーイナ。

外側へ やる 外へ 築く やつは 難しいんだよ。

(B シー) イラク [46] カラナー。 ヒワレテ イケン。

(B うん) 乾くからね。 ひびが入って いけない。

140B：フシートナー。

ほんとうにね。

141A：ホヤケド モー ハー チカラノ イルヨーナ シゴトワ

だけど もう もう 力の いるような 仕事は

ワタシャー セーイン。(B シー)

私は しないよ。(B うん)

オーネガ ナマケモノジャカラ。 {笑}

もともとが なまけものだから。 {笑}

142B：ホシート。

ほんとう。

143A：モー ソレグライデ オクカ。 {笑}

もう それぐらいで やめるか。 {笑}

25↑

— 中 略 —

144 B : アノー ハコナイー[47]ナー。 オイサン。

あのう 箱苗はね。 おじさん。

↑26

145 A : ハー。

はあ。

146 B : アレワー アノー ツチカラ エラバンニャ イケンデショー。

あれは あのう 土から 選ばないと いけないでしょう。

147 A : ソノトーリ。

そのとおり。

148 B : ウン。 ウチワー マダー ハコナエニ ヤッタ コトガ
うん。 家は まだ 箱苗[で] やった ことが

ナイカラナー。

ないからね。

149 A : ウン。

うん。

150 B : ウン。 ソエデ (A ツチワーナー) ヨク ワカランケド。

うん。 それで (A 土はね) よく わからないけど。

151 A : ツチワー アカマサ[48]テードノ モノガ エー ッテ

土は 「アカマサ」程度の ものが いい と

ユワレチョル。
言われている。

152B：アカマサガ。
「アカマサ」が。

153A：ハー。
はあ。

154B：ハー。 アカマサ ッテ ユーチュト。
はあ。「アカマサ」と いうと。

155A：アカーエ マサドロノ。
赤い 「マサ泥」の。

ソ チョット アカミオ オビタ ドロ。
× ちょっと 赤味を 帯びた 泥。

156B：アノ ツチガ アノ コー ナニカネ。
あの 土が あの こう 何かね。

コノー ナンテ ユオーカ。 コト カタマツチョルカネ。
この なんと 言おうか。 ×× 固まっているかね。

157A：イヤ。 カタマツチャー オランイ。
いや。 固まっては いないよ。

158B：フーン。
ふうん。

159A : ハー。

はあ。

160B : マサ ッテ ユータラー シロエエヨナ アノー。 コー
「マサ」 って いったら 白いような あのう。 こう

カタマッタヨーナ クロイヨナ チョット ジャリグライナ。
固まったような 黒いような ちょっと 砂利ぐらいの。

161A : アンマリ、 アンマリ シロイト ジャリ ユートナー。
あまり、 あまり 白いと、 砂利 [と]いうとね。

(B フーン) テツブンガ ヤッポ スクナーカラナ。

(B ふうん) 鉄分が やはり 少ないからね。

(B フーン) アカマサッ、 アカマサ ツツソアー[49]

(B ふうん) 「アカマサ」、 「アカマサ」 というのは

アカー ツチガ マジッチョル

赤い 土が 混じっている、

ナカニャー テツブンガ フクマレチョルワケ。

中には 鉄分が 含まれているわけ。

162B : ハー ハー。

はあ はあ。

163A : ホヤカラ アッ アルテードナー。 シロエエ マサヨリャー
だから ×× ある程度ね。 白い マサよりは

アカマサテードノ ホーガ エー ユーテ。
「アカマサ」程度の ほうが いい [と]言って。

164 B : ハー。 ナルホド。
はあ。 なるほど。

165 A : マー イワレチョル コター イワレチョルガナ。
まあ 言われている ことは 言われているがね。

166 B : ハー ハー。
はあ はあ。

167 A : ホシテ ツチノ ショードク ッテ ユーヨナ コトー
そして 土の 消毒 と いうような ことを

アトデ ヤッポー スルソイナ。
後で やはり するんだよね。

168 B : ウーン。 ソーデショー[50]ナー。
うん。 そうでしょうね。

169 A : ハー。 ナカナカ ヤッカイーナー。 (B フーン フーン)
はあ。 なかなか やっかいだよね。 (B ふうん ふうん)

ハコナエアオ ツクルソアー。
箱苗を 作るのは。

170 B : ジャガ シカシ ソノ ヒトハコニーニ[51]
だけど しかし その 1 箱に

ツチガ アー ドノグラエエ ハエエテ
土が ああ どのくらい 入って

モミガ ドノグラエエ マカレルカ テ ユーン。
粃が どのくらい まかれるか と いうの。

171A : アー ソレカノ。 ソレガナー エーット ワスレタデヨ
ああ そのことかな。 それがな えっと 忘れたぞ

アリヤー。 ヒトハコニ ツチガ イッショーハチゴーグラエエ。
あれは。 1箱に 土が 1升8合ぐらい。

172B : アノー ツチガ イッショーハチゴー。(A ハー) ハー。
あの 土が 1升8合。(A はあ) はあ。

173A : ホシテナー モミガナ ニゴー マーチャー チョット
そしてな 粃がな 2合 まいては ちょっと

アツースギル[52]。 ガ ダイタエエ オシエル、 オシエ、
厚すぎる。 が、 だいたい 教える、 ×××

オシエルソアー ニゴーニシャクグライ ッテ ユー
教えるのは 2合2勺ぐらい と いう

キジュン[53]オ ダシ Chol ケドナー。
基準を 出しているけどね。

174B : ホー。
ほう。

175A : マーテミリヤー ニゴーニシャク イレリヤー アツイ チート。
まいてみれば 2合2勺 入れれば 厚い ちょっと。

カサナル モミガ。 ホヤカラ ヤッポー
重なる 粃が。 だから やはり

ドッチツカズ ッテ ユータラ ニゴーデショーイナー。
どっちか と いったら 2合でしょうね。

176B : フーン フン。 ジャカラ セ ソノー
ふうん ふん。 だから × その

ハコノ メンセキチュー モノワ ドノグラエエ。
箱の 面積という ものは どのくらい。

26↑27

177A : サー コマッタネー。 ハコノ メンセキ ワシャー
さあ 困ったね。 箱の 面積[を] 俺は

ハカッテミタ コトガ ナーガナー。
測ってみた ことが ないがね。

コノグライノ ハコデ。 (B フーン) ハー ハバガ ゴ
このくらいの 箱で。 (B ふん) はあ 幅が ×

178B : ジューゴセンチグラエエ アルカナ。
15センチぐらい あるかな。

179A : ジューゴセンチ チュート。
15センチ というと。

山口 27-2

180B : ジューゴセンチ チャー ヨホドノ。
15センチ といえは よほどの。

181A : ソーイ。 ジューゴセンチター。 ジューゴ
そうよ。 15センチとは。 15

182B : ナガサ ジューゴセンチ アロー。
長さ[は] 15センチ あるだろう。

183A : ナガサー ジューゴセンチドコロジャ ナーイ。
長さは 15センチどころでは ないよ。

184B : アー ソレター ユワンカー。
ああ そうとは 言わないかな[=それどころではないかな]。

185A : ソラ サンジッセンチカラ ウエ アルイ。
それは 30センチ 以上 あるよ。

186B : アー ソーカー。
ああ そうかな。

(A ナガサー コンナ、コノグライ アル)

(A 長さは こんな、このくらい ある)

ヨコガ (A ヨコワ) ヨコガ ジューゴセンチカナ。
横が (A 横は) 横が 15センチかな。

187A : ハー。 マー ソンナモンジャローカイナ。
はあ。 まあ そんなものだろうか。

山口 27-3

188B : フーン フナ ニジッセンチカラ。(A ンー) ハコガナー。
ふうん それなら 20センチほど。(A うん) 箱がね。

ソレー ホンナラ アンター ソノ ツチト。
それ それなら あなた その 土と。

ソノー ナカニ モミオ ニゴー マー ツクッテ。
その 中に 粃を 2合 まあ 作って。

189A : ニゴー。ソレガナ。アノー
2合。それがね。あのう

190B : ニゴーナラ マー オーヨソ イーワケカ。
2合なら まあ だいたい いいわけか。

191A : タトエバナー。コノ タワ トーブン ミズガ トレンデヨ ット
たとえばね。この 田は 当分 水が とれないぞ と

オモーヨーナ タエ ウヨー ト オモー ナエワナー。
思うような 田へ 植えよう と 思う 苗はね。

ニゴー マーチャー アツイナー。
2合 まいては 厚いな。

イチゴーハッシャクグライデ エー。(B ンー)
1合8勺くらいで いい。(B うん)

テ ユーコトワ アツー マクトナ。
と いうことは 厚く まくとね。

ナ、ハヨー ウエラレント ナエガ ヤケル[54]ソイ。

×、早く 植えられないと 苗が 黄色くなってしまうんだよ。

192B：ハ ナルホド。

あ なるほど。

193A：ソエデナー。 ニジューゴンチマエエ[55]ガ マー イチバン

それでな。 25日前が まあ いちばん

リ マー リソーテキ ッテ イーヨルケドモナ。 (B フーン)

× まあ 理想的 と 言っているけどもね。(B ふん)

コトシラノ パーイワ アンター ニジューゴンチドコロジャ ナー。
今年などの 場合は あなた 25日どころでは ない。

ミズガ トレンカラ サンジューゴンチモ
水が とれないから 35日も

シジューンチグライ[56] ナッタヨナー。

40日くらい[にも] なったよね。

194B：ホー。 ホリヤー ナガスギルガナ。

ほう。 それは 長すぎるよね。

195A：ナエエギーワ ナゴー[57] ナランソ。

苗は 長く ならないの。

ナゴー ナルヨリヤー ネモトガ ヤケルソ。

長く なるよりは 根元が 黄色くなるんだ。

196B : ハー。 ナルホド。

はあ。 なるほど。

197A : ヤケルカラ ター コンド ウエテモジャナー。

黄色くなるから 田へ 今度 植えてもだね。

カッチャク [58] ガ ワルイワケ。

根付くのが 悪いわけ。

198B : ハー。 ソリヤー ソレ。

はあ。 それは そう。

199A : ハー ホヤカラ ネッシンニ ヤル モノワー ナニーナー。

はあ だから 熱心に する 者は なんだね。

アノ サンジューゴンチモ シジューニチモ タッタヨーナ ナエエワ
あの 35日も 40日も 経ったような 苗は

ネモトガ ハー ローキューカ [59] シチオルカラナ。

根元が もう 老朽化しているからね。

200B : ホー。

ほう。

201A : ホエデー ニョーソノナ。 ニョーソー ヒトハコデナー。

それで 尿素のね。 尿素を 1箱でね。

202B : フン。

ふん。

203A：イチグラム ッテ ユーカラ ワズカナ モンジャケー。
1 グラム と いうから わずかな ものだから。

204B：ホー。
ほう。

205A：ソレオナー (B ンー) アノー カケテ。(B ンー)
それをね (B うん) あのう かけて。(B うん)

ヘテ タウエー ミッカマエエニナ。
そして 田植の 3日前にね。

ニョーソミズ[60] カケチョコクソ。
尿素水[を] かけておくんだ。

206B：ハー ハー ハー ハー。
はあ はあ はあ はあ。

207A：ヘテ ソリョ (B ナルホド) タエ ウエルトナー。
そして それを (B なるほど) 田へ 植えるとね。

(B フーン) ア マー アノ ハコノ ナカデ
(B ふうん) あ まあ あのう 箱の 中で

イロメガ デン ウチーナ[61]。
色目が 出ない[=苗が黄色くならない] うちにね。

タエ ウツス。
田へ 移す。

208B : ハー。

はあ。

209A : ホンデン[62] ウツスト マー

本田[へ] 移すと まあ

タデ ホンデンデ ヨーブンガ キーテクルカラ。

田で 本田で 養分が 効いてくるから。

210B : マ ナルホドナー。

まあ なるほどね。

211A : ズート マー カッチャクスルト。(B ハー)

ずっと まあ 根付くと。(B はあ)

ヘカラ ニジューゴンチマエエデ ウエル バーイワ

それから 25日前で 植える 場合は

ハー ソンナ コトワ ヒツヨー アリマセンヨ。

もう そんな ことは 必要 ありませんよ。

212B : フーン。(A ハー) ソレカネ。ソーユー モノカネー。

ふうん。(A はあ) そうかね。そういう ものかね。

27↑28

イロイロ ヤハリ ソコニ ヤッポ ハコナエエワ。

いろいろ やはり そこに やはり 箱苗は。

213A : ソノ テンワナー。コトシノヨーナ アノー

その 点はね。 今年のような あの

山口 28-2

ヒデリツズキノ トシャー (B フーン)

日照り続きの 年は (B ふん)

ムカシナガラノ (B フン) アノー ミズナエシロ [63]ナラ
昔ながらの (B ふん) あの 水苗代なら

キワ セカンイーナ。

気は せかないよね。

214B : フーン。

ふうん。

215A : ネモトガ ローキューカスル ッチュー コトモ ナーシ。

根元が 老朽化する という ことも ないし。

216B : フン。

ふん。

217A : タダ イロメガ スコシ ソノー マ ヒリョーガ キレテ。

ただ 色目が 少し その まあ 肥料が 切れて。

(B フン) キーロエエ ナルグライノ テードデナ。

(B ふん) 黄色に なるくらいの 程度でね。

218B : ソー ソー。 ナエシロ。

そう そう。 苗代。

(A ヒトツツモ サシツカエナーケド) ナエシローナー。

(A ひとつも さしつかえないけど) 苗代よね。

山口 28-3

219A : ハコナエエワ ソノ テンガ ミズガ ケーサンドーリニ トレント
箱苗は その 点が 水が 計算どおりに とれないと

(B フシー) オーキナ タイヘン ナヤミガ デテクルソ。

(B ふん) 大きな たいへん 悩みが 出てくるんだ。

220B : ハー。 ソコニ ヤッホ イロイロナ ケッテンガ アルナー。
はあ。 そこに やはり いろいろな 欠点が あるね。

221A : ハー。 ホヤカラ モー ナンチ[64]。

はあ。 だから もう 何日。

ソエヤカラー イマー ナンデスイナー。

それだから 今は 何ですよ。

アノー ウエ ウエタ[65]オ コサエテモジャー。 (B ンー)
あもう ×× 植田を 作ってもだね。 (B うん)

コーウンキデ グルグル グルグル マゼクルカラ。
耕運機で ぐるぐる ぐるぐる かき混ぜるから。

スグ マゼクッテ アクルヒー ウエル チュー コター
すぐ かき混ぜて 翌日に 植える という ことは

デキン[66]ソジャー。

できないんだ。

222B : ホー。

ほう。

223 A : タウエキガ ウマッテナー。 (B ハー アー ソー ソー)
田植機が 埋まってね。 (B はあ。 ああ そう そう)

ヤリニクイソ。
やりにくいんだ。

224 B : ハー。 ソリヤー ソージャロー。
はあ。 それは そうだろう。

225 A : ドベオ コー シャクリアゲテナー。
泥を こう 跳ね上げてね。

226 B : フーン ナルホド。
ふうん なるほど。

227 A : ドロドロニ ナツ Chor ソジャー ウエヌクイカラ。
ドロドロに なっているんじゃ 植えにくいから。

228 B : ハー。
はあ。

229 A : ヘーカラ ウエシロ [67] ワナー。 ニサンチマエエカラ ハー
だから 植代はね。 2、3 日前から もう

カーチョコカンニヤー イケンイ。
搔いておかないと いけないんだよ。

230 B : フン ソージャナー。
ふん そうだね。

231A : ソネー スルト ニサンチマエエカラ ター ウエルマデ
そのように すると 2、3日前から 田へ 植えるまで

ニサンチ ハ ヒンチガ カカルデショーガ。(B ンー)
2、3日 もう 日にちが かかるでしょうが。(B うん)

ソントキ スデニ ハー タウエノ アノー シロカキト
その時 すでに もう 田植えの あの 代掻きと

イッショニヤナー ノーヤク ヤランニャ イケンイ。
一緒にだね 農薬[を] やらなければ いけないんだよ。

232B : ホー。
ほう。

233A : ロンスタートカ エムオートカ イロイロ
ロンスターとか エムオーとか いろいろ

ジョソー ナニー ノーヤク アルイ。
除草[の] 何だ 農薬[が] あるんだ。

クスリ、 カラスソガー。(B ンー)
薬、 [雑草を]枯らすのが。(B うん)

ソノ クスリオ アノー ミズガ マダ ニゴレ Chol トキニ
その 薬を あの 水が まだ 濁っている 時に

ドンドン ハー ヤッチョカンニャー イケン。
どンドン もう やっておかないと いけない。

234 B : ホー。

ほう。

235 A : ソシテ ミッカブリー[68] タッテカラ

そして 3 日ほど 経ってから

ゴロニ ハジメテ ウエルデショー。

[その]頃に 初めて 植えるでしょう。

236 B : フン フンー。

ふん ふん。

237 A : ウエテ シモーテ モノノ イッシューカングライ タッタラ

植えて しまつて ものの 1 週間ぐらい 経ったら

マタ エムオー チューヨナ クスリ。(B マー)

また エムオー というような 薬。(B まあ)

ジョソーザイ ヤランニャ イケン。

除草剤[を] やらないと いけない。

238 B : ホー。 ハー。 ソリャー ギョソーカナ。

ほう。 はあ。 それは 除草かな。

239 A : ジョソー。(B ウーン)

除草。(B うん)

ジョソーザイ ヤッチョカント。(B ウン)

除草剤[を] やっておかないと。(B うん)

モノスゴイ クサガ ハエデナー。(B ハーン)
ものすごく 草が 生えてね。(B ふうん)

ヤッパ イケンイー。
やはり だめなんだよ。

ソリヤー タウエノ ナエバコ[69]デ ヤル バヤイモ
それは 田植えの 苗箱で やる 場合も

ホエカラ フツノ ナエデ ヤル バヤイモ オナシ コトイ。
それから 普通の 苗で やる 場合も 同じ ことだよ。

ジョソーザイ ヤル バーイワ。
除草剤[を] やる 場合は。

240B : フーン。
ふうん。

241A : ハー。 ヘパー テデ ウエル ブンワナ。
はあ。それで 手で 植える 分はね。

242B : フン。
ふん。

243A : マエノ ヒ カータ ホーガ イー エエーワーナ。
前の 日[に] 掻いた ほうが いい いいよね。

ヤオーテ[70]。
柔らかくて。

244B：ハー。 ソリャー エーイナ。 ソリャー エーイナ。

はあ。 それは いいよね。 それは いいよね。

28↑29

245A：テデ、 テガ イトー ノーデ エーイワ。

手で、 手が 痛く なくて いいよ。

246B：ウン。 ソリャー ソノ ホーガ エー。

うん。 それは その ほうが いい。

247A：トコロガ キカエエデ ウエルワ サー

ところが 機械で 植える[時]は ××

ソレガ デキンソイー。

それが できないんだよ。

アンマリ ヤオスギチャー イケンイ。

あまり 柔らか過ぎては いけないんだよ。

248B：ソー。

そう。

249A：アルテード ツチガー コー アンター センニャナー。

ある程度 土が こう 安定 しないとね。

(B ンー ソーカナ)

(B うん そうかな)

センニャー ソノ アンマリ ヤオスギチャー イケンイ。

××××× その あまり 柔らか過ぎては いけないんだよ。

250B : ナルホドナー。 ヤッポ ハコナエモ イロイロ コー
なるほどね。 やはり 箱苗も いろいろ こう

オカダ[71]ノ オー タニ タノ バヤイワ
丘田の ×× 田に 田の 場合は

ミズガ トレン トカ ユー バヤイワ
水が 取れない とか いう 場合は

ヤハリ チョットー ナンジャナー。(A モンダエエ)
やはり ちょっと なんだな。(A 問題)

コンナンジャネー。(A モンダエ) モンダエエジャネー。
困難だね。(A 問題) 問題だね。

251A : ホヤカラ ソー ユー オカダノヨーナ トコロー モッチョル
だから そう いう 丘田のような ところを 持っている、

ミズガ イツ トレルヤラ ワカラン テ ユー トコローノ
水が いつ 取れるやら わからない と いう ところの

タガ アル モノワデスナー。 ヤッパ ムカシナガラノ
田が ある 者はですね。 やはり 昔ながらの

(B ヤッポ ナエシロガ) ミズナエシロガ エーナー。
(B やはり 苗代が) 水苗代が いいな。

252B : テキトージャネー。
適当だね。

山口 29-3

253A : ウン。 キガ アセラン。 イツ ミズガ トレテモ イーカラ。
うん。 気が 焦らない。 いつ 水が 取れても いいから。

ホンナラ。

それなら。

254B : フーン。 ソーカナ。

ふうん。 そうかな。

255A : トコロガ アー ハコナエオ ヤル バヤイワ ハー
ところが あの 箱苗を やる 場合は もう

ギャクサンデナー。(B ーン) チャット ミズガ
逆算でね。(B うん) ちゃんと 水が

ニジューゴンチマエデ モー ゼツタイ ウヨー ト オモヤー
25日前で もう 絶対に 植えよう と 思えば

ハー ニジューゴンチマエエニヤー ナニーナ。
もう 25日前には 何だな。

チャーット ソノ ミズオ イツデモ トレルヨーニ シチョイテ。
ちゃんと その 水を いつでも とれるように しておいて。

(B ウーン) ヘテ イツデモ ウエラレルヨナ タイセーニ
(B うん) そして いつでも 植えられるような 態勢に

シチョカンニヤー (B ソー ソー) イケンイネ。
しておかないと (B そう そう) いけないんだよね。

256B：ソーラ オカダモチャー ナカナカ ヤレンワナ。
それは 丘田持ちは なかなか やれないよね。

ソレガ アンタ イツ アメガ フランニャー
それが あなた いつ 雨が 降らないと

ミズガ トレンヨーナ アンター オカダノ ター
水が 取れないような あなた 丘田の 田は

チョット ヤッポ ハコナエジャー ムリジャナー。
ちょっと やはり 箱苗では 無理だね。

257A：ムリ。
無理。

258B：フーン。
ふうん。

259A：トコロガ ハ ハコナエノ トクテンワナ。(B ンー)
ところが × 箱苗の 特典はね。(B うん)

ケッキョク ソノー ナンデショー オー マー
結局 その 何でしょう ×× まあ

ハタケーナエ[72]ト オナシヨーナ モンジャカラ。
畑苗と 同じような ものだから。

260B：フン。
ふん。

261A : カッチャクガ ハヤーホエナー。
根付くのが 早いんだよね。

262B : ハー。 ソージャロー。
はあ。 そうでしょう。

263A : ンー。 ホヤカラ サイショニ ウエツケタ トキニ、 トキニャーナ。
うん。 だから 最初に 植え付けた 時に、 時にはね。

アラッ アラ タウエワ オワッタホヤローカエ
「あらっ あれは 田植えは 終わったんだろうか」

チューグライニナ。
というぐらいにね。

264B : ソー ソー。 ソージャロー
そう そう。 そうだろう

265A : チョコリ チョリ ヤッ、 ナッチョルケー。
ちょこ ちょこ ××、 なっているから。

266B : サビシージャローネー。(A ウーン)
寂しいだろうね。(A うん)

ウエタガ サビシーンジャロー。
植えたけど 寂しいんだろう。

267A : ウエツケタラ ドンドンナー。(B ハー)
植え付けたら どんどんね。(B はあ)

アノー カッチャクシテ ブンケツ[73]スルカラ。
あの 根付いて 枝分かれするから。

268B : ウン。 ハー。 ソージャロー。 ソージャロー。
うん。 はあ。 そうだろう。 そうだろう。

269A : タチマチ アノー オイツク[74]。
たちまち あの 追いつく。

270B : ウン ナルホド。 ウン。 ナルホド ***
うん なるほど。 うん。 なるほど ***

271A : マー ソーレグライノ マー ハコナエオ ヤッテ
まあ それくらいの まあ 箱苗を やって

ソレグライノ リテン[75]デスナ。(B ーン)
それくらいの 利点ですね。(B うん)

ソエカラ マタ タウエキデ ヤリヤー
それから また 田植機で やれば

ムカシノ マター ハ コシノ イターノニ
昔の また はあ 腰の 痛いのに

チョッキ チョッキ (B ウン) ウエーデモナー。
チョコ チョコ (B うん) 植えなくてもね。

272B : ソー ソー。
そう そう。

273A : ポッポ ポッポ ツイテキャー[76] {笑} (B エーホヤカラ)
ポッポ ポッポ ついていけば {笑} (B いいんだから)

エーカラ。ラクナエナ。

いいから。楽だよな。

274B : ソー アノー ウチドモニワ アンター ナニ ナーシロジャカラナ。
そう あのう 家などは あなた 何 苗代だからね。

275A : ハー。ナエトリ[77]ヤログナ。
はあ。苗取りだろうよ。

276B : ワタシワ キレーニ イッシューカンカラ アンター ナエオ
私は きれいに 1週間もの間 あなた 苗を

トッタエエナ。

取ったのよ。

277A : ソレーナ。
そうだね。

278B : ヒトリガ ツイチョランニャー イケン。 (A ソエカラ ワタ)
ひとりが ついていないと いけない。 (A それから ××)

ツイチョッテモ マニ アワンノ。

ついていても 間に 合わないの。

29↑30

279A : ワタシドマー ホエカラ ホカナ ホカニワ[78]デ
私などは だから ××× 外庭で

アノー ナエオ ツクルカラナ。

あのう 苗を 作るからね。

280B：ハー。 ソレ ソレ。

はあ。 そう そう。

281A：ナエトリガ ヒトツツモ イルマーガナ。

苗取りが 全然 いらないだろうね。

282B：ウン。 ナエトリガ イラン。

うん。 苗取りが いらない。

283A：ホエカラ オナゴ チュー モナー アンター。

それから 女の人 という ものは あなた。

コネーナ マー マガリカド[79] カドノ トコローナ。

こんな まあ 曲がり角 角の ところをね。

284B：ハー。 ソレ ソレ。

はあ。 そう そう。

285A：キカエエガ ホーコーヘンカン ヤル トコロノ (B ン)

機械が 方向変換 する ところの (B うん)

カドダケ チャッチャット ウエチャリヤー アンタ。

角だけ チャッチャット 植えてやれば あなた。

286B：ウエテアルキャー[80]ナー。 ウン ウン

植えて回ればね。 うん うん

287A : アトワ チョイチョイ チョイチョイ。

後は チョイチョイ チョイチョイ[と]。

オトコアー イツマデ タッタッテ コリヤー イケン[81]イー。

男は いつまで 経ったって これは いけないよ。

288B : {笑} アー ワタシ ソネー ユータソ。

{笑} ああ 私[は] そのように 言ったの。

ウチノ トーサンニ ナー。 アー アンタ ウチニヤー モー
家の 父さんに ね。 「ああ あなた うちでは もう

ライネンカラ ハコナエオ オシーナ ッテ。

来年から 箱苗を しなさいな」 と。

モー ワタシモ ナエエオ トリキラント。

もう 私も 苗を 取ることができないから。

コトシ イッシューカン トッタラ コタエテナ。

今年 1週間 取ったら こたえてね。

289A : ソレー ソレー。

そう そう。

290B : ハー。 モー ビッシリ トッタ。

はあ。 もう みっちり 取った。

291A : ソヤカラ アノー イチノサカ[82]ノー X 4 サーガ

だから あのう 一の坂の X 4 さんが

コトシーナ アノ コンバインオ コーター。
今年ね あの コンバインを 買った。

292B : アー。
ああ。

293A : パカ [83] ジャアル ッテ ユー モンガ オルケドナー。
馬鹿じゃないか と いう 者が いるけどね。

294B : フーン。
ふうん。

295A : コンバイン コーテ ナシテ バカカ ッテ ユーソ。
コンバイン[を] 買って どうして 馬鹿か と いうと。

アリヤーノー トシヨリガ (B ーン) ハー アノー
あれはね 年寄りが (B うん) もう あの

テツダイ [84] ガ デキンカラ。
手伝いが できないから。

296B : フン。
ふん。

297A : ミョートデ イッチョーハッタンモ ナンボモ
夫婦で 1町8反も いくらか

ヤランニャー イケンカラナー。
やらないと いけないからな。

298B : フーン。

ふうん。

299A : トートー キカエエニ タヨランニャー ショーガナーヨイナッタ
とうとう 機械に 頼らないと しかたがなくなった

ワケイヤ チューン。
わけだ というんだ。

300B : ソー ソー ソー ソー。

そう そう そう そう。

301A : コンバインナラ モー ヒトツモ ナンジャナー。
コンバインなら もう まったく 何だな。

イネオ ブラサゲル[85] コトモ ナケンニャー (B アー アー)
稲を ぶらさげる ことも なければ (B ああ ああ)

タテル[86] コトモ イリャーセン。(B アー)
立てる ことも 必要ない。(B ああ)

ナマノ マー ドンドン ドンドン ハー
生の まま ドンドン ドンドン もう

カルカル コグカラ[87]。
刈りながら 脱穀するから。

302B : ソー ソー ソー。

そう そう そう。

303A : ソレデ ソレオ ソレデ エランダソイヤ テ ワシガ ユータガノ。
それで「それを それで 選んだんだよ」と俺が 言ったんだ。

テノ アル モナー マー エーケド
[手伝い]手の ある 者は まあ いいけど

テノ ナー モナー ソネ センニャー
[手伝い]手の ない 者は そのように しないと

トシヨリオ アテ シタッテナー。(B ソレ ソレ)
年寄りを あて[に] したってね。(B そう そう)

イケン テ ユーソ。
いけない って いうんだ。

304B : ソレ。 ソノ チョーシーナ。 ウチニモナー。
そう。 その 調子よね。 うちにもね。

モー ライネンカラ アノー ナエトリ
もう 来年から あの 苗取り[を]

アテー ショー タッテ (A ウン)
あてに しよう といっても (A うん)

ワタシ シキランカラナ。
私[は] できないからね。

305A : ダメ ダメ。
だめ だめ。

306B : アノー。 {笑}
あのを。 {笑}

307A : オバーチャンドモー アター スルヨージャナ。
おばあちゃんたちを あてに するようではね。

308B : モー ナニーナー。
もう 何だな。

309A : ワカーシ[88]ガ カンガエンニャー。
若い人たちが 考えないと。

310B : ハー。 アノ ハコナエオ ツクル コトー ケンキュー センニャー
はあ。 あのを「箱苗を 作る ことを 研究 しないと

(A ウン) イケマーガナ ッテ ユータホ。

(A うん) 駄目だろうね」 って 言ったの。

(A コトシ サガ[89]ニ ヤッタエエナ)

(A 今年 佐賀で やったよね)

アー ソージャーナ。 マ ボツボツ カンガエマショー ッテ
「ああ そうだね。 まあ ぼちぼち 考えましょう」 と

ユータ。 {笑}

言った。 {笑}

311A : {笑} コトシ サガニ ヤッタエエナ。
{笑} 今年 佐賀で やったよな。

(B アー ソレカーナ) ハジメテ。

(B ああ そうなの) 初めて。

312B : フーン。

ふうん。

313A : ホヤカラ ワシモ アルテードナ。(B フーン)

だから 俺も ある程度ね。(B ふうん)

コーシヤク ユーテカラ オシエチャッタ。{笑}

講釈 [= 理屈] [を] 言って 教えてやった。{笑}

314B : フーン。ホントナ。 モー コリヤー ジダエエジャカラナ。

ふうん。ほんとうにね。もう これは 時代だからね。

(A ウーン ナレテミリヤーナー)

(A うん 慣れてみればね)

ワーズカ アンター ホントー ウチドモニヤー マ

わずか あなた ほんとうに うちなんかには まあ

イッチョーグライ タ、タガ アルグライジャガ。(A ハー)

1町ぐらい ×、田が あるくらいだけど。(A はあ)

アンター ホントー

あなた ほんとうに

キカエエニ クワレルケドナ。(A ン)

機械に 食われる [= とって代わられる] けどね。(A うん)

コラー モー ジダエエジャカラ シカタガナイ チューノ。
これは もう 時代だから しかたがない というの。

315A：オ、 オヤリー。 ソリャー ラクナ。
×、 おやりなさい。 それは 楽だ。

316B：ハー。
はあ。

317A：ハー。 タウエ タテ ムカシャー アンター。
はあ。 田植え といったって 昔は あなた。

ダエエオンノ ハンワ ナニーナ。
大音の 班は 何だね。

アノー キョードーデカラ ヤリヨッタヨナ。
あのう 共同で やっていたよね。

318B：ソー ソー。
そう そう。

30↑31

319A：トコロガ ナンジャーナー。
ところが なんだな。

アノ コシュウ カ コシュ カガメテヤナー。(B シー ン)
あのう 腰を × 腰を 屈めてだな。(B うん うん)

トーカモ ナンボモ (B ソレ) ウエトミーナー。
10日も いくらも (B そう) 植えてごらんな。

山口 31-2

(B ソレニ) ソネーナ エラー コター セーデモ エーフ。

(B それに) そんな つらい ことは しなくても いいよ。

エーカラ。

いいから。

320B : タウエワ エライ。 ナエトリヤー モー (A ソレ ソレ)
田植えは つらい。 苗取りは もう (A そう そう)

ホンート ニサンニン (A ウン) ヨッタリモ
ほんとうに 2、3人 (A うん) 4人も

ウエリヤー アンタ。 ヒトリジャー トリキランゾナ。
植えれば あなた。 ひとりでは 取ることができないよ。

ナエキ、 ナエオ。

苗木、 苗を。

321A : ソ ソレ ソレ。

× そう そう。

322B : ソエジャカラ モー コリヤー モ ヨイヨー
それだから もう これは もう いいよ

(A オトカーナー) ジダエエノ。

(A 男はな) 時代の。

323A : ワタシャー ホヤカラ

私は だから

オレガ シンダラ オマエタチャー[90] ドネー ナルソカー テ。
「俺が 死んだら おまえたちは どう なるのか」 と。

カーイ タネノ ショードクノ ホーホーモ シッチャー オラン。
まったく 種の 消毒の 方法も 知っては いない。

ケーサンデ ワリダサンニャー[91] マー イケンソヤガ
計算で 割り出さないと まあ いけないんだが

ナニカー。 オマエタチャ エー ダエエショー[92] オボエーヨー。
「何かい。 おまえたちは ええ 少しは 覚えろよ。

イツ シヌヤラ シランド。 オリヤー ッテ
いつ 死ぬやら 知らんぞ。 俺は」 と

ワシャー ユーチャール。 {笑} ハー。
俺は 言っている。 {笑} はあ。

324B：ソリヤー アンター チャット ニッキデモ アンター
それは あなた ちゃんと 日記でも あなた

ノコシテ オオキーナ。
残して おきなさいな。

325A：イヤ。 オボエチヨラン。 ワタシ、 ワタシー
いや。 覚えていない。 ×××、 私に

タヨッチョルカラナー。 (B ウーン)
頼っているからね。 (B うん)

マー マルッキリ イケン。

まあ まるっきり 駄目だ。

ホヤカラ アノー ショードクグスリヤー

だから あの 消毒薬は

ベンレート トカナ (B ン) タチガレン トカ (B ンー)

ベンレート とかね (B うん) タチガレン とか (B うん)

イロイロ アルイナー。

いろいろ あるよね。

ヘカラ ベンレート チューヨナ モンデ アノー ナニー。

それから ベンレート というような もので あの なんだ。

ニジューヨジカンホド タネオ カシチョイテ (B フーン)

24時間ほど 種を 浸けておいて (B ふん)

ソノ マエエニ アノ エンスイセン[93]オ ヤッテ。

その 前に あの 塩水洗を やって。

326 B : ハー ハー ハー。

はあ はあ はあ。

327 A : ヨート ソノ シーラ[94] ト マー コ

よく その 「シイラ」 [=実の入っていない粃] と、 まあ ×

シーラ ッテ ユーチャー イケマーカエエ。(B ンー)

「シイラ」 と 言っては いけないかな。(B うん)

ヒョージュンゴー ツカオーカエエ。(B ン)
標準語を 使おうかな。(B うん)

アノー シ、シーラエナー。
あのう ×、「シイラ」よね。

328B : フーン フン。
うん うん。

329A : アレオ ジューブシ ヌイチョカントナー。
あれを 十分に 抜いておかないとね。

ハコ[95]エ マクソジャカラ。
箱へ まくのだから。

330B : ハー。ソリヤー。ソリヤ ソージャロー。
はあ。それは。それは そうだろう。

331A : シーラガ アッタ トキヤ トッ トッ トキニヤー
「シイラ」が あった 時は ×× ×× 時には

ワタシノ アタマミタイニ[96] アル
私の 頭のように ××

ナー チューヨーナ コトジャーナ。
ない というような ことだよね。

キカエエワ ショージキジャカラ
機械は 正直だから

チョッチョッ チョッチョッ ウエルカラナ。
チョンチョン チョンチョン 植えるからね。

332B : ウン。 ソレ ソレ。
うん。 そう そう。

333A : ケツカブ〔97〕ガ デキテクルジャー。
欠株が できてくるんだ。

334B : ハー。 ソレ ソレ。
はあ。 そう そう。

335A : ホヤカラ モー ヘーキンニ ヒトツツモ
だから もう 平均に ひとつも

ハエエッチョラン トコロ ナシニ
〔粃に実が〕入っていない ところ なしに

サーット コー (B ア ソー ソー ソー)
サッと こう (B ああ そう そう そう)

ナランニャー イケンカラ。
ならないと いけないから。

ホヤカラ ナマケチャー ゼッタイ イケン。 ホヤカラ。
だから なまけては 絶対に いけない。 だから。

336B : コメズクリノ イッポジャナー。(A ハー) ヤハリ。
米作りの 一歩だね。(A はあ) やはり。

アノー ハコナエズクリワ。

あの 箱苗作りは。

337A : ヤッポー サイショニ エンスイセンオ ヤッテ。

やはり 最初に 塩水洗を やって。

ソノ エンスイセンオ ヤッテナー。 ナカニャー

その 塩水洗を やってな。 中には

ウチニャー スイドーデ ドドドーツ アローチョイタガ

「うちでは 水道で ザザザッと 洗っておいたが

アレデ エカッタローカイ。

あれで よかったのだろうか」[と言う人がいるから]

イケルモンカエ フナコトデ。 (B {笑})

「いいもんか そんなことで」[と答えた] (B {笑})

カワシ ナカーイデモ ツケテナー。 (B ーン)

川の 中にでも 浸けてね。 (B うん)

ジューブシニナー。 アノー シオ チュー モノー

十分にね。 あの 塩 という ものを

ヌカンニャー イケン。 (B ウーン)

抜かないと いけない。 (B うん)

エンガエオ オコスト イケンカラ。 (B ソー ソー ソー)

塩害を おこすと いけないから。 (B そう そう そう)

ヘテ コンド アノ ショードクスルソエナ。
そして 今度 あの 消毒するんだよね。

338B : シー ホントーニ ナンジャネ。
うん ほんとうに なんだね。

339A : ソレガ チョット メンドークサイケドナ。
それが ちょっと めんどうくさいけどね。

340B : ケド ナンボー メンドーデモ
だけど いくら めんどうでも

コリヤー モー (A {笑}) ジダエエジャカラナ。
これは もう (A {笑}) 時代だからね。

コリヤー ハー ヤモー エンイナ。
これは もう やむを えないよね。

ハー ヤランニヤー ウチドマー (A ハコー ツミカサネテナー)
もう やらないと うちなんかは (A 箱を 積み重ねてね)

ヤランニヤ シカタナイ。
やらないと しかたない。

31↑32

341A : モー ハコー ツミカサネテ ネガ デハナエタラ
もう 箱を 積み重ねて 根が 出始めたら

ソトエ ミナ ナラベハナエルイナ。
外へ みんな 並べ始めるんだよ。

342B : シー。

うん。

343A : アー ナッタラ ハー ラクナ モノイ。

ああ なったら もう 楽な ものだよ。

344B : フーン フン ソー。

ふうん ふん そう。

345A : ヒニ イッペングラエエ ミズー カケサエ スリヤー エー。

日に 一度くらい 水を かけさえ すれば いい。

346B : ハー ソレーナ。 ナラベテ。(A アー アェー ナッタラ)

はあ そうなのよ。 並べて。(A ああ あんなに なったら)

ハー ナラベル ダンニヤー

もう 並べる 時には

モー マエエニチ ミズオ ヤリヤー エーグライジャロ。

もう 毎日 水を やれば いいくらいだろう。

347A : マー。 ソレー。 ネコカ イヌカガナー。

まあ。 そう。 猫か 犬かがな。

ドン、 ドンドン ナカエエ ハエエランヨーニ チューイスリヤー。

××、 どんどん 中へ 入らないように 注意すれば。

(B フーン) ハー ネ。

(B ふうん) もう ね。

348A : イヌガ ハエテクレルト タツテ コマルイ。
犬が 入ってくると どうしても 困るよ。

349B : ハーア。 ヤッパリ (A {笑}) ホント ヤッポー
はあ。 やはり (A {笑}) ほんとうに やはり

サスガニ ジダエエジャー。 (A ジダエエ)
さすがに 時代だね。 (A 時代)

フンート モー コリヤー ジダエエニ (A ホヤカラ) シタゴータ
ほんとう もう これは 時代に (A だから) 従って

イカンニヤー ショーガナーワー。
いかないと しかたがないよ。

350A : オナゴアー イヨイヨー ラクナエエー。
女は ほんとうに 楽だよ。

351B : ハー オナゴワ ラクナ。
はあ 女は 楽だ。

352A : オトカー シロカキ[98]カラ ナンカラ ミナ ヤッテヤナ。
男は 代掻きから 何から みんな やってだね。

353B : {笑} モー ヨイヨ タウエマデ スラーナ。
{笑} もう ほんとうに 田植えまで するよね。

354A : ホテ オトコアー、 オトコワ タウエマデ シテ
そして 男は、 男は 田植えまで して

タマルモンカエエ。

たまるものか[=たまらない]。

355B：ハー。{笑} オナゴワ ヨーイジャーナー。

はあ。{笑} 女は 楽だね。

356A：イッ イッコー ウカブ ウカブ セガ ナー。{笑}

×× いっこうに 浮かぶ 浮かぶ 瀬が ない。{笑}

357B：ハー。ワタシャー ライネンワ ソー ユー フーニ ナリヤー

はあ。私は 来年は そう いう ふうに なれば

エーガ ト オモーテナー。

いいが と 思ってね。

358A：ホエカラ ナエエトリガ イルマーガナ。

それから 苗取りが いらないだろう。

359B：ハー。ナエエトリガ ダエエーイチ イラン。 (A ハー)

はあ。苗取りが 第一 いらない。 (A はあ)

{笑} (A {笑})

{笑} (A {笑})

フーントニ エー コト ト オモーイネ。

ほんとうに いい こと[だ] と 思うよね。

360A：ケー マー コトシノ イナサク ッテ ユー コトワ。

だから まあ 今年の 稲作 と いう ことは。

ソヤカラ シジューニチナエミタイナソー[99] ウエタケドナ。
だから 40日苗のようなのを 植えたけどね。

アトノ フガ エー コトニャー テンコーガ ガンガン
後の 運が いい ことには 天候が ガンガン

テリマシタローガナ。
照ったでしょうね。

361B : ハー ハー ハー。
はあ はあ はあ。

362A : ソレデ ドンドン ヤッポー ナンジャーナー。
それで どんどん やはり なんだな。

(B ハー ハー ハー) オイツイタ。
(B はあ はあ はあ) 追いついた。

363B : ソー ソー。(A ハー) ヤッポ ハツイクガ ハヤイカラナー。
そう そう。(A はあ) やはり 発育が 早いからね。

364A : ソエカラ ナカエエ ハエエテ イネオ ナデテ ミテモナー。
それから 中へ 入って 稲を なでて みてもね。

サバー[100]テモ オリャー センヤロ トモーテ
ウンカでも いは しないだろう と思って

ナデテ コワーナー。
撫でて[みると] 固いな。

365 B : フーン。

ふうん。

366 A : トテモ コオー デキチョル。

とても 固く できている。

367 B : ハー。

はあ。

368 A : アネーニ コオー デキンニャー イケンイ。

あんなに 固く できないと いけないよ。

369 B : ハー。 ソレ ソレ。 (A ハー)

はあ。 そう そう。 (A はあ)

コオーニ デキル ッテ ユー コトア

固く できる と いう ことは

ヤッポ ブンケツ シチョルジャロー ナンカラ。

やはり 分蘖 しているだろう [と]ということだから。

370 A : イヤ ブンケツモジャケド ソノ テンコーガ エカッタカラ。

いや 分蘖もだが その 天候が よかったから。

(B ハー。 テンコーガ エーカラ)

(B はあ。 天候が いいから)

イネガ ジョーブナ チューコト。

稲が 丈夫だ ということ。

371B : ジョーブナ。(A ハー)

丈夫だ。(A はあ)

372A : ホヤカラ イママデ シタソァー カモワン。

だから 今まで したのは かまわない。

イマカラ (B ーン) コンドー

今から (B うん) 今度

ヨースイケーセーキ[101] ナッテナー。

用水形成期[に] なってね。

ミズガ アリサエスリャー モー ホーサク チュー。

水が ありさえすれば もう 豊作 という。

373B : ウン。ソー ソー ソー。(A ハー)

うん。そう そう そう。(A はあ)

コノタビノ アノー テンキデ ダエエブン ヤッポー

今度の あのう 天候で だいぶん やはり

ツチガ ヒワレタヨ。 ウチラーデモ。

土が ひび割れたよ。うちなどでも。

374A : アー ワレタ ワレタ。

はあ。割れた 割れた。

375B : アノ カミノ ホーガ。

あの 上の ほうが。

376A : ソレ ソレ ソレ ソレ。
そう そう そう そう。

377B : ハー。 ナエエシロノ ホーカラナ。
はあ。 苗代の ほうからね。

378A : ハー ハー。
はあ はあ。

379B : マーダ クロビ[102]ーナ。
まだ 黒干よ。

マダ シロビ[103]デ ナエエカラ ダエエショー エーケドナ。
まだ 白干で ないから 少しは いいけどね。

クロビジャケードモ コー オーキニ ヒワレタノ。
黒干だけれども こう 大きく ひび割れたの。

380A : シー オギデンキー デヨル アノー X5 ドモアー
うん オギ電器に 出ている あのう X5などは

アンター。 キノー チョット キタガナ。
あなた。 きのう ちよっと 来たがな。

モー ヨレチオル[104] チューガ。
もう しおれている というが。

381B : ホー。
ほう。

382A : ヨレタラ イケンノ テ ユータ。
しおれたら だめなんだ と 言った。

383B : ソリヤー イケン。
それは いけない。

384A : ハー。 イケンイ。
はあ。 いけないよ。

385B : ソリヤー イケマーイネ。 ホント。
それは いけないだろうね。 ほんとうに。

386A : ハー。
はあ。

387B : ハー。 ソレカナ。 ネー。
はあ。 そうかな。 ねえ。

32↑

—— 中 略 ——

388B : アノー ワタクシラガネー。 アノー ガッコーオ オエテ。
あの 私たちがね。 あの 学校を 終えて。

↑33

マー ノーギョー ト ユー モノニ マー。
まあ 農業 と いう ものに まあ。

ソノー マネカタオ スルヨーニ ナッテカラ コロノ
その まねごとを するように なってから[の] 頃の

山口 33-2

ノーギョー ト ユー モノワ。

農業 と いう ものは。

マー ウシデ スイテ アー コー クワデ アノー コー ナラス。

まあ 牛で 鋤いて ああ こう 鋤で あの こう ならす。

マー ウシデ スイテ

まあ 牛で 鋤いて

ソレオ コンド クレ ッテ ユー モノ、

それを 今度 土の塊 と いう もの、

オーキナ アノー コー スキデ スク チュート

大きな あの こう 鋤で 鋤く というと

オーキナ クレオ オコスンカラ

大きな 土の塊を 起こすのから[始まって]

ソノ クレオ コンド タタカンニャ イケンコトデスイネ。

その 土の塊を 今度 たたかなければ いけないのですよね。

ミズオ トル マエエニ。

水を 取る 前に。

ソー ユー トキニ アーター。

そう いう 時に あなた。

アノー トーグワ[105] テ ユー モノデ コンコロ コンコロ

あの 唐ぐわ と いう もので コロコロ コロコロ

山口 33-3

アンター マー ホントニ エラカッタヨー。
あなた まあ ほんとうに つらかったよ。

ガッコー アゲクデネー。
学校に [行った]あげくにね。

389C : フン。
ふん。

390B : ソレオー オシエラレルナー マー ハハガネー。
それを 教えられるのは まあ 母がね。

コー センニャー イケン ソー センニャー イケン
こう しなければ いけない そう しなければ いけない

ユーテ オシエテクレタンデスイネー。
[と]言って 教えてくれたんですよ。

デ エラカッタノナンド
で つらかったのなんのって

マダ ホンニ ジューナンサイデシタローカイ。
まだ ほんの 10何歳だったでしょうかね。

391C : アノー ソノー エライ チューソガネー。(B アー)
あの その つらい というのがね。(B ああ)

ワタシドモト マー オバサントワー マー (B ハー)
私たちと まあ おばさんとは まあ (B はあ)

トシガ チョット ジューネングライ チガウケド (B ハー)
歳が ちょっと 10年ぐらい 違うけど (B はあ)

ヤッパリー ワタシドモノガー ジュー マー イチニーゴロカラナー。
やはり 私たち×が 10 まあ 1、2歳頃からね。

(B ウン) アノー ヨーヤッポ ソンナヨーニ
(B うん) あの ようやく そのように

ウシデ スイ、 イッペン スイタ ヤツオ
牛で ××、 一度 鋤いた ものを

オーキナ クレニ ナッタ ヤツオ (B ソー ソー)
大きな 土の塊に なった ものを (B そう そう)

ソノー クマデー。
その 熊手。

392B : ハー ハー。
はあ はあ。

393C : サンボーコー サンボンコートモ ユーデスイネー。
三本鍬 三本鍬とも 言いますよね。

394B : ソーヨー。 ソーソー。
そうよ。 そうそう。

395C : アレオー モッテカラ ソノー コドモノ トキー アノー。
あれを 持って その 子供の 時に あの。

オフクロガー アー カタゲリオ タタクカラ
おふくろが ああ 片方を たたくから

オー オマエ カタゲリオ タタケ チューカラ
なあ おまえ 片方を たたけ と言うから

ソノー タタクトコロガ。
その たたくところが。

396B : クラミタイニ ナッテナー。
鞍のように なってね。

(C ハー ヘタ トコロガナー)
(C はあ そうした ところがね)

コッチ ミギカラト ヒダリカラト。
こっち 右からと 左からと。

397C : コノー ヒトツホーカラ ソノーオー ムイテ
この 一方から そのう むいて

タタキヨッタ トコロガ
たたいていた ところが

ソッチジャ イケン テ オークジョ クライヨル {B 笑}
そっちでは だめだ と 大目玉を 食らっている。{B 笑}

398C : ホデ ソノー ヒトリワ ウシロムキー ナッチョッタ。
それで その ひとり は 後ろ向きに なっていた。

ホテ ポッタン ポッタン タタイタラ
そして ポッタン ポッタン たたくと

モー サンジップンモ ヤッタラ モー コレ。
もう 30分も やると もう これ。

33↑34

テマメ ッテ ユー ヤツガ ココノ アノー ユビー。
手豆 と いう ものが ここの あの 指に。

ココエ デキテ。
ここに できて。

ソノー コレガ モ マッカクケー ナッテナー。(A ヒトツ)
その これが もう まっ赤に なってな。(A ひとつ)

モ イトーデ ヤレンソジャー。
もう 痛くて 我慢できないんだ。

399A : ヒトツ イマー キーチョリヤーノー。
ひとつ 今 聞いていればね。

ヒトツホーカラ タタクトジャー。(C ウン) (B ウン)
一方から たたくとだね。(C うん) (B うん)

サンボンコーガ ガチアウホージャー。
三本鉾が かちあうんだよ。

400B : フーン。
ふうん。

401C : オー ソレー。

おう そうだ。

402A : ソラー アブナーカラ (C ウン) カナラズ ヒトリワ

それは 危ないから (C うん) 必ず ひとりは

ハンタイ ムケトル。 (C アー)

反対[を] 向けている。 (C ああ)

マー コー ユー コトヤッタナー。

まあ こう いう ことだったな。

403B : ソントキワ ヒ ヒトリア、 ヒトリア

その時は × ひとりは、 ひとりは

アノ コー ミギノ ホー (A {笑})

あの こう 右の ほう[から]、 (A {笑})

アノ ヒダリテデ タタキヤー (C アー)

あの 左手で 叩けば (C ああ)

ヒトリヤー ミギノ ホーノ ガーカラ (C ウン ウン ウン)

ひとりは 右の ほうの 側から (C うん うん うん)

タタカニャ イケダッタローガネ。

叩かなければ いけなかったよね。

404C : アー。 ソーユーコトイ。

ああ。 そういうことだ。

山口 34-3

405B : ホデ ソレオ ヒトウネオ ズーット (C アー)
それで それを 一畝を ずうっと (C ああ)

ソレオ リョーホーカラ (C ウン) タタエエテイク ワケイナー。
それを 両方から (C うん) 叩いていく わけだよね。

406A : エライメニ アイヨッタナー。(C アー)
つらい目に あっていたな。(C ああ)

407B : アー エラカッタノ。ガッコー アゲクニネー。
ああ つらかったね。学校[の] あげくにね。

コンナ コトー センニヤ ナランカ
こんな ことを しなければ ならないのか

モー ノーギョー イヤジャ オモータ。
もう 農業[は] いやだ [と]思った。

408C : ソレワー ナー。モー アノー。ソノー アサー マー
それは ねえ。もう あの。その 朝は まあ

ソノー ベン アノー ガッコー イカニヤ イケンカラ
そのう ×× あの 学校に 行かなければ いけないから

ソノー マー ソノー ナンジャケド モー ガッコーカラ カエルト
その まあ その なんだけど もう 学校から 帰ると

ソノー イッショーケンメー マッチョルンジャ
その 一生懸命 待っているんだ

ムカシノ コトヤカラ (B ソー ソー) ハー。
昔の ことだから (B そう そう) はあ。

409B : アー ホントニ。
ああ ほんとうに。

410C : ホィケー アノー モドッテ デルトナルト ワシドモア
だから あの 帰って 出るとなると 私などは

ソノー タガ チカイカラ。(B ウーン) (A ウーン)
その 田が 近いから。(B うん) (A うん)

ソノー トコロガ アルカラ。
そういった 所が あるから。

ガッコー オエテ コノ コノ マエエノ ホーモ
学校を 終えて この この 前の ほうも

ツクリヨッタシナー。(B ウーン)
作っていたしな。(B うん)

ガッコーガ イマ ヒケタ チューガ ワカッチョルンジャ。
学校が 今 終わった というのが わかっているんだ。

(A・B {笑}) (A オー ソージャ ソージャ)
(A・B {笑}) (A おう そうだ そうだ)

ホジャカラ ソノー ミチグサ トッタラ ソノー バンニャー
だから その 道草[を] 食ったら その 晩には

マタ カエッテ シカリアゲル。 ホヤカラ ソノー
また 帰って 叱りとばす。 だから その。

411B : ガッコーワ ナンジニ シマエタソエ オマエ ナニ
「学校は 何時に 終わったのに お前[は] 何[を]

シチョルカ チュー コトジャッターロー。
しているんだ」 という ぐあいだったね。

412C : アー。 モー ダエブシ モー イチジカンモ マエエ
ああ。「もう だいぶん もう 1時間も 前に

シモータソエ ナニョ ショルカ チューヨーナ コトデー。
終わったのに 何を しているんだ」 というような ことで。

413A : オリヤーノー。(C オー) カエッテミルトノー。
俺[の家]はな。(C' おう) 帰ってみるとね。

チャント カキオキガ シチャルホジャー。(B・C {笑})
ちゃんと 書き置きが してあるんだ。(B・C {笑})

ガッコーカラ カイッター ドコソコイ コイ テ
学校から 帰ったら どこそこに 来い と

カキオキガ シチャル。アー
書き置きが してある。 ああ

414C : アー ジャロー。 {笑}
ああ だろう。 {笑}

415B : アー {笑} ソエカナ。

ああ {笑} そうなの。

416A : ソシテ ナンデヨー。 トニカク ハー

そして 何だな。 とにかく もう

ショーガッコーゴロクネンコロカラ キタワレタナー。

小学校5、6年生頃から 鍛えられたなあ。

417C : マー ゴロクネン ッテ。

まあ 5、6年生 って。

418B : ソラー ソレイナー。

そりゃ そうだよ。

419A : ソレガナー。 オヤジノ ヤツガ エ マ

それがな。 親父の やつが ええ まあ

ジブンノ カタガワリオ サセル ツモリカ

自分の 肩代わりを させる つもりか

ハヨー オボエサセル ツモリカ シランケドヤナー。(C ウン)

早く 覚えさせる つもりか 知らないけどな。(C うん)

アレ ワスレンガ ナンジャノー。 アノー マグワ[106]エナ。

あれ 忘れないが 何だなあ。 あの 馬鑑よな。

(C ンー ンー ンー)

(C うん うん うん)

ミズ トル マグワ。(B フーン フーン)
水[を] 取る 馬鋏。(B ふん ふん)

アノ マグワガ ツイ アノ コータホジャー
あの 馬鋏が ただ あの 買ったものでは

オレガ チビジャカラ (C ウン) エラーホジャー
俺が チビだから (C うん) つらいんだ

タコーニ コー オサエニャ イケンカラ。(B ウーン)
高く こう 押さえなければ ならないから。(B うん)

34↑35

ホエデ オヤジガナー。ダエクモ ヤリヤー
それで 親父がな。 大工も やれば

コビキモ ヤリヨッタカラ。オレガ コハエチャル オマエ
木挽きも やっていたから。俺が 作ってやる おまえ[に]

チョード エーソ コハエチャル テ。(B フーン)
ちょうど いいのを 作ってやる と。(B ふん)

ウエカラ シタニー オサエルヨーナ。アノー トリテオ
上から 下に 押さえるような。あの 取り手を

ヒクー スリヤーナー。(B ハー ハー ハー。ソレカナ)
低く すればね (B はあ はあ はあ。そうなの)

ラクナ。(C ハー ハー ソレカエ)
楽だ。(C はあ はあ そうか)

アネー ヤッテ コサエテ クレヨッ、クレタホ。
そう やって 作って ×××、 くれたんだ。

420B : ハー ハー。 マグワ ッテナー。 (C シー) (A ハー)
はあ はあ。 馬鍬 といってね。 (C うん) (A はあ)

ホント ホント。 アノー テツノ オノマ、 ボーガ
ほんとほんと。 あの 鉄の ×××、 棒が

アレ ナンボングラーカ。 ハチホングライ アッタカ。
あれ 何本ぐらいか。 8本ぐらい あったか。

(A シー ソレグライ)
(A うん それくらい)

421C : アー ハチホングライ サシチャルイナ。
ああ 8本ぐらい さしてあるよね。

422B : ハー ハチホングライ アル モノー ソロー ウシー ヒッパラシテ
はあ 8本ぐらい ある ものを それを 牛に 引っ張らせて

ズーット。 (C アー ハー ハー)
ずっと。 (C ああ はあ はあ)

423A : ウシー ヒッパラシテナー オサエルソ。 (B ソシタラー)
牛に 引っ張らせてね 押さえるんだ。 (B そうすると)

イッショケンメー ヒッシニ ナッテ オサエル。 (B ハー)
一生懸命[に] 必死に なって 押さえる。 (B はあ)

424 B : ソシタラ ツチガ ヤワラカニ コモー ナル ワケイナ。
 すると 土が 柔らかく 細かく なる わけよね。

425 C : ソレー。
 そう。

426 B : マー ホン。
 まあ ほんとうに。

427 C : マー ソーユーフーデヤナ。
 まあ そういうふうでね。

ソノー マター アノー ソノー コモー シタ ヤツオ ソノー
 その また あの その 細かく した ものを、 その

イマ タタイテ マタ イツカイ モー イツカイ スキカエテ。
 今 叩いて また 1 回 もう 1 回 さらに鋤いて。

(B ウシ) ソシテ ソノー (B ウン) オー
 (B 牛) そして そのう (B うん) ××

ミズー タメル ワケイナ。
 水を 溜める わけだな。

428 B : ハー。
 はあ。

429 C : ヤカラ (B ンデ) ソノー イマーミタイニー
 だから (B んで) その 今のうちに

コーウンキガ アー アッテジャー アノー ガラガラーットー
 耕運機が ああ あってだ あの ガラガラと

オトコガ ツイ スイテアー ソノー ヤルダケデ ナーカラ
 男が ただ 鋤いて その やるだけで[は] ないから

オンナー ットゥーテモ アノー ソノ クレタタキートカ
 女 といっても あの その「クレ叩き」とか

ソノ ホカノ オー (B シゴト アルン) モノガ
 その 他の ×× (B 仕事[が] あるの) ものが

シゴトガ ヤマホド ツッカエチョル。
 仕事が 山ほど つかえている。

430A : アッター。ヘーカラ イチバン (C アー イロイロナ コトガ)
 あった。それから いちばん (C ああ いろいろな ことが)

(B ムカシワナー ホント) イチバンギシトカナー。(C ンー)
 (B 昔はね ほんとう) 一番岸とかね。(C うん)

(B ンー ハー ハー) ソレカラ アデトカチュソワ ヤッポナー。
 (B うん はあ はあ) それから 畔とかというのは やっぱりね。

(C ンー ホランニャー イケンシ)
 (C うん 掘らなければ いけないし)

テデ ヤラントジャー。タタカレンカラ。
 手で やらないとだね。叩けないから。

431C : ソー。

そう。

432B : ソー *** ネー。 マー アノー ソレカラ コンド ソノ クレガ
うん *** ね。 まあ あの それから 今度 その 土の塊が

コモーナッテカラ ミズオ アテルワケイナ。 (C ソー ソー)
細くなってから 水を 入れるわけなのよ。 (C うん うん)

ミズオ アテテカラ コンダー ソノ マグワ ッテユー モノー
水を 入れてから 今度は その 馬鋤 という ものを

(C アー) アンタガ ユーテノヨーニ (C ウン)

(C ああ) あなたが おっしゃるように (C うん)

コドモニ ニオータヨーナ マグワデ コー (C ウン ウン ウン)
子供に あったような 馬鋤で こう (C うん うん うん)

カキヨッテヤッタホジャロー。 ウシー ヒッパラシテ。
搔いてらっしゃったんだろう。 牛に 引っ張らせて。

433C : ウン。

うん。

434A : ハー。

はあ。

435B : フーン。 ソージャローナー。 ホント。 ホント
ふうん。 そうだろうね。 ほんとう[に]。 ほんとう[に]

ワタシモ ソノ ム オ オモイデガ アル アル。
私も その × × 思い出が ある ある。

436C : ソレガナー。 ソノー マグワデ ヒッパッチョッテ
それがね。 そのう 馬鍬で ひっぱっておい

ソノー コドモジャカラナー。 ソノー
その 子供だからね。 その

ウシノ ヤツガ ズイブン コノー イカン ヤツガ オルイナ。
牛の やつが ずいぶん この 進まない やつが いるんだよ。

437B : ソー。 ソリヤー マー ソー。
そう。 それは まあ そう。

438C : ホイタラ ソノー ウシガ ソノー オー ヨート ナローテ
そしたら その 牛が その ×× 用途[を] 習って、

35↑36

ウシガ ソノ コドモー ソビーテ
牛が その 子供を 引きずって

アルク、エルヨーナ ウシナラ エーケド
歩けるような 牛なら いいけれど、

ウシノ ヤツガ アッチ イッター
牛の やつが あっち[に] 行ったり

ミギ イッター ヒダリ イッター **タラ
右[に] 行ったり 左[に] 行ったり **たら

ソレヤー ナニーノー。

それは なんだね。

ソノー タ**ジュ カッケリアルカンニャ イケンイ。

その **** 走り回らなければ いけない。

(B ウーン。 ホント ホントナー) ハー。

(B うん。ほんとほんとにね) はあ。

439A : ナニカナー。 Bノバーチャン ダイショー アノー
何かな。 Bのおばあさん 少しは あの

コーチャーノ ブラクデ ワタシガ コドモノ トキー
河内の 集落で 私が 子供の 時に

ウシュー ツカウ ヒョーバンガナー。(B フーン)
牛を 使う 評判がね。(B ふん)

キーチョッテノ コトガ アルカナー。
聞いていらっしゃる ことが あるかな。

アノー ゴロクネンコロニナー。(B ハー)
あの 5、6年ごろにな。(B はあ)

ウシオ ワタシガ ツカウソー ミテナー。(B ハー)
牛を 私が 使うのを 見てね。(B はあ)

アー アノ コー ドコノ コヤローカ。
ああ あの 子は どの 子だろうか。

コマエーエ コガナー (B {笑}) ヨー ウシヨー
小さい 子がね (B {笑}) よく 牛を

ツカウガ ッテ。(C {笑})
使うなあ と。(C {笑})

440B : シー ハー。 ソリヤー アノ ヒョーバンガ アッタ。
うん はあ。 それは あの 評判が あった。

441A : ワタシノ ミミー ハエエチオルヨー。 ホンニンノー。(C シー)
私の 耳に 入っているよ。 本人の。(C うん)

ワタシノ ミミー。 {笑}
私の 耳に。 {笑}

442B : アー。 ソラー ソーユー ヒョーバンワ ホント アッタ。
ああ。 それは そういう 評判は ほんとに あった。

(C シー)
(C うん)

443A : ワタヤー カセー イッテナ。
綿屋に 手伝いに 行ってね。

444B : ソラーナー。 ホント アンター コマカッタカラナー。
それはね。 ほんと あなたは 小さかったからね。

(C {笑} コマー) ホント。
(C {笑} 小さい) ほんと。

山口 36-4

モー ウエカラ ミタラ ホントノ ウ、 ナニーナー。
もう 上から 見ると ほんとに ×、 なんだね。

445A : ウシノ ホーガ フトエエカラ。 {笑}
牛の ほうが 大きいから。 {笑}

446B : ハー ウシノ ホーガ フトエエ。
はあ 牛の ほうが 大きい。

マグワノ ホーガ アノ フトエエデ。 (C {笑})
馬鐙の ほうが あの 大きいよ。 (C {笑})

ソレ ホント コマー コドモガ ナシテ アネー
それ ほんとに 小さい 子供が どうして あんなに

(A ソレガナー) シゴトー ヨースルカ ッテ ユーグライ
(A それがな) 仕事を できるか と いうぐらい

(A ソレガ アノー コーチノ アネ)
(A それが あの 河内の 姉)

ソリヤー ホント ヒョーバンガ アッタヨー。
それは ほんとに 評判が あったよ。

447A : アネジョーノ カター モー イツモ ハー タウエデモ
姉さんの 家は もう いつも はあ 田植えでも

ドンペ、 ド ドベジャカラナー。 (B フーン)
びり、 × びりだからね。 (B ふうん)

シジュー ウチノ ホーガ ハヨー シマエルカラナー。
いつでも うちの ほうが 早く 終わるからね。

(B フーン) カセー イッチャレ ッテ。
(B ふうん) 手伝いに 行ってやれ と。

ハー エラーソエ オモテ イヤヤケドナー。(B フーン)
もう めんどうだな [と] 思って 嫌だけどね。(B ふうん)

オヤジノ メーレージャカラ シカタガナー。(B フーン)
父親の 命令だから しかたがない。(B ふうん)

ナンジャー。カセー イキヨッタソ。(C ウン)
何だ。 手伝いに 行っていたんだ。(C ふん)

ヘテ マー イッテ ミズートリユー シタリ
そして まあ 行って 水取りを したり

シロカキュー シタリ マー
代掻きを したり まあ

(B ダエエタエエ アノー ホンナラ) ショッタ。
(B だいたい あのう そんなら) していた。

448B : アノー コノー ター ウエルマデニナ。(A ハー)
あのう この 田を 植えるまでにね。(A はあ)

ソノ スク コト ナンベン ウシガ ハイタラ
その 鋤く こと、何回 牛が 入ったら

タガ ウエラレルカイナー。 ウシガ。
田が 植えられるんだらうね。 牛が。

449A : ソレヤッタラ。

それだったら。

450C : ソリヤー アラデ イッペン スクジャロー。

それは 大雑把に 一度 鋤くだろう。

451B : フーン。 ソレカラー。

ふうん。 それから。

452C : ヘテ イマ ユーヨーニ クリョー タタイター。 (B ハー)

そして 今 言ったように 土の塊を 叩いて。 (B はあ)

ソシテ スイタラ コンダー アノー

そして 鋤いたら 今度は あの

(A マタ カヤハナ イケン)

(A また [鋤き]返さなければ いけない)

カヤシダ ッチュー ワケーイネ。 (B カヤシダ)

返し田 という ことだね。 (B 返し田)

ソヤカラ ソレガ カヤシダイ ナッテー ソノー。 コン

だから それが 返し田に なって その。 この

(B コンダー ナン スル) トキ ミズオ タメル ワケ。

(B 今度は 何を する?) 時 水を ためる わけ。

(B カヤシダ)

(B 返し田)

453C : ソヤカラ ソノー ミズー タメルマデニ ニカエエ スクワケイナ。
だから その 水を ためるまでに 2回 鋤くわけだよな。

454B : ハー (C ハー) ニカイ スイテ ホイデ コンド
はあ (C はあ) 2回 鋤いて それで 今度

モーイッペン コンダ カカンニャ イケマーガナ。
もう一度 今度は 掻かなければ いけないだろうね。

ミズー イレタラ。
水を 入れたら。

455C : ウン。 カエエテナー。
うん。 掻いてな。

456B : ソレデ サンベン ウシュー イレンニャー イケンワーナ。
それで 3度 牛を 入れなければ ならないよね。

457C : ハー。
はあ。

458B : ヘタラ ソレカラ サキヤー。
そしたら それから 先は。

459C : ソレカラ サキ チューソガナー。
それから 先 というのがね。

460 B : コンダ シロズキ[107] チューソカ。
今度は 代鋤 というやつか。

461 C : マダ カ、カイテーナ。(B ハー) シロズキ チュー ヤツワー
まだ ×、搔いてね。(B はあ) 代鋤 という ものは

ソノー コノ ヘンノー アノー ヒロツパノー イデトコロノ ホーワ
その この あたりの あの 広々した所の 井堰の所の ほうは

36↑37

ソンナ コトア センケドー
そんな ことは しないけれど、

タカガリユーミタイナ アノ コーチトカ (B ハー ハー)
//////みたいな あの 河内とか (B はあ はあ)

ワタシノ ヘンデモ (B ハー)
私の[いる] あたりでも (B はあ)

アノー ヤマノ ナカノ タノ ホーワ (B ンー)
あの 山の 中の 田の ほうは (B うん)

ミズモチガ ワルイカラ (B フン) ソノー。
水持ちが 悪いから (B ふん) そのう。

462 B : シロズキ チューソー ワタシワ オボエチョルツチャ。
代鋤 というのを 私は 覚えているよ。

(C シロズキ ツチューソー ツクンデショ)
(C 代鋤 というのを 作るんでしょ)

山口 37-2

ミンナガ シロズキオ センニャー イケン テ ユーテノホー。
みんなが 代鋤を しなければ いけない と 言われるんだよ。

(C ハー) (A ーン) シロズキガ ハナワツタラ
(C はあ) (A うん) 代鋤が 始まったら

モー ハー スグ タウエガ (C ウン ウン ウン)
もう はあ すぐ 田植えが (C うん うん うん)

ジキト ハナワル チューコト。
じきに 始まる ということ。

463C : ソレガナ。(B フニー) シロズキ チュー ヤツガ
それがね。(B ふうん) 代鋤 という ものが

ミズー イッカイ タメテー
水を 1回 ためて

アー イマー アー オイサンガ ユーヨーニ
ああ 今 ああ おじさんが 言うように

(B シ、 シロズキヤー ナンベンメヤナ。 ホイタラ)
(B × 代鋤は 何回目なの。 それでは)

カイタヤツオ。(B ウン) ヘテ ソノー ソレガ
掻いたものを。(B うん) そして その それが

ウシガ サンベンイナ。(B ハー ハー。 サンベン)
牛が 3回だよ。(B はあ はあ。 3回)

ホイタトコロガ ソレオ マタ シロズキ チュー
そうしたところが それを また 代鋤 という[のを]

ヤッ ト ユート シロズキガ ヨンベン。(B ハー ヨンベン)
やる と いうと 代鋤が 4回。(B はあ。4回)

ソシテ モーイッカエエ カカンニャ イケン。
そして もう1回 搔かなければ ならない。

464B : カカンニャ イケン。 ハー ホンナー
搔かなければ ならない。 はあ それなら

ヨンベン ハイランニャー タガ ウエラレン。
4回 入らねば 田が 植えられない。

465C : ハー ソレガ シアゲ。 マー シゴヘングラエエ。
はあ それが 仕上げ。 まあ 4、5回くらい。

466B : マー ゴヘンカナ。
まあ 5回かな。

467C : ゴクニ ヒヤケタ ヒヤケノ タワ ゴヘングラエエ
ひどく 乾いた 日焼けの 田は 5回くらい

カカンニャ イケン。
搔かなければ ならない。

468A : イヤ イヤ。 アノナー。(C ウン)
いや いや。 あのな。(C うん)

山口 37-4

ミズモチノ ワルイ タワナー。(C ウン)
水持ちの 悪い 田はね。(C うん)

アノー ネンオ エレテ ヤル トコロワナー。
あの 念を 入れて やる 所はね。

ナカズクリ チュー コトー ヤルソイ。(B アラ マ)
中作り という ことを やるんだよ。(B あら まあ)

モーイッペン。 ウン。(C ウン)
もう一度。 うん。(C うん)

ホヤカラ イッペン シロズキオ ヤッテヤナー。
だから 一度 代鋤を やってだね。

マタ カクイナ イチオー。(C ウーン) (B ホー)
また 掻くよね 一応。(C うん) (B ほう)

カク、カーテ。 マタ サラニ ソノ ウエオ
××、掻いて。 また さらに その 上を

マタ モー イッペン スクソジャー。(C ウン)
また もう 一度 鋤くんだ。(C うん)

469B : ホンナラ ハナカラ シマエエマデニ ナンベン ハイルホカナー。
そんなら 最初から 最後までに 何度 入るのかねえ。

470C : ソラ マー ゴヘングラエエ ハイルナ。
それは まあ 5回くらいは 入るね。

471A : ゴヘンワ ハー ハチヘングライ ハェエル。(C シー)
5回は はあ 8回ぐらい 入る。(C うん)

ナカズクリ ツソワー。
中作り というのは。

472B : ウシガー マー ヒトマキ フナ ゴヘン ハェエランニャー
牛が まあ ひと蒔き そうしたら 5回 入らなければ

タガ ウエラレン。
田が 植えられない。

473C : マー ヒドエエ キョクタンナ タワー ゴヘンモ ロッペンモ
まあ ひどい 極端な 田は 5回も 6回も

ハェエル タガ アル。
入る 田が ある。

474A : ソレイ。 ソヤカラ (B フーン) ナニーナ。
そうだよ。 だから (B ふうん) なんだね。

475C : ウンー。 ソヤカラ モー
うん。 だから もう

コーセンオ[108]ミタイニ ナツチョルナ。
香煎のように なっているね。

チャワン ナカイ コーセンオ カイテー
茶碗[の] 中に 香煎を まぜて

山口 37-6

ドロドロエ ナッター ソネー センニャー
どろどろに なった、 そのように しなければ

(A ミズガ モテン) (B ミズモチガ ワルイ)

(A 水が 持てない) (B 水持ちが 悪い)

モー ミズガ バンエ ツージテ タカー トコロノ タワ
もう 水が /// / /// 高い 所の 田は

モテン。 シ
[水が]持てない。 うん

476B : ソー スル チュート アンタ イマー アンター シ
そう する というと あんた 今 あんた うん

コーウンキガ イ、 ニヘンカナ。
耕運機が ×、 2回かな。

477C : アー。 ショーショーナ トコロア ミナ アノー シー
ああ。 少々の 所は みんな あの うん

アラー スイター コンドー モー カータ トキー
荒鋤きを して、 今度 もう かいだ 時は

マー ダラーツト イッペン カーテ ヒンチオ オキヤー
まあ たらっと 一度 かいだ 日にちを おけば、

ソレジャケド マー ニサンチ オイテ マー サンベン。
それだけど まあ 2、3日 おいて まあ 3回。

478A : サンベンジャナー。

3回だね。

479C : ナー。

ね。

480B : アー コーウンキデ サンベン。

ああ 耕運機で 3回。

481C : ムツカシー トコロデ サンベン。

難しい 所で 3回。

(B ウーン。 ソレカナー) ダーラ ミヤスイ トコロワー。

(B うん。 そうだな) だから 簡単な 所は。

(B アノー ニヘンデ ウエラレルカナ)

(B あの 2回で 植えられるかな)

コノー オキダヘンワー イッカイデ ヤッテシマウンジャカラ。

この 沖田あたりは 1回で やってしまうんだから。

(B ンマー) イッカイニ タテヨコ カーテ ヤッテシマウ。

(B まあ) 1回に 縦横[を] 掻いて やってしまう。

482B : ソレデ ウエルソカナ。

それで 植えるのかな。

483C : アー。

ああ。

37↑

484 B : へー。

へえ。

↑38

485 C : ソラ モー ミズモチ ッチュー モノガ ジバンニ ヨ、
それは もう 水持ち という ものが 地盤に ×、

イツモー ミズガ スクノー** アルケド (B シン ソレ)
いつも 水が 少なく** あるけど、(B うん そう)

ヒョーメン ノーテモ アノー タカガリオミタイニー コー
表面[に] なくても あの // // // みたいに こう

ハチワレテヤーナー。 オーキナ カワーミタイニ ワレテ
割れてだね。 大きな 川みたいに 割れて

ソノー ミズガ シタル チュー コトワ ナイカラ。
その 水が 漏れてなくなる という ことは ないから。

486 B : フーン フン。 ヤッパー ミズモチノ ワ、 エー タワ
ふうん ふん。 やはり 水持ちの × いい 田は

マー (C ウンー ウン ウン)
まあ (C うん うん うん)

ソーユーフーニ シテ スムワケイナ。
そういうふうにして すむわけだね。

487 A : ソレカラナー。 (B マー)
それからね。 (B まあ)

アノー マー イッペンデ ゴマカソート オモヤーナー。
あの まあ 1回で ごまかそうと 思えばね。

イマ コーウンキデ ヤル バーイワ。(C ウン) (B ウーン)
今 耕運機で やる 場合は。(C うん) (B うん)

スイデンシャリン、 テッシャリン ト ユーモノー (C ンー)
水田車輪、 鉄車輪 と いうのを (C うん)

ツケテヤナー。(B ンー) ミズー タメテ (B ホー)
つけてだね。(B うん) 水を ためて (B ほう)

イッペンニ スルソジャ。(C {笑})
一気に するんだ。(C {笑})

488B : マー アラタエナー。
まあ 荒っぽいな。

489A : ハー。
はあ。

490B : アラ。 ソレカナ。
あら。 そうなの。

491A : ソレナラ パーット ハー ウエルソ。
それなら ばあっと もう 植えるんだ。

ソレデ、 ソレデナー。 イッペンニ ゴマカサレル。
それで、 それでね。 1回で ごまかされる。

492B : ソエデ ハー ウエラレル。
それで もう 植えられる。

493A : ハー。
はあ。

494C : ソジャカラー。 コンドー。
だから 今度。

495B : マー ムカシト イマトジャ ソレホドニ サガ アルナー
まあ 昔と 今とでは それほどに 差が あるね

(C アー チガウナ)

(C ああ 違うね)

496C : ソレデー アノー ソノ サンベンモ ゴヘンモ ハイル ッチューノー
それで あの その 3回も 5回も 入る というの

イ ンー ガー ソノー マー オトコガ ゴヘンモ ハイルケド
× うん が その まあ 男が 5回も 入るけれど、

オンナワ ソレー タイシテ マター アノー マーリノ クサキリトカ
女は それに 対して また あの まわりの 草切りとか

(B ウーシ ウン ウン) イロイロナ シゴトガ アルカラ

(B うん うん うん) いろいろな 仕事が あるから、

オトコガ カイスーオ ヨ ヨケー ウシュー ツカウホド
男が 回数を × たくさん 牛を 使うほど

山口 38-4

オンナモ シゴトガ カイスーガ オイーワケ。
女も 仕事が 回数が 多いわけ。

(B ンー オンナモ シゴトガ オイナー)

(B うん 女も 仕事が 多いね)

スル シゴトガ オイーワケ。
する 仕事が 多いわけ。

497B : ハー。 ソレ ソレ ソレ。 フート。
はあ。 そう そう そう。 ほんとう。

498C : ソー シテ ソノー タオ イチオー イネオ ウエルワケイナー。
そう して その 田を 一応 稲を 植えるんだよね。

499B : ウーン。(C ウン)
うん。(C うん)

38↑

山口県豊浦郡豊北町1978注記

〔1〕 アリヤー

「あれ」とは、話し手B氏が敷地内に井戸を掘ったことを指す。

〔2〕 ソエ

「そう」という場合、ソレ、ソエという代名詞系の応答詞が使われる。

〔3〕 X1 チャン

話し手B氏の長男。

〔4〕 アニサン

年上の男性を呼ぶときの敬称。

〔5〕 テマー トリヤー

手間をとる。時間をもらう。

〔6〕 イカンニヤー イケン

「～ンニヤー ～ン」（～しなければ ～ない）という表現法がよく使われる。

〔7〕 アスコ

井戸を掘る場所のことで、話し手B氏の家の敷地の上手にあたる所。

〔8〕 カミ

敷地よりも高地を「カミ（上）」という。

〔9〕 コンナー

対称の代名詞「あなた」にあたることばで、「このあなた」の簡略形であろう。

〔10〕 オトーサン

X1氏のこと。話し手B氏にとっては長男にあたるが、一家の長であるので、こう呼んでいる。

〔11〕 ラクサ

落差。水は高い所から低い所へ流れるという原理を利用して井戸を掘るので、落差を考慮して井戸の位置を決める。

〔12〕 キカエエ

水を汲み上げるポンプのこと。

- [13] シタジ
下地。低地のこと。地面のこともシタジという。
- [14] ハー
副詞。もう。すでに。
- [15] トメテ
埋めて。終止形は「トメル」。山陰側一帯の方言のようである。
- [16] シュロノ カワ
井戸の水を濾過する装置のひとつとして、シュロの皮を利用する。
- [17] インデ
帰って。終止形は「イヌ（往ぬ）」。ナ行変格活用である。
- [18] オナゴシー
女衆。女の人たち。
- [19] X 2 チャン
話し手B氏の孫。
- [20] ミシナシモ
皆の衆も。みんな。
- [21] アイカン
合間。井戸を掘る位置について、家族内で意見が分かれてもめていた間。
- [22] ミズガ ヌクイワケ ヒヤーワケ
井戸から台所までが遠いので、水をひくためにその間にパイプを埋めている。そのため、パイプが外気温に影響され、水の出し始めは、本来の井戸水の利点（夏は冷水、冬は温水）にあずかれない。
- [23] ヤキ
焼けたような色をした土の層のこと。この土の層に掘りあたると、水がよく出るといふ。
- [24] イガワ
土を掘った後に入れる井戸の内側の囲い。
- [25] クエチャー
崩れては。終止形は「クエル」。

[26] スイイ

水位。掘れば掘るほど水位が下がることになる。そうすれば井戸の内側の囲いが余計に必要なから、水が出さえすれば、あまり深く掘らなくてもよいということ。

[27] オイタ

終止形は「オク」で、物事をやめること。ここでは、掘るのをやめること。

[28] ジューゴホン コーテ ジューヨンボン トメテ

井戸の内側の囲いを15本購入して、14本を土の中に埋め、残りの1本を地上に出して、井戸の柵をしているということ。

[29] ナナホングライワ トマッコルナ

土の中に埋まっている井戸の内側の囲いの7本目ぐらいまでは、いつも井戸水がたまっているということ。

[30] イッポンジャナ

井戸の直径が大きいので、井戸の内側の囲いも大きい。したがって、ふだんの家事で使用する水の量は、井戸の内側の囲い1本にたまる分で十分であるということ。

[31] カンバツ

この会話を収録した1978（昭和53）年の夏は、山陰・山陽・北九州一帯が非常な干ばつであった。阿川においても水問題は重大な関心事であった。

[32] ダエエオン

大音。阿川の小地点名で、海岸と反対方向の山手にあたる。話し手A氏・B氏の居住区であり、話し手B氏の田がある。

[33] ミト

水門。田の排水口のこと。ミトグチともいう。

[34] イデー

イデは、出手。田の用水のために川の水をせきとめた所。

[35] ジドーテキニ オチャー センカー

水を出す時、水につけたホースの中の空気を吸い込んで抜くと、水が自然に流れ出る。そうすれば、ポンプで水を汲み出さなくともよいのではないかということ。

- [36] クシギ
串木。屋号。
- [37] マサミズ
赤く焼けたような色をしたマサという土の層から出た水のこと。
- [38] サカヤ
栄屋。屋号。
- [39] ヒーテー
日一日。ここでは、「一日か二日か」ということ。
- [40] タマゲタ
井戸を掘り、井戸水を使えるようにするためには、十分な濾過装置を築いていくが、その技術に驚いたということ。
- [41] ゴマカーチョル
話し手A氏が習得した技術どおりの濾過装置を築かずに、話し手B氏の井戸では簡単にすませてしまっていることを指摘している。
- [42] タタキツチ
赤土・石灰・セメントを混合して練る壁土のこと。乾きやすいもので、家を建てるとき、土間などにたたきつける。井戸の内側の囲いの接着にもこれを利用するといいらしい。
- [43] コー
井戸の内側の囲いの間に、土の団子を塗りこむ手まねをする。
- [44] ツイタ
築いた。土や石を突き固めて積みあげて貯水タンクを作ること。
- [45] ミヤスイ
容易である。たやすい。井戸掘りのように、土を掘る技術は比較的容易であるという。
- [46] イラク
乾く。貯水タンクのように、地面の上に土や石を積みあげるのは、土が乾燥してひびが入るので、そこから水が漏れる心配がある。決して水漏れをしないようにする技術が難しいというのである。

- [47] ハコナイー
ハコナエは、箱の中で育てた稲の苗。
- [48] アカマサ
マサという水の浸透がよい土で、赤味を帯びた土のこと。苗の養分となる鉄分を多く含有しているので、箱苗作りに適している。
- [49] ～ツソァー
～というのは。「～トユーソワ」の簡略形。
- [50] ソーデショー
調査者の存在を意識して丁寧なものの言いをしている。
- [51] ～ニーニ
助詞「に」を長呼したものである。
- [52] アツースギル
土の割合に対して、まく粃の量が多すぎて、粃が重なった状態になる。
- [53] キジュン
農業協同組合の指導のこと。
- [54] ヤケル
苗が黄色くなってしまうこと。粃を土の量に合わせてまいておかないと、苗が黄色くなってしまうという。
- [55] ニジューゴンチマエエ
田植えの日から、25日前に粃を蒔くと、田植時に理想的な苗が植えられるという。
- [56] サンジューゴンチモ シジューンチグライ
1978（昭和53）年の梅雨期は、予想した降雨量がなく、田植時期になっても田植えができず、降雨を待っているうちに、苗を植えて35日も、40日もたってしまったという。
- [57] ナゴー
話し手B氏は、苗作りの日数が長くなりすぎるという意味の発言をしたのに対して、話し手A氏は、成長がよくて苗が長くなるととらえている。
- [58] カッチャク
植えつけた苗が、土にしっかりと根付いて、成長すること。

[59] ローキューカ

水不足で田植えができないと、箱で成長しすぎた苗は、土壌の養分が欠乏してきて、根の成長力が弱くなっているという。

[60] ニョーソミズ

理想的な時期に田植できなかった苗の成長力を促進するために、田植えの3日前には、養分である尿素を水に溶かして、箱苗にかける。そうすると、田植後にしっかりと成長するそうである。

[61] イロメガ デン ウチーナ

苗が黄色くならないうちに、田植えをしなければならない。

[62] ホンデン

苗代ではなく、田植えをするために水をはった田のこと。

[63] ミズナエシロ

新式の箱苗作りではなく、旧来の苗代作りのこと。

[64] ナンチ

何日に田植えができるという見通しがたてられないと、箱苗作りにとりかかれないう欠点がある。

[65] ウエタ

田植えをするための準備を整えた田。

[66] デキン

田に水をひき、土をかいて田植えの準備をするが、田植機を使用する場合は、少し土が固まってからでないと機械が土に埋まって動かないから、田植えができないということ。

[67] ウエシロ

田植えをする直前に水を入れて、田面を平らにかきならすこと。

[68] ミッカブリー

老年層では聞かれるが、青年層では聞かれなくなっている語である。

[69] ナエバコ

箱苗と同義の語として使われている。

[70] ヤオーテ

田植機で植える場合は、田の土が柔らかすぎると機械が埋まって田植えが

できないが、手で植える場合は、土が柔らかいほうが田植えがしやすいということ。

[71] オカダ

丘田。高地にある田。

[72] ハタケーナエ

畑で育てる苗。苗代で作る苗に比べると、水分が不足しているので、田植え後、苗は水を吸収する力が強く、根付きがいいそうである。

[73] ブンケツ

分蘖。おもに、イネなどの植物が、根に近い茎の節から枝分かれすること。株張り。

[74] オイツク

箱苗は苗代作りの苗よりも早い時期に田へ植えるが、田植え後の成長が早いので、苗代作りの苗の大きさにすぐに追いつくということ。

[75] リテン

箱苗は田植機を利用する場合のものである。その利点の一つに、手植えのように体をまげて植えなくてもよいので、腰が痛くならないということがあげられる。

[76] ツイテイキヤー

機械が植えていくので、植え手は操作しながら機械についていくだけでよいので楽であるということ。

[77] ナエトリ

田植え時に、苗代から苗をとって束ねる作業。田植えを数人で行うと、苗取りは、ひとりでは植え手に追いつかないという。箱苗の場合は、この作業をすることはない。

[78] ホカニワ

家の前の庭。ホカということが多い。箱苗は前庭に箱を積み重ねて作るという。

[79] マガリカド

田植機が方向を変えるところ。機械が苗を植え残すので、ここは手植えをして補う。

[80] ウエテアルキヤー

共通語で「～してまわる」というのを、阿川を含む長門地域一円では「～シテアルク」という。

[81] イケン

田植機を使うようになると、女たちは田植えをしなくてもよい時代がくるが、男は箱苗の方法を習得したり、機械を操作せねばならないのでいつまでも楽にはならないということ。

[82] イチノサカ

一の坂。屋号。

[83] バカ

機械を購入すると、結局、収入と支出が同じくらいになってしまうからである。

[84] テツダイ

苗とりや、田植えの手助け。

[85] ブラサゲル

刈った稲をぶら下げて干す作業。

[86] タテル

刈った稲を立てかけて干す作業。

[87] カルカル コグカラ

コンバインは、稲を刈っていきながら、粃をこく作業を同時にすませてしまうから便利であるという。

[88] ワカーシ

若い衆。家督を譲った老年層からみた中年層の戸主たちのこと。

[89] サガ

佐賀。屋号。

[90] オマエタチャー

息子夫婦に対して言っている。

[91] ワリダサンニヤー

消毒剤の分量と、それを溶かす水量とを決められた割合によって計算すること。

- [92] ダエエショー
共通語で「多少は」というところを、長門域一円で「ダエエショー（大小）」と言う。
- [93] エンスイセン
塩水の中に粃をつけて、実の入っていないものを浮かせて取り除くこと。
- [94] シーラ
実の入っていない、からの粃のこと。
- [95] ハコ
箱苗はそのまま田植機にセットされ植えられる。から粃があったときは欠株となり、苗を植えていない部分ができてしまう。
- [96] アタマミタイニ
話し手A氏は、自分の頭に毛髪がないことにたとえて、田に稲のできないはげたようなところができると言っている。
- [97] ケツカブ
から粃で苗が成育しないもの。
- [98] シロカキ
田植え前に土をかいて田面を整える作業。
- [99] シジューニチナエミタイナソー
干ばつで田植えをすることができずに、理想的な苗の状態で植え付けられず、40日も箱で成育させた苗を植えることになってしまったことを指している。
- [100] サバー
サバエムシ。ウンカ。形はセミに似ているが、小形の昆虫。多くは体長数^{こうちん}mm。口吻が発達し、植物の汁を吸う。緑色で、群れをなして飛ぶ。時に大発生してイネに大害を与える。
- [101] ヨースイケーセーキ
稲の実ができる、水が充分に必要な時期。
- [102] クロビ
黒干。田が黒い状態で干上がる。土が黒い間はまだ水分が含まれているので、稲は大丈夫であるという。

[103] シロビ

白干。田の土が白く干上がること。稲にとって最悪の状態である。

[104] ヨレチョル

田の水が足りず、稲が萎れている状態。

[105] トーグワ

唐鍬。刃にそりがなく、木の根を掘り起こす時に用いる鍬。

[106] マグワ

馬鍬。1メートルほどの横の柄の下部に、数本の太い鉄の歯がついた鍬。牛馬に引かせて、代掻^{しろかき}や、鋤き起こした田畑をならすのに用いる。ウماغワ。マンガ。ウマハ（馬歯）。

[107] シロズキ

代鋤。稲の苗を植え付ける前に、あらかじめ水田を鋤いておくこと。

[108] コーセンオ

香煎。麦や米を煎って挽いた粉に、シソやミカンの皮などの粉末を加えたもの。白湯^{さゆ}にといいて飲む。こがし。

作成・公開の経緯

「各地方言収集緊急調査」について

昭和52(1977)年度から昭和60(1985)年度にかけて、文化庁によって「各地方言収集緊急調査」が実施された。これは、「全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存する」目的で行われた、全国規模での方言談話の収録事業である。国立国語研究所は、文化庁の要請により、この調査の計画段階から、指導・助言などにかかわっていた。

文化庁は、全国の都道府県教育委員会に各地方言の収集を指示した。47都道府県は、実施時期ごとに、第1次(昭和52(1977)～54(1979)年度)から第7次(昭和58(1983)～60(1985)年度)に分けられ、それぞれ3年計画で、収録を行った。

各都道府県教育委員会は、言語学、国語学、方言学の専門家から調査員として、主任調査員2名と調査員若干名を選出し、さらに、専門家や学識経験者を交えて、調査地点、具体的な調査方法、全国共通の場面設定会話項目などについて検討し、その結果をもとに調査を進めた。

その実施の概要は次のようなものである。

(1) 調査目的

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、記録・保存する。自然な方言会話を良質な録音で採録し、後世に残す。

(2) 調査方法

(3)の調査内容にしたがって、1地点につき1年度あたり10時間程度の方言会話を良質な録音で採録する。そのうち、自然な方言会話の部分を3時間程度選んで、文字化を行い、共通語訳をつけて、記録として残す。

(3) 調査内容

- ①老年層の男女各1人による対話、または、男女を含む3人の会話(2時間)
- ②老年層の男性1人の対話、または、老年層の男性3人の会話(1時間)

③老年層の女性2人の対話、または、老年層の女性3人の会話（1時間）

④老年層と若年層との対話、または、両者を含む3人の会話（1時間）

⑤老年層の男性2人の、目上の者と目下の者の対話（2時間）

⑥場面設定の対話（1時間、各場面につき1～3分程度）

場面に応じて、老年層の男性2人の対話、または、老年層の男女各1人による対話

⑦当該地域に伝わる民話（1時間）

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。収録不可能な場合は、

⑧老年層の女性2人の、目上の者と目下の者の会話（1時間）

または、

⑨目上の老年層の男性と目下の老年層の女性の、2人の対話（1時間）
を収録する。

①～⑤、⑧、⑨については、話題は自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどもの頃の遊び」「仕事」「土地の生業」「出稼ぎ」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」など。

⑥は、自然談話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。「訪問」「辞去」「道でのあいさつ」「出産」「婚礼」「葬式」などの各種のあいさつ、「依頼」「指示」「助言」「買物」「勧誘」などの各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各都道府県教育委員会が協議して、全国共通の数場面を設定する。

(4) 調査地点

調査地点は、各都道府県について5地点程度を選定する。文化庁および地元方言研究者の意見を聞いて、各都道府県教育委員会が決定する。

方言区画上、複数の区域に分かれる場合は、方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を選ぶ。特に、離島など、特色の認められる方言は可能な限り収録する。

(5) 話者

その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、よそ

の土地に住んだことがあっても、その期間が短い人とする。在外期間は3年以内が望ましい。

年齢は、原則として、老年層の場合は、収録時において60歳以上とし、若年層の場合は、20～30歳代とする。

話者相互の立場はほぼ対等であることを原則とする。

(6) 録音

自然な会話を良質な録音で残すため、使用する録音機の性能、マイクの種類・配置、テープの長さ、収録場所の音環境などに注意する。

録音テープ記録票には、採録地点、採録年月日、話題、時間、話者、採録機種などを記入する。

録音テープは、収録したオリジナルのテープ（正）を1本、正テープより文字化部分を編集したテープ（副）を2本作成する。

(7) 文字化

方言音声の文字化の際の表記は、原則として、カタカナ書きとし、方言の音声の特徴をある程度表し得よう工夫する。文字化に対応する共通語訳をつける。文字化内容について、場面・文脈・特徴的音声・方言形の語義・用法などについての注記、表記法についての説明などを行う。各地点ごとに、収録地点の方言の特色について解説する。収録地点の位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・産業など、収録地点の概観について記述する。録音内容記録票には、話者の氏名・性・生年・経歴、録音内容などを記入する。

文字化原稿は、手書きのオリジナル原稿（正）を1部、正の複製（副）を2部作成する。

調査は、各都道府県教育委員会と連携のうえ、全国各地の方言研究者が全面的に協力して行われた。その結果、地域的密度、収録量、方言的内容のいずれの面からも、他に類を見ない高レベルのデータを得たのである。

調査終了後、これらの方言談話の録音テープとその文字化原稿は、各教育委員会から、「各地方言収集緊急調査」報告として、文化庁に提出され、永久保存されることとなった。

なお、調査実施からかなりの時間が経過しているため、当時の関係文書の入手は困難であったが、文化庁、各都道府県教育委員会の協力により、部分的には手に入れることができた。得られたものを、資料として、この章の末尾に掲げたので、ご参照いただきたい。

「各地方言収集緊急調査」地点一覧

北海道

- 01a 空知支庁樺戸郡新十津川町
- 01b 十勝支庁中川郡豊頃町
- 01c 渡島支庁亀田郡榎法華村
- 01d 渡島支庁松前郡松前町

青森県

- 02a 下北郡川内町
- 02b 北津軽郡市浦村
- 02c 上北郡野辺地町
- 02d 三戸郡五戸町

岩手県

- 03a 久慈市
- 03b 宮古市
- 03c 遠野市
- 03d 大船渡市
- 03e 一関市

宮城県

- 04a 本吉郡本吉町・歌津町
- 04b 栗原郡築館町
- 04c 仙台市
- 04d 亶理郡亶理町
- 04e 刈田郡七ヶ宿町

秋田県

- 05a 鹿角市
- 05b 能代市
- 05c 仙北郡西木村
- 05d 河辺郡雄和町
- 05e 湯沢市

山形県

- 06a 新庄市
- 06b 寒河江市
- 06c 東田川郡櫛引町
- 06d 東田川郡朝日村
- 06e 西置賜郡飯豊町・東置賜郡川西町

福島県

- 07a いわき市
- 07b 大沼郡会津高田町
- 07c 大沼郡昭和村

茨城県

- 08a 高萩市
- 08b 久慈郡里美村
- 08c 水戸市
- 08d 鹿島郡大野村（→鹿嶋市）
- 08e 古河市

栃木県

- 09a 大田原市
- 09b 日光市
- 09c 宇都宮市
- 09d 芳賀郡益子町
- 09e 安蘇郡田沼町

群馬県

- 10a 利根郡片品村
- 10b 吾妻郡六合村
- 10c 前橋市
- 10d 邑楽郡大泉町
- 10e 甘楽郡下仁田町

埼玉県

- 11a 加須市
- 11b 南埼玉郡宮代町
- 11c 春日部市
- 11d 児玉郡上里町
- 11e 秩父郡長瀬町
- 11f 入間郡大井町

千葉県

- 12a 海上郡飯岡町
- 12b 印旛郡印西市（→印西市）
- 12c 長生郡長生村
- 12d 木更津市
- 12e 館山市

東京都

- 13a 台東区
- 13b 西多摩郡檜原村
- 13c 大島町
- 13d 三宅村
- 13e 八丈町

神奈川県

- 14a 愛甲郡愛川町
- 14b 横須賀市
- 14c 秦野市
- 14d 小田原市

新潟県

- 15a 村上市
- 15b 西蒲原郡分水町
- 15c 十日町市
- 15d 糸魚川市
- 15e 佐渡郡佐和田町

富山県

- 16a 黒部市
- 16b 富山市
- 16c 氷見市
- 16d 砺波市
- 16e 東礪波郡上平村

石川県

- 17a 羽咋郡押水町
- 福井県
- 18a 坂井郡芦原町
 - 18b 勝山市
 - 18c 南条郡南条町
 - 18d 敦賀市
 - 18e 遠敷郡名田庄村

山梨県

- 19a 塩山市
- 19b 大月市
- 19c 韮崎市
- 19d 南巨摩郡早川町 [奈良田]
- 19e 南巨摩郡身延町

長野県

- 20a 下水内郡栄村
- 20b 長野市
- 20c 小諸市
- 20d 伊那市
- 20e 木曾郡開田村

岐阜県

- 21a 高山市
- 21b 大野郡白川村
- 21c 中津川市
- 21d 岐阜市
- 21e 揖斐郡徳山村

静岡県

- 22a 静岡市
- 22b 榛原郡本川根町
- 22c 磐田郡水窪町
- 22d 賀茂郡松崎町
- 22e 浜名郡新居町

愛知県

- 23a 北設楽郡設楽町
- 23b 西春日井郡師勝町
- 23c 岡崎市
- 23d 豊橋市
- 23e 常滑市

三重県

- 24a 安芸郡美里村
- 24b 阿山郡阿山町
- 24c 志摩郡阿児町
- 24d 北牟婁郡海山町
- 24e 南牟婁郡御浜町

滋賀県

- 25a 長浜市
- 25b 高島郡安曇川町
- 25c 神崎郡能登川町
- 25d 大津市
- 25e 甲賀郡甲賀町

京都府

- 26a 中郡峰山町
- 26b 舞鶴市
- 26c 船井郡丹波町
- 26d 京都市
- 26e 相楽郡山城町

大阪府

- 27a 高槻市
- 27b 大阪市
- 27c 八尾市
- 27d 河内長野市
- 27e 泉佐野市

兵庫県

- 28a 豊岡市
- 28b 朝来郡生野町
- 28c 神戸市
- 28d 相生市
- 28e 洲本市

奈良県

- 29a 大和郡山市
- 29b 宇陀郡榛原町
- 29c 五條市
- 29d 吉野郡下北山村
- 29e 吉野郡十津川村

和歌山県

- 30a 那賀郡岩出町・打田町・桃山町
- 30b 和歌山市
- 30c 御坊市
- 30d 田辺市
- 30e 新宮市

鳥取県

31a 鳥取市

31b 米子市

31c 日野郡日野町

島根県

32a 仁多郡仁多町

岡山県

33a 勝田郡勝央町

33b 新見市

33c 岡山市

33d 小田郡矢掛町

33e 笠岡市

広島県

34a 三次市

34b 府中市

34c 広島市

34d 因島市

34e 安芸郡倉橋町

山口県

35a 萩市

35b 大島郡大島町

35c 徳山市

35d 美祢市

35e 豊浦郡豊北町

徳島県

36a 鳴門市

36b 阿南市

36c 美馬郡脇町

36d 海部郡海南町

36e 三好郡東祖谷山村

香川県

37a 小豆郡土庄町

37b 木田郡三木町

37c 丸亀市

37d 仲多度郡多度津町

37e 観音寺市

愛媛県

38a 越智郡大三島町

38b 西条市

38c 松山市

38d 大洲市

38e 宇和島市

高知県

39a 室戸市

39b 高知市

39c 高岡郡檜原町

39d 幡多郡三原村

福岡県

40a 北九州市

40b 遠賀郡芦屋町

40c 築上郡新吉富村

40d 飯塚市

40e 嘉穂郡稲築町

40f 福岡市

40g 八女市

佐賀県

41a 東松浦郡鎮西町

41b 鳥栖市

41c 佐賀市

41d 武雄市

長崎県

42a 壱岐郡芦辺町

42b 平戸市

42c 長崎市

42d 南松浦郡奈良尾町

熊本県

43a 阿蘇郡阿蘇町

43b 熊本市

43c 球磨郡錦町

43d 天草郡天草町

大分県

44a 東国東郡国東町

44b 宇佐市

44c 大分郡挾間町

44d 佐伯市

44e 日田郡前津江村

宮崎県

45a 延岡市

45b 東臼杵郡椎葉村

45c 宮崎市

45d 北諸県郡山田町

45e 日南市

鹿児島県

46a 出水市

46b 揖宿郡頴娃町

46c 熊毛郡上屋久町

46d 大島郡龍郷町

沖縄県

47a 国頭郡今帰仁村

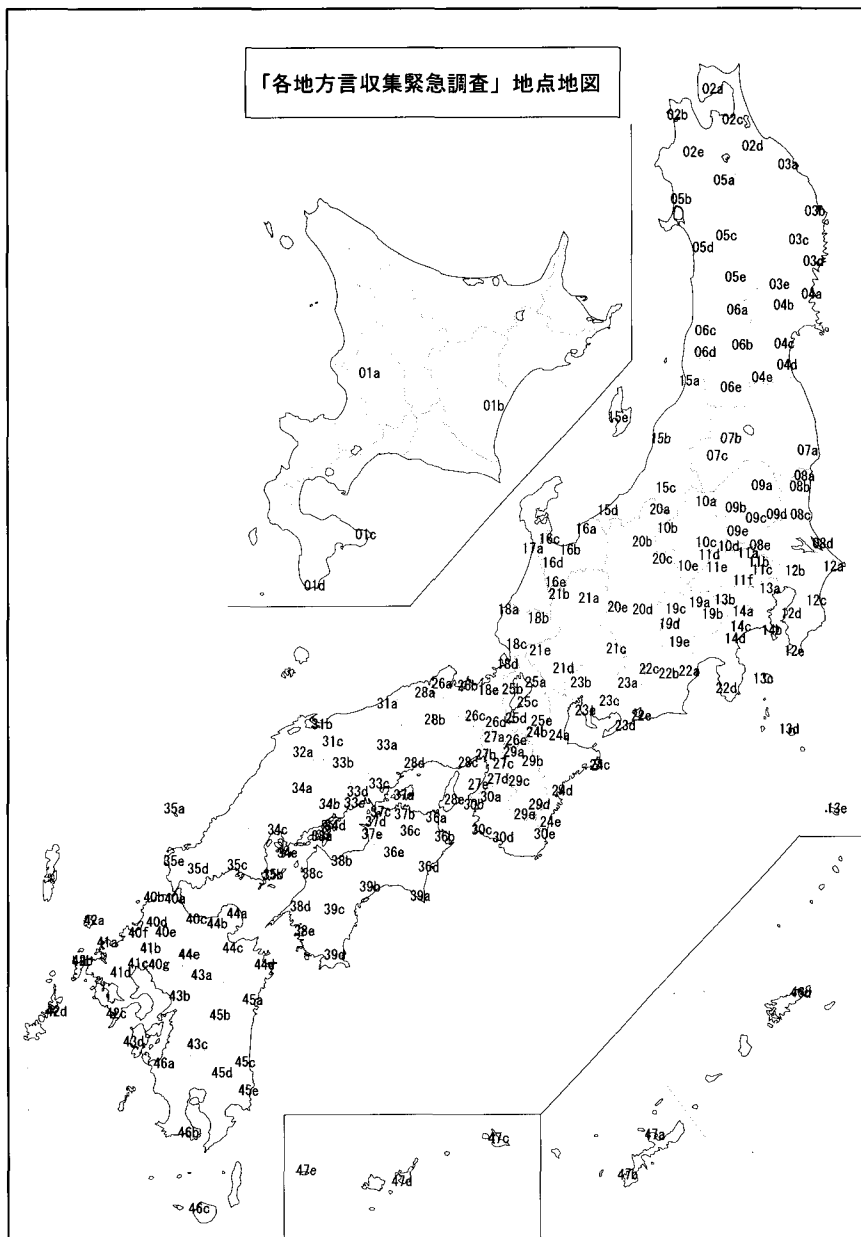
47b 那覇市

47c 平良市

47d 石垣市

47e 八重山郡与那国町

「各地方言収集緊急調査」地点地図



(2001. 10. 01作成)

各地方言収集緊急調査補助全体計画

56.7.29.

1. 年次計画

年度 計画	52	53	54	55	56	57	58	59	60	備考
第1次	8	8	8							
第2次		8	8	8						
第3次			6	6	6					
第4次				8	8	8				
第5次					10	10	10			
第6次						3	3	3		
第7次							4	4	4	
実施県数	8	16	22	22	24	21	17	7	4	
(千円) 予算額	6,000	12,210	18,150	18,150	18,000	15,750	12,750	5,250	3,000	

2. 調査県一覧

第1次 (S.52~54)	第2次 (S.53~55)	第3次 (S.54~56)	第4次 (S.55~57)	第5次 (S.56~58)	第6次 (S.57~59)	第7次 (S.58~60)
宮城	北海道	青森	岩手	福島	茨城	群馬
秋田	山梨	栃木	山形	埼玉	福井	神奈川
千葉	長野	東京	新潟	富山	鳥取	京都
石川	山口	岐阜	奈良	愛知		兵庫
大阪	香川	静岡	島根	三重		
広島	佐賀	岡山	福岡	滋賀		
高知	大分		長崎	和歌山		
鹿児島	沖縄		熊本	徳島		
				愛媛		
				宮崎		
8 県	8 県	6 県	8 県	10 県	3 県	4 県

各地方言収集緊急調査費国庫補助要項

昭和54年5月1日

文化庁長官裁定

(昭和62年6月1日廃止)

1. 趣旨

全国的に急速に変化し、失われつつある各地の方言を各都道府県において、緊急に調査し、これを記録・保存するために要する経費について国が行う補助に関し、必要な事項を定めるものとする。

2. 補助事業者

補助事業者は、都道府県とする。

3. 補助対象事業

補助対象となる事業は、当該都道府県内における各地の方言を調査（録音採集・文字化）する事業とする。

4. 補助対象経費

補助対象となる経費は、次に掲げる経費とし、その明細は別紙のとおりとする。

主たる事業費

調査経費

5. 補助金の額

補助金の額は、補助対象経費の2分の1以内の定額とし、750千円を最高限度額とする。ただし、沖縄県については、別途協議して定めるものとする。

(別紙)

名称	対象経費の区分	項	目	目の細分	説 明	
各 地 方 言 収 集 緊 急 調 査 事 業	主 た る 事 業 費	調査経費	各地方言収集調査	報償費	調査員、調査補助員等謝金	
				旅費	〇〇謝金	資料
					〇〇文字化謝金	
					〇〇協力謝金	
				需用費	普通旅費	野帳等文具、録音用テープ
					費用弁償	
					特別旅費	
				役務費	消耗品費	調査報告用紙
					印刷製本費	
					会議費	
使用料及び賃借料	通信運搬費	企画委員会打合会				
	会場借上料					
	器具借上料					
委託料	〇〇委託費	郵便、電信電話料等				
					事業の一部を委託して実施する場合（特に認められた場合に限る）	

各地方言収集緊急調査実施要領

昭和52年 7 月28日

文化庁次長 決 裁

「各地方言収集緊急調査補助金」の運用に当たっては、文化庁文化財補助金交付規則及び各地方言収集緊急調査補助要項に定めるもののほか、この実施要領によるものとする。

1. 地点の選定

文化庁及び地元方言研究者の意見を聴いて各都道府県（以下「県」という。）教育委員会が選定するものとする。

方言区画的にいくつかの区域に分かれる県においては、県下の方言の状況が概観できるように、それぞれの区域から収録地点を公平に選ばなければならない。また、離島など、特色の認められる方言は、可能な限り収録するよう努めなければならない。

2. 録音内容・話者

ア 老年層話者による会話

収録内容——次の3種類の対話又は会話を収録する。

(1) 老年層の男女各1人による対話、又は、男女を含む3人の会話

(2) 老年層の男性2人の対話、又は、老年層の男性3人の会話

(3) 老年層の女性2人の対話、又は、老年層の女性3人の会話

話者の年齢など——原則として、収録時において60歳以上とし、やむを得ないときは55歳以上でもよい。発音その他の障害がなければ高齢者でも差し支えないが話者相互の年齢が離れすぎてはいけない。また、話者相互の立場等もほぼ対等であることを原則とする。

話者の居住歴——その土地で生まれ育ち、よその土地に住んだことのない、あるいは、その期間が短い（在外期間は3年以内が望ましい。）人とする。よその土地から嫁入り、婿入りした人は採らない。ただし、女性については、他に適当な人が求められないときは、近隣地域から嫁入りした人でも、収録地点との間に大きな方言のちがいが認められない場合は差し支えない。

司会者——主たる話者のほかに、話の引き出し役としての司会者が必要である。司会者は、あらかじめ地域・話者に見合った適切な話題を用意し、会話の円滑な進行に努める。司会者の性・年齢は問わない。

話題——自由。一般的には、「調査地の現況・変遷」「気候」「天災などの思い出」「こどものころの遊び」「仕事（土地の生業・出かせぎなど。）」「家事」「こどもの養育」「生活の変遷」「生活の中の楽しみ」「自慢話」「衣」「食」「住」「婚礼などの風俗」「信仰」「年中行事」「村の将来」「若者観」などが考えられる。

イ 老年層と若年層との会話

収録内容——老年層の男性と若年層の男性との対話、又は、両者を含む3人の話者の会話を収録する。

話者の年齢など——老年層については前項アに準ずる。若年層については、原則として

20～30歳代とする。話者相互の立場などはほぼ対等であることが望ましい。

話者の居住歴——老若ともアに準ずる。

ウ 目上の者と目下の者の会話

収録内容——目上、目下の関係にある老年層の男性2人による対話を収録する。対話の具体的な人物像として、たとえば、僧侶対その檀家に当たる人物、その土地出身の教員又は元教員（校長又は元校長等）対教え子又はその土地の一般的職業（農業、漁業等）に従事している人物（父兄）等が考えられる。

話者の年齢——目上、目下とも60歳以上を原則とする。

話者の居住歴——原則として前項アに準ずる。ただし、目上に当たる者については、在外期間の比較的長い人物を登場させなくてはならない場合もあるので、アの条件（在外歴3年以内）から若干逸脱してもやむを得ない。

エ 場面設定の会話

目的と方法——自然会話では得にくい各種の表現を得ることを目的として、特定場面を設定し、話者に「演技的対話」をさせる。

場面の内容——各種のあいさつ（訪問・辞去・道でのあいさつ・出産・婚礼・葬式）や依頼・指示・助言・買物・勧誘等の各種場面を設定する。具体的には、文化庁と各県教育委員会が協議して全国共通の数場面を設定し、各場面の録音量は、1～3分程度とする。

話者——場面に応じて老年層の男性どうしの対話、老年層の男性対同女性の対話等を行う。

オ 民話

民話の語り手が存在する地点で収録を行う。

3. 録音機・録音技術

必ず、ステレオで録音することとし、テープは、オープン、カセットのいずれでもよい。この調査は、自然な方言会話を良い録音で収録し、それを後世に残すことが主要な目的であるからその点について十分配慮しなければならない。

録音機の操作は、録音技術に習熟した者が行い、会話の進行中は収録に専念しなければならない。なお、良質の録音を得るための基本的な留意点は次のとおりである。

① 雑音の少ない静かな部屋で録音する。足音、とびらの開閉音、机などへの衝撃音（湯飲みを置く音など）、紙をめくる音などは意外に大きな雑音として録音されるので注意すること。

② 内蔵マイクを使用すると良質の録音を得られないので、必ず外部マイクを接続すること。外部マイクは録音機本体から30cm以上離して配置すること。

③ マイクはなるべく話者の近くに配置し、どの話者の音声も十分な音量で録音できるよう配慮する。話者によって声の大きさにかかなりの差があることが多いので、この点に注意してマイクを配置すべきである。

録音の際には、音量メーターの針が十分に振れるよう注意すること。

④ テープを入れ替える際の無録音状態を避けるため録音機は2台使用すること。

⑤ カセットテープは短いもの（往復90分もの又は60分もの）を使用すること。

4. 文字化原稿の作成・表記

文字化用紙は文化庁が定めた様式のものを使用すること。

表記は原則としてカタカナ書きとし、方言の音声的特徴をある程度表しうるよう工夫する。ただし、文字化担当者が国際音声符号又は音素符号を用いた方が便利であると判断した場合はその表記でもよい。文字化の際には、共通語訳を付けるとともに場面、文脈、特徴的音声、方言形の語義・用法などについての注釈をも付ける。

5. 収録地点の概観、話者の経歴・録音内容の記録

収録地点の位置・交通、地勢・行政区画（旧藩領を含む）の変動・戸数・人口・主な産業などを記録する。

また、話者の経歴、録音内容などについては、「録音内容記録票」に録音のつど記入する。

各地方言収集緊急調査の実施について

54.5.10.

1. 調査（方言収録）の年次計画（（ ）は実施要領・文字化の時間数）

○ 第1年次

- ① 老年層の男女各1人による対話，又は，男女を含む3人の会話（アの(1)・2時間）
- ② 老年層の男性2人の対話，又は，老年層の男性3人の会話（アの(2)・1時間）

○ 第2年次

- ① 目上の者と目下の者の会話（ウ・2時間）
- ② 老年層の女性2人の対話，又は，老年層の女性3人の会話（アの(3)・1時間）

○ 第3年次

- ① 老年層と若年層との会話（イ・1時間）
- ② 場面設定の会話（エ・1時間）
- ③ 民話（オ・1時間）

（注）3年次の「③ 民話」の収録不能のときは，2年次の「目上の者と目下の者の会話」の女性2人の会話を収録

2. 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

- ・正……収録した生のテープ 1部
- ・副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2部

(2) 文字化原稿

- ・正……手書き原稿 1部
- ・副……正のコピー 2部

3. 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

NO. <u>正</u>	
○ ○ 県	—○ (副)
各地方言収集緊急調査録音記録票	
1 採録地点	補助要項 の記号
2 採録年月日	
3 話題・時間	A面 () 分
	B面 () 分
4 話者	
5 採録機種	

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B 4 板目紙）を付けて綴ってください。

○	○
〇〇県（昭和 年度）	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
（正） 又 は 副	
調査地点 〇〇〇〇	

(3) 文字化原稿の用紙

- | | | |
|------------|---|----------|
| ① 録音内容記録票 | } | （別紙のとおり） |
| ② 方言資料割付用紙 | | |
| ③ 方言調査解説用紙 | | |

調査実施上の留意事項について

1 調査（方言収録）の年次計画

年次	調査の内容（記号は実施要領による）	採録時間	解説・文字化時間
1 年次	① 老年層の男女各 1 人による対話，又は，男女を含む 3 人の会話（ア－（1））	10	2
	② 老年層の男性 2 人の対話，又は，老年層の男性 3 人の会話（ア－（2））		1
2 年次	① 目上の者と目下の者の会話（男性 2 人）（ウ）	10	2
	② 老年層の女性 2 人の対話，又は，老年層の女性 3 人の会話（ア－（3））		1
3 年次	① 老年層と若年層との会話（イ）	10	1
	② 場面設定の会話（エ）		1
	③ 民話（オ）		1
	（民話が収録できないときは，（注）参照。）		
計		30	9

（注）

民話の適当な語り手が存在しない場合などのため，収録が不可能な地点は，老年層の男性（目上）と老年層の女性（目下）の 2 人の対話を収録する。その際の話題は自由であるが，長上者に対する女性の丁寧な表現が収録できるよう配慮していただきたい。

2 調査報告書の提出部数

(1) 録音テープ

正……収録した生のテープ 1 部

副……文字化部分のテープ（正テープより文字化部分を複製したもの。） 2 部

(2) 文字化原稿

正……手書き原稿 1 部

副……正のコピー 2 部

3 調査報告書の様式等

(1) 録音テープの記録票

〇 〇 県		NO. <u>正</u> 一〇
		(副)
各地方言収集緊急調査録音記録票		補助要項 の記号
1	採録地点 _____	
2	採録年月日 _____	
3	話題・時間 A面 _____ () 分 B面 _____ () 分	
4	話者 _____ _____ _____	
5	採録機種 _____	

テープの
ケース箱に
張り付ける
ようにして
ください。

(2) 文字化原稿の表紙

文字化原稿は、各調査地点ごとに、(1) 録音内容記録票、(2) 収録地点とその方言の特色等解説（初年次のみ）、(3) 録音文字化原稿の順で表紙（B 4 板目紙）を付けて綴ってください。

〇	〇
〇〇県（昭和 年度）	
各地方言収集緊急調査 文字化原稿	
(正) 又 は 副	
調査地点	〇〇〇〇

(3) 文字化原稿の用紙

- | | | |
|------------|---|--------|
| ① 録音内容記録票 | } | 別紙のとおり |
| ② 方言資料割付用紙 | | |
| ③ 方言調査解説用紙 | | |

(用紙の印刷発注については、国語課でまとめて行いますので必要部数を御連絡ください。)

4 文字化原稿の記入について (国語研・言語変化研究部でまとめたもの)

- (1) 原稿用紙には、「方言資料割付用紙」と「方言資料解説用紙」の2種類があり、「割付用紙」には録音内容の文字化と標準語訳を、「解説用紙」には収録地点の概観、収録方言の特色、表記法についての説明、文字化内容についての注記などを記入する。
- (2) 原稿用紙への記入は黒インキを用いる。(青インキは不可。)

割付用紙への記入

- ① 割付用紙の第1ページには、タイトル(録音内容を代表するようなもの)、話し手の略号・氏名・性・生年を記入し、一段あけて、録音内容の文字化・標準語訳を記入する。(記入例参照)
- ② 割付用紙の左端の「[]」には話し手の略号を記入する。
- ③ カウンターつきの録音機を使用した場合は、その番号を所要所に鉛筆で薄く記入しておいていただきたい。
- ④ 文字化の表記について

ア 文字化は文節単位に分ち書きとし、各センテンスの末尾に句点「。」、「,」を打つ。読点は文字化部分には原則として付けない。なお、談話文における文の認定は方法的に多くの問題があるが、あくまで便宜的なものとしておく。

イ 改行は話し手が交替した部分で行う。

ウ 文字化は原則として表音的カタカナ表記による。これは、利用者の便宜、文字化作業の能率などを考慮してのことである。ただし、対象とする方言の性格によって、カナ表記では特殊な字母を多数必要とし、かえって煩雑になると判断される場合は、国際音声字母による表記を用いてもよい。徹底した音韻(音素)表記は採らない。これは、音韻レベルの表記では捨象されることのある特徴的な方言音声や、自然会話にしばしば現われる無造作な発音、また、標準語的な発音の混入などを、解釈を加えずに、音声学的に記述しようとする意図による。なお、カナはあくまでも簡略音声表記として使用するわけであるから、それぞれのカナで表わす具体的音声の範囲については、解説(表記法の項)で説明しておいていただきたい。

エ 長音、鼻音、あるいは特徴的な方言音声をカタカナによって表わす場合、原則として次の方式によってほしい。

(ア) 長音には「ー」の印を用いる。

例 オハヨー

(イ) ガ行鼻音は、カ° キ° ク° …のように表わす。

例 カカ°ミ [kaŋami] (鏡)

(ウ) 鼻音化には「ン」(上つき小字のン)を用いる。

例 マンド [mãdo] (窓)

カンゴ [kãgo] (籠) —高知方言などー

(エ) 合拗音の [kwa] [gwa] はクワ、グワのように表わす。

例 クワジ [kwaʒi] (火事) —九州方言などー

(オ) [ʃe] [dʒe] はシェ、ジェのように表わす。

例 シェナカ [ʃenaka] (背中) —九州方言などー

(カ) [ti] [di] はティ、ディ, [tu] [du] はトゥ、ドゥのように表わす。

例 トウキ [tuki] (月) —高知方言などー

(キ) [ɸa] [ɸi] [ɸe] …はファ、フィ、フェのように表わす。

例 フェンビ [ɸẽbi] (蛇) —奥羽方言などー

(ク) [je] の音はイエで表わす。

例 イェダ [jeda] (枝) —九州方言などー

(ケ) [æ] [kæ] [sæ] …はアエ、カエ、サエのように表す。

例 アカエー [akæ:] (赤い) —岡山方言などー

(コ) [ɛ]~[kɛ] [sɛ] …はエア、ケア、セアのように表わす。

例 アゲア [agɛ] (赤い) —奥羽方言などー

上に示した以外の特殊な音声の表記は報告者が適宜くふうするか、あるいは、一般的な字母を使用しておき、そのつど注記欄で説明する。

例 キモノ^(注)→注 [kçimono]

オ アクセント、文末イントネーションの記述の有無は、その表記法を含め、担当者にまかせる。

カ 発音や録音が不明瞭なため聴き取りが困難な箇所には_____線を付けておく。

例 カステクレアー

キ 幾様にも聞こえる場合には仮にそのうちのひとつを_____線付きで記述し、他の「聞こえ」を記述欄に記す。

例 カステクレアー^(注)→注 「カステクロエ」または

「カステクロヤ」とも聞こえる。

ク 聴き取りが困難な箇所はなるべく話者や現地協力者にあたって確かめる。ただし、最終的には文字化担当者がそのように聞こえると判定した結果を記述する。話者などが主張する(意識する)発言内容と録音された音声の「聞こえ」とが一致しない、すなわち、話者が主張するようにはどうしても聴き取れない場合もありうるが、このような場合には、文字化担当者に「聞こえる音声」を_____線付きで記述し、話者などが主張する内容は注記欄に記す。

例 ボカー^(注)→注 話者は「ボクワ」と言っていると主張。

ケ 最終的に聴き取り不能の箇所には、_____線のみを記しておく。

⑤ 言いよどみ、言いかさなり、言いなおし、笑い声など。

ア 言いよどみは、その末尾に…線を付ける。

例 オフロ サキカ。 タベルノ サキ…。

イ 発言の途中で他の者が口をはさんだ場合には、次のように()を利用し、発言

が重複する部分に 線を付ける。

例 A ヒルママデ マズ スコ^トモ オエッカラッテ

(B ンダケンド オレアー) アト スク^イ モツテクッカラ

ウ 重複部分が長い場合や、一人の発言が終わらないうちに他の者が話しはじめたような場合には、改行して、重複部分に 線を付ける。

例 A アー バサマ オチャ ダシェ マズ。 チョイット
ナカ^ス キター。

B イヤ イソカ^ス スィンダテ キョーノー。

エ 言いかけて、それを言いなおした場合には、言いかけた部分に××××を付ける。

例 アノー ワズカナ ゴ ゴジュー

×× ×××××

ゴジューエングラエージャッタカー。

オ 笑い声などは文字化本文中に（ ）に入れて記す。

例 ウレシーナー (笑)

- ⑥ 標準語訳は漢字平がなまじりの表記とし、それぞれの文節に対応する逐語訳を心がける。逐語訳であるために全体の文脈がつかみがたいと判断される場合には、注記欄でさらに説明する。文末詞や待遇表現などは訳のつけかたがむずかしいが、標準語訳はあくまでも内容理解の手がかりと考え、訳しかたが問題となるような箇所については、なるべく詳しい注記を付けるよう心がける。

- ⑦ 注記について

ア 「割付用紙」には注記番号のみを（ ）に入れて記し、注記内容は「解説用紙」に記入する。

イ 注記は、音声の特徴、基本的な語形（無造作な発音により語形が崩れている場合など）、方言形の意味・用法・語源、民俗的事象（話題にのぼった民具・行事など）、文脈のねじれ、標準語訳についての補足、話し手の動作（うなずき・手ぶりなど）などについて行う。とくに、方言形の意味・用法については、できるだけ多くの箇所に注を付けてほしい。

解説用紙への記入

解説用紙には次の事項を記入する。

A 収録地点とその方言について

1 地点名

2 収録地点の概観（位置・交通・地勢・行政区画の変動・戸数・人口・主な産業など）

3 収録した方言の特色

① 方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

② 音韻上の特色（モーラ表・音声の特徴）

③ 文法上の特色（要点のみ。簡条書き）

4 その他（地点選定の理由、協力者の氏名、協力内容など）

B 表記について

それぞれの符号（カナ・音声符号）で表わす具体音声の範囲、特殊な表記についての

説明，判断に迷った微妙な音声の処理原則など。

C 収録内容の概説，注記など

- 1 タイトル（「割付用紙」の冒頭に記したもの）
- 2 録音年月日
- 3 録音場所
- 4 話し手の氏名・性・生年・職歴・役職歴・居住歴・言語的特徴（方言保有度・話し好きかどうか・早口か等）など。（話し手の性・生年は割付用紙にも記入）
- 5 録音環境（同席者・話の進行状況・場の雰囲気など）

なお，A，B，Cはそれぞれページを改めて記入する。Cはタイトルが変わる際に改ページを行う。

「全国方言談話データベース」について

「各地方言収集緊急調査」報告資料は、方言の使用実態を解明する貴重なデータであるとともに、急速に失われつつある各地の伝統的方言を、文化財として記録・保存するという意味においても意義のあるものである。

いくつかの教育委員会が、この資料の一部を用いて、独自に報告書を刊行している。ただし、市販されているわけではないので、一般には入手しにくい。また、その形態は印刷物であり、電子化された文字化テキストを備えたものはない。録音テープを添付しているものも少数である。その他の資料については、未公開であった。

その後、「各地方言収集緊急調査」報告資料は、文化庁から国立国語研究所に移管された。国立国語研究所では、受け継いだ録音テープ・文字化原稿を有効に利用するために、膨大な報告資料を整備して、方言談話の大規模なデータベースを作成し、公開するという計画を開始した。

平成8(1996)～12(2000)年度には、一般研究課題「方言録音文字化資料に関する研究」において、報告資料の一部を用いたケーススタディ的研究を行った。担当研究室は、情報資料研究部第二研究室(当時)、担当者は、井上文子であった。所外研究委員として、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行った。

平成13(2001)年度からは、「日本語情報資源の形成と共有のための基盤研究」というプロジェクトの一環として、全国方言談話データベースの作成と公開に取り組んでいる。担当部門・領域は、情報資料部門第二領域、担当者は、井上文子(情報資料部門第一領域)である。所外研究委員として、佐藤亮一氏(東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所)、江川清氏(広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所)、田原広史氏(大阪樟蔭女子大学学芸学部)、真田信治氏(大阪大学大学院文学研究科、元国立国語研究所)に委嘱を行っている。

その一方で、平成9(1997)～13(2001)年度には、作成データベース名「全国方言談話資料データベース」、作成委員会名「全国方言談話資料データベース作成委員会」として、また、平成14(2002)年度からは、作成データベース名「全国方言談話データベース」、作成委員会名「全国方言談話データベース作成委員

会」として、科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）の交付を受け、音声資料、文字化資料を電子化する作業を進めている。作成委員長は、佐藤亮一氏（東京女子大学現代文化学部、元国立国語研究所）であり、「各地方言収集緊急調査」当時、国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長として、調査の計画段階から指導・助言にあたり、調査および報告資料の全体像を把握している。作成委員としては、江川清氏（広島国際大学人間環境学部、元国立国語研究所）、田原広史氏（大阪樟蔭女子大学学芸学部）、井上文子（国立国語研究所情報資料部門第一領域）が担当している。平成13(2001)年度には、「全国方言談話データベース」の公開を開始した。

なお、このデータベースの作成事業で受けた、科学研究費研究成果公開促進費（データベース）は下記のとおりである。

年度	課題番号	補助金交付額
平成9年度	57	1,800,000円
平成10年度	64	1,800,000円
平成11年度	501027	1,800,000円
平成12年度	128032	2,800,000円
平成13年度	138031	4,600,000円
平成14年度	148034	5,200,000円
平成15年度	158043	6,100,000円

「各地方言収集緊急調査」報告資料については、日本全国の47都道府県でそれぞれ5地点程度、計200地点あまりにおける、約4000時間にも及ぶ方言談話の録音テープと、その一部を文字化した原稿が残されている。昭和52(1977)～60(1985)年度当時の老年層話者の自然談話が中心であるので、現在においては急速に失われつつある伝統的方言が比較的良好に残されているものと考えられる。

これらの報告資料をすべてデータベース化するのが理想ではあるが、膨大な資料を一気にデータベース化するのは困難であるので、段階的に公開を行うことにする。

今回刊行する『全国方言談話データベース』では、まず、第一段階として、

各都道府県につき1地点、計47地点の老年層男女の自然会話を選び、その地の伝統的方言がもっともよく現れていると思われる部分を30～50分程度データベース化した。

データベース化のためには、次のような作業が必要であった。

- ①録音テープには、正が1本、副が2本ある。正は収録したオリジナルのテープ、副は正より文字化部分のみを編集したもので、いずれも60分または90分のカセットテープである。正をデジタル化し、複製を作成する。
- ②文字化原稿には、正が1部、副が2部ある。正は、文化庁指定のB4判の用紙を使用した手書き、副は正のコピーである。正の文字化、共通語訳をパソコンにテキストデータとして入力する。この時点では、できる限り正の文字化原稿に忠実に行う。
- ③文字化原稿の収録地点、話者、収録内容、状況記録などの確認をし、その文字化原稿に対応する録音テープの録音状態などの確認を行う。
- ④今回刊行するものでは、老年層男女の自然談話のうち、各都道府県につき1地点30～50分をめやすとして、データベース化部分に選定する。
- ⑤データベース化する部分の文字化テキストと、それに対応するデジタル録音音声を抽出する。
- ⑥音声データをもとに、文字データの明らかな誤りなどを修正する。原則としては、原資料の文字化原稿に従って行うが、見やすさを優先させたり、全体の統一を図ったりするため、必要に応じて変更を加える。この作業は、その地域の方言を専門とする研究者に依頼する。
- ⑦記号の種類と使い方、句読点、分かち書きなどについて、凡例を作成する。『全国方言談話データベース』における表記・形式は、見やすさや全体の統一のため、必要に応じて変更を加えているので、「各地方言収集緊急調査」当時のマニュアルに記載されているものとは部分的に違いが生じている。
- ⑧文字化データに沿う形で、注記を整える。原則としては原資料に従って行うが、場合に応じて最低限の変更を加える。
- ⑨収録地点の概観、方言の特色などの解説については、原則としては原資料に従って行うが、全体の統一を図るため、表記・章立てなどについて、最低限の変更を加える。

- ⑩調査の概要、収録した談話内容・地点・場所・日時などの情報、話者の性別・年齢・職業などの情報をまとめる。
- ⑪校正を行った文字データをもとに、文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを作成する。さらに、それを pdf ファイルにする。
- ⑫文字化と共通語訳を２段組に対照させたファイルを用いて、文字化の text ファイル、共通語訳の text ファイルを作成する。
- ⑬音声データは、デジタル化した後、サンプリングレート、音声ファイル形式などの調整を行い、音声 wave ファイルを作成する。そして、それを文字化と共通語訳を２段組に対照させたページに従って、ページ単位に切り、文字化・共通語訳の pdf ファイルにリンクさせる。
- ⑭CD-ROM は、データベースソフトを利用して、文字化・共通語訳の文字列による検索、話者による検索などができるようにする。
- ⑮CD には、トラックに区切った談話全体の音声を収録する。
- ⑯録音テープ・文字化原稿が所在不明の地点については、必要に応じて、現地に赴き、収録担当者・教育委員会・図書館・関係者の協力を仰ぎながら、入手に努める。
- ⑰「各地方言収集緊急調査」の話者・収録担当者・文字化担当者・解説担当者などには、可能な限り、文書でデータ公開の通知と確認を行う。
- ⑱作成過程において、ある程度のデータが蓄積された段階で、CD-ROM、または、音声はカセットテープ・MD、文字はFDを媒体とした試作版を作成し、モニターに依頼して意見・要望を求め、データベースに反映させる。
- ⑲検索情報の整備、検索マニュアル、利用規程などの作成を行う。

『全国方言談話データベース』全20巻の各巻は、冊子、CD-ROM、CD から成り、方言談話の音声（wave ファイル）、文字化（カタカナ表記、text ファイル）、共通語訳（漢字かなまじり表記、text ファイル）、文字化・共通語訳を２段組に対照させたもの（冊子、pdf）などを収録している。従来にはあまりなかった、音声、文字化、共通語訳の電子化データを備えているので、研究や教育のために加工して、自由に検索することができるという特徴がある。

刊行にあたっては、国立国語研究所における『全国方言談話データベース』

刊行物検討委員会で最終的なチェックを行った。委員長として、熊谷康雄（情報資料部門），委員として、熊谷智子（研究開発部門第二領域），三井はるみ（研究開発部門第二領域），井上優（日本語教育部門第一領域），井上文子（情報資料部門第一領域）が担当した。

なお，刊行計画は下記のとおりとなっている。

書名：『国立国語研究所資料集 13-1～20 全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』全20巻

各巻：冊子1冊 A5判 約200ページ，CD-ROM1枚，CD1枚

巻数	巻名	ISBN	刊行順
第1巻	北海道・青森	4-336-04361-2	15
第2巻	岩手・秋田	4-336-04362-0	16
第3巻	宮城・山形・福島	4-336-04363-9	17
第4巻	茨城・栃木	4-336-04364-7	4
第5巻	埼玉・千葉	4-336-04365-5	5
第6巻	東京・神奈川	4-336-04366-3	6
第7巻	群馬・新潟	4-336-04367-1	7
第8巻	長野・山梨・静岡	4-336-04368-X	12
第9巻	岐阜・愛知・三重	4-336-04369-8	13
第10巻	富山・石川・福井	4-336-04370-1	14
第11巻	京都・滋賀	4-336-04371-X	1
第12巻	奈良・和歌山	4-336-04372-8	2
第13巻	大阪・兵庫	4-336-04373-6	3
第14巻	鳥取・島根・岡山	4-336-04374-4	11
第15巻	広島・山口	4-336-04375-2	10
第16巻	香川・徳島	4-336-04376-0	8
第17巻	愛媛・高知	4-336-04377-9	9
第18巻	福岡・佐賀・大分	4-336-04378-7	18
第19巻	長崎・熊本・宮崎	4-336-04379-5	19
第20巻	鹿児島・沖縄	4-336-04380-9	20

国立国語研究所資料集13-15

全国方言談話データベース
日本のふるさとことば集成

第15巻 広島・山口

2003年12月30日 発行

編集：国立国語研究所

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

TEL：03-3900-3111（代表）

FAX：03-3906-3530（代表）

URL：<http://www.kokken.go.jp>

本書の市販品発行所

発行：国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15

TEL：03-5970-7421（代表）

FAX：03-5970-7427（営業）

URL：<http://www.kokusho.co.jp>

（平15-8）